

村岡素一郎著

日本神學新說  
完

明治廿二年十月出版

新著本成リ之ヲ某公ニ上ル書ニ擬ス

日本神學新說ノ著本完ク成リ、將ニ世ニ公ニ

セントスルニ先チ某氏ノ紹介ニ因リ、謹デ一

本ヲ下執事ニ呈ス、伏シテ冀クハ

閣下幸ニ電囑明察ヲ加ヘラレヨ。愚竊カニ念

フニ、大凡ソ始ヲ繹子本ニ歸セント欲スルノ

理念ハ、人皆具有セリ、宗教學文ノ已ムベカラ

ザル所以、蓋シ此ニ外ナラズ。今ヤ天運循環、文

兆萌發、畏クモ吾

皇祖ノ御座在マス、攸ノ玉闕、神明ノ盤遊セラル、攸ノ仙洞、即チ宿惑列星ノ狀情ヲ雲漢縹渺ノ上ニ推排シ、天荒ヲ破レリ、九重ヲ歎ケリ、想フニ僭妄ノ嫌ナキニ非ズト雖、抑モ人間ノ幸福ニ資スルトコロ少小ニアラズト信ズ。初メ此書ノ脱稿スルヤ、資本方ニ乏シク、刊行スルニ由ナシ。乃チ舊ト識ルトコロノ書肆某ニ就キ、切ニ之ヲ請托セリ、肯テ諾ハズ、去テ他ニ之ク亦復タ然リ、展轉走趨、六七肆ニ及ベリ。

大類子咸ナ云フ、今ヤ世ノ好尚、政治法律若クハ小説ニ在リ、神學書ノゴトキハ、時好ニ適セズ、況ンヤ國書ヲヤ、某商賈輩ハ、只利コレ圖ルノミ、其他ヲ知ラズト。是ノ時ニ當テ、四顧冷索、復タ愬フルトコロナク、暗愁坐口ニ動ケリ。適々有志ノ士、猪瀨傳一ナル者、愚ガ志ヲ憫ミ、費ヲ捐テ情ヲ盡シテ、委曲周旋スルニ會フ、於是乎、宿望始メテ就レリ。

夫レ惟フニ、天龍ノ空シク彫畫ノ表ニ寫サル

ヤ、好事者之ヲ翫フ、葉公一タビ眞物ヲ觀テ、  
 驚起棄去レリ。美玉ノ尙ホ璞石中ニ韜マル、  
 ヤ、樵牧ハ、弃テ顧ミズ、楚賢獨リ之ヲ鑒識シ、其  
 璧ヲ抱テ泣ケリ。眞理ノ世ニ於ルモ、亦猶ホ此  
 クノゴトシ、其表坊者ノ、或ハ轆軻不遇、以テ其  
 身ヲ終ヘ、或ハ爲メニ無辜ニ罹リ、奇禍ニ遭逢  
 スルモノ、古今東西、往々有之。不肖  
 謹デ按ズル  
 ニ吾古事記ノ書タルヤ、千古未發ノ天竅ヲ煥  
 發シ、宇内無比ノ神光ヲ蘊蓄シ、宇宙六合ノ形

態結構、鑿々トシテ視ルベク、天上泉下ノ光景  
 事蹟、歴々トシテ窺フベシ、一タビ之ヲ玩味ス  
 レバ、神思勃發、暗疑消融シ、矯然飛龍ニ騎シテ、  
 塵寰ヲ出デ、廓然明犀ヲ燭シテ、水中ヲ探ルガ  
 ゴトキヲ覺フ。顧フニ輓近、歐西ノ文學ハ、眞理  
 ノ天鑰、雲梯ヲ仰望スルコト、蓋シ日アリ、而シ  
 テ稍々其望ヲ我日東ノ舊典古史ニ屬スルモ  
 ノアルコトハ、人ノ知ルトコロナリ。乃チ此ノ  
 我神典タル、正ニ以テ人界ノ微柙積塵ヲ披キ、

天上ノ靈洞莊嚴ヲ覘フニ足レルモノニシテ、眞ニ人間ノ寶典ト謂ハザルヲ得ズ。吁我神典ノ眞ヲ彰ハシ光ヲ放ツコト、特ニ吾國ノ爲メ而已ニアラズ、宇内ニマデ其關繫ヲ有セリ。而シテ人々之ヲ高閣ニ束テ、拋擲スルニアラザレバ、索隱憑空、信ズルニ足ラズト爲ス、泣且惟マザラント欲スルモ、得ベカラズ。不肖伏シテ惟レバ、

聖天子九五ニ登御在マシ、中興以還、開明日ニ進

ミ、福社月ニ加リ、百度皇張シ、紀綱整肅、復タ一ノ遺算缺漏アルコト靡キガゴトシ、孰レカ隆郵ヲ祝セザラン、孰レカ萬歳ヲ唱ヘザランヤ。而シテ彼ノ祭教ノ事ニ至テハ、未ダ必ズシモ歎然ナシト謂フベカラズ。現今我邦宗教ノ形勢タルヤ、萎靡零丁、廢潰滅裂、清輝抹殺、雲行黯澹タリ、其底極スルトコロ、得テ知ルベカラズ。而シテ祭教ノ國家ニ於ル、一日モ無ルベカラズ、而シテ其祭教也者、必ズ自國固有ノ教道ニ

藉ヲザルベカラズ。夫レ我邦固有ノ教道ナク  
 ンバ則チ巳ン、苟モ純粹灼爍ナル、宇内無比ノ  
 教典ヲ有シナガラ、諸ヲ瓦甃ニ混ジテ琢磨セ  
 ズ、諸ヲ凡彙ニ廁ヘテ氣ヲ吐カシメザルコト、  
 愚敢テ其可ナルヲ知ラザルナリ。是レ獨リ夫  
 下後昆ノ憾ヲ遺シ、海外博雅ノ望ヲ空フセシ  
 ムルノミニアラズ、

神孫神統ノ天壤ト無窮ナル所以、神州蓬萊國ノ  
 他邦ニ卓越スル所以、其レ將タ何ヲ以テ之ヲ  
 四海萬邦ニ宣揚スベキ。且ヤ造化ノ恩慈ナル、  
 神祇ノ優渥ナル、更ニ新局ヲ設ケ、新ニ萌芽ヲ  
 發シ、智慧ノ府庫ヲ牖キ、幸福ノ利源ヲ加ヘ、純  
 美ノ觀念ヲ示導シ、靈活ノ能力ヲ暢達セシメ  
 給フ、天資ノ慶音ニ辜負スルヲ奈何スベキ。加  
 旃ノミナラズ、目下吾祭教ノ勸進セザルベカ  
 ラザルノ必要、一ニシテ足ラズ、女教ノ淑婉、美  
 術ノ妙趣、議堂ノ忠誠、訟庭ノ无罔、氣候ノ和順、  
 災殃ノ禳除、其他、海外ノ寄留民、海陸兵、囚獄、及

ビ大中小學ノゴトキ、其心緒ノ繫維、其氣概ノ  
 振作、其良心ノ誘掖、其懿德ノ發達等、壹ニ靈光  
 靈力ヲ仰ガザルベカラザルノ大事、已ニ切迫  
 セリ、邦家ノ樞機、其レ忽ニスベカラズ。是レ此  
 ノ撰著ノ勢、已ム能ハザルニ出ヅル所以ナリ。  
 愚ハ曩ニ乏シキヲ函館縣學務課長、竝ニ同師  
 範學校長ニ承ルコト、年アリキ、當時偶々教育  
 上、特ニ宗教ノ離ルベカラザルコトヲ感ジ、一  
 且職ヲ辭シ、逸居閑散、專ラ思念ヲ形以上ニ注

グリ歲月匆匆、業已ニ七年。而シテ愚固ヨリ淺  
 劣迂魯、敢テ大道ノ蘊奧ヲ窺フト謂ンヤ、今ニ  
 シテ斯ノ撰著アル所以ヲ回想スレバ、惘然ト  
 シテ自ラ訝リ、惕然トシテ自ラ懼ル、蓋シ神佑  
 ニ因ルニアラザレバ、焉ンゾ此ニ及ブヲ得ン  
 ヤ、慙懼交々胸ニ塞リ、感愴轉々襟ヲ襲フ。而シ  
 テ愚ガ自ラ恃ムトコロハ、特リ耿光靈爽ノ日  
 本魂ノミ、若シ夫レ他技ハ百無能、畢竟力ヲ用  
 井ルヲ屑トセズ。

抑モ大道ノ闡明、斯文ノ興隆ハ、國器良材、其人ヲ獲ルニアラザレバ、其事濟ルベカラズ。而シテ其隆替、其黜伸ハ、皆天命ニ在リ、人力其レ敢テ之ヲ奈何セシ。然リト雖、凡今ヤ千載ノ一遇、天ノ吾大道ノ爲メニ、經營慘澹、用意周到ナルノ一日ニアラザルコト、隱然知ルベシ。伏シテ冀クバ

閣下此ノ私著ヲ死骨トシテ、燕石トシテ、采擇セラレヨ。世豈千里ノ龍種ナカラシヤ、世豈連城ノ明珠ナカラシヤ、然リ、招徠セヨ、物色セヨ、必ズ珍奇逸物ノ天ヲ轟カシ、世ヲ驚カスモノアラシ。書意蕪陋、敢テ尊嚴ヲ汚ス、誠恐誠恐、頓首再拜。

一介ノ逸士

村岡素一郎

明治廿二年十月下澣



自序

輓近人智開學術進。欲闡明宇宙經歷人類起原者。相競而莫可爲津筏者。不免望洋之歎而止者。比々皆是。學者以爲憾矣。夫吾古事記之爲書也。出於天口。露乎幽蹟。其語神聖。而其旨天真。雖人間多經書。靡可以加焉者。而今之人。瞠乎不察。可勝痛惜哉。顧往昔太安萬侶。以漢字漢文撰錄之。意義失當。事理多謬。大道之湮鬱不發揮者。職此之由。嗚呼。星光爲

溟霧所蔽。茲千有餘年。暨于今。將漸披暗黑放光芒。  
抑天也時也。自今後。令斗光星影有所倍啓發。則異  
邦亦必獲俱其慶。而達彼岸矣。豈翅一國之幸乎哉。  
維時明治廿二年之秋

日本神學新說

緒言

一余ハ多年基督教ヲ信奉セリ自ラ思フニ熱心篤志敢テ他人ニ劣ラ  
ズト而シテ當初余ハ仍ホ少シク顧慮スルトコロアリシ然レモ今  
ヤ四海兄弟手ヲ握テ親交ス彼此固ヨリ問フベキニアラズ况ンヤ  
形以上ノ事ハ本ト封域ノ異同ニ拘牽セラルベキニアラザルニ於  
テチヤ又况ンヤ其山上ノ垂訓ノ莊嚴優麗人ヲシテ恍惚タラシメ  
其十字架ノ一擧ノ天真爛熳頂門ノ針砭ニ餘リアルニ於テチヤ於  
是乎余ハ斷然計ヲ決シ篤ク之ヲ信シ堅ク之ヲ操リ益スルトコロ  
亦多カリキ

余ガ同窓ノ學友ニ武居保氏アリ氏ハ信州岐曾ノ人ニシテ夙ニ東  
京ニ出テ沈潛刻苦哲理ヲ探究スルコト既ニ十有餘年躬親ヲ新機

軸ヲ出シ其發見スルトコロノ學科已ニ十餘種ノ多キニ及ベリ余ハ氏ト刎頸ノ交リアリ相遇フ毎ニ數次余ニ語ルニ我神典ノ價値アルコト宇内復々比スベキモノナキヲ以テセリ余ハ當時反駁論難輒ク之ヲ信ズルコト能ハザリキ

項者閑散ノ餘リ會々近縣下ノ僻村ニ抵テ閑居シ長日無聊曾テ一祠官ニ就テ古事記ヲ借覽シ反覆披閱十數返ニ及ベリ圖ラザリキ語々皆妙理句々皆眞諦人類ノ未々嘗テ識ラザルトコロノ妙觀古今ノ未々嘗テ悟ラザルトコロノ神理僅々千百言ノ中ニ躍如タリ余ハ榮燈ノ下之ニ對シテ憮然タルモノ久之既ニシテ討究玩索愈々出テ愈々妙ナリ凡ソ宗教ノ要領皆悉ク備ハラザルハ莫キナリ夫レ宋ノ丞相張商英氏ノ言ニ曰ク若シ世間更ニ有妙道<sub>下</sub>可以<sub>三</sub>印吾自肯之心者吾豈不能捨此而趨彼耶ト今ニシテ往事ヲ回顧スレバ深

ク他ノ窩臼ニ陥井リシヲ懣<sub>レ</sub>懣喜交々至テ措クトコロヲ知ラズ而シテ余ハ上帝及ビ神明ニ對ンテ拜謝セザルベカシズ尙シ上帝及ビ神明ノ余ガ衷ヲ啓クニアラザレバ余ノ愚蒙ナル余ノ寡聞ナル焉<sub>レ</sub>善ク此ニ及ブヲ得ンヤ吁建國以來暗晦シテ露レザルモノ漸ク今ニ及ンテ其光焰ヲ放ントス上帝及ビ神明ノ用意蓋シ其萬一ヲ窺ヒ知ルベシ聞ク西方ニ優曇華アリ一千歲ニシテ一回ビ開花スト抑モ我神典ヲ謂フカ

一本書中往々圈點ヲ附スルモノハ武居保氏ノ持説ニ係ル余ノ同氏ニ於ル友人ト曰フト雖トモ抑モ余ガ爲メニハ先覺ト謂テ可ナリ其講述スルトコロ日本理上史アリ日本教化史アリ(發免近キニ在リ)要スルニ神典以外ニ獨立シテ理趣理念ニ由テ宇宙ヲ觀察シ其歸旨自ラ神典ト揆テ同フスルニ至レルモノニシテ本書ノゴトキハ專

ヲ神典ニ基テ推覈セシモノナレバ其軀裁自ラ異同アリ蓋シ二者  
相照比シテ神典ノ絶妙益々彰々乎タルニ至ラン而シテ本書辨論  
ノ間二三ノ勢其説ヲ假ラザルヲ得ザルモノアリ其所ハ片言隻語  
ト雖也之ヲ識別シテ以テ同氏ノ説タルヲ明ニス余豈其説ヲ剽竊  
シ敢テ他人ノ權理ヲ侵掠スルニ忍ンヤ庶幾クハ德義上ノ罪人タ  
ルヲ免レンコトヲ看官請フ諒セヨ

一本書中事ノ大躰ニ關スル眼目緊要ノ處ニハ重圈點ヲ施シテ之ヲ  
標出ス

一本書ハ匆匆筆ヲ掬リ未ダ剛正ヲ加ヘズシテ上梓セシモノナレバ  
行文ノ間誤謬極メテ多カルベシ且ヤ先輩本居平田大人等ノ著書  
ヲモ熟讀セズ遺憾ナシトセズ然リト雖也嗚昔ノ解釋ハ大概無用  
ニ屬スルモノ多カラシ必竟先輩ノ學説ニ檢束セラレザリシハ僥

伴ト云フベシ

明治廿二年八月

東京ニ於テ

著者識

日本神學新說

目次

總說	一
混沌	十五
天球總說	十八
第一階級	二十三
高御室	丁
第二階級	二十七
高天 <sub>タ</sub> 原ノ上段	丁
第三階級	三十
高天 <sub>タ</sub> 原ノ下段	丁

第四階級

葦原ノ中津國

三十五丁

第五階級

葦原ノ乙國

三十九丁

天人界ノ名稱及ヒ其人種

四十一丁

現世界ノ形勢

六十一丁

禊祓

七十一丁

大國主ノ大神

七十九丁

奇魂幸魂

八十九丁

第六階級

黃泉ノ堅洲國

九十七丁

第七階級

百九丁

黃泉ノ月讀

收結說

百十九丁

日本神學新說

總說

村岡素一郎著

宇宙ノ基元及ビ其經歷ノ查察闡明ハ吾人が最モ勉メザルベカラザル  
 緊要ノ學問ナリトス原ト吾人が靈性ハ宇宙ト其命壽ヲ俱ニシ其終始  
 ナ同ウスルモノナレバ苟モ宇宙ガ如何ナル本躰ヲ具有スル乎如何ナ  
 ル秩序ニ組織セラル、乎如何ニ運動シ若クハ經過シ來リシ乎等ノ事  
 ガ諸ヲ掌ニ指スガゴトク明哲ニ會得セラル、ニアラザレバ吾人ハ自  
 己ガ靈性ノ起原及ビ其現存又未來ニ就キ茫々邈々トシテ更ニ悟覺ス  
 ルコト能ハザルベシ之ヲ彼ノ航海者ニ地圖ノ須臾モ虧クベカラザル  
 ニ譬フベシ是レ古史ノ攷窮ノ價値アルコト敢テ他ノ比スベキニアラ

ザル所以ナリ

振古以來各國大概皆其ノ史傳ヲ有セザルハ莫シ而シテ荒唐無稽信據  
スベカラザルモノ多シトス獨リ猶太ノ古典ハ世多ク之ヲ稱ス然レモ  
瓊瑾稍々多クシテ人ノ指摘ヲ免レザルニ至レリ

謹テ案スルニ我日本古史即チ古事記ハ神寰妙宇所謂不可識的ノ靈跡  
ヲ叙述シ併セテ人生ノ仁愛及ビ制裁ヨリ未來泉下ノ形況ニ至ルマテ  
具サニ備リ全ク臻リ上下幾億千萬程經過幾億千萬歲其間ノ神業神跡  
之ヲ僅々一書ノ中ニ包羅含藏セリ洵トニ驚歎スベキナリ諸ヲ喩フル  
ニ神典ノ要旨密訣ハ猶ホ金玉ノ鑛屬中ニ包含セラル、ゴトク然リ之  
ヲ探掘シ之ヲ鎔解シ之ヲ淬礪スレハ所謂造物者ノ無盡藏ナリ舊ト本  
邦ハ言靈ノ邦ト稱セルコト誠ニ然リ爰ニ我神典ハ始メテ吾人ニ啓示  
スルニ天地ハ秩序齊整トシテ七階級ニ區畫セラレ文彩斑斕トシテ七

色ニ甄別セラレ其形狀ハ恰モ渾然タル雞子ノゴトクニシテ少シク傾  
斜シテ矗立セザル妙形綺觀ナルコトヲ以テセリ上帝ノ大能造化ノ妙  
工孰レカ復々感歎頌美セザランヤ

我邦漢字アリシヨリ茲ニ一千餘年其間神秘妙訣ノ隠レテ彰ハレズ埋  
レテ出デス以テ今日ニ及ブモノハ畢竟儒ニ抑ヘラレ浮屠氏ニ壓セラ  
レシガ爲メナリト雖モ抑モ亦氣運ノ然ラシムルトコロト謂ハザルヲ  
得ザルナリ

今ヤ泰西ノ文學社會ハ宇宙ノ創造并ニ人類ノ起原ナル大問題ニ就キ  
天啓說ノ一タビ勢力ヲ失墜セシヨリ四分五裂甲論乙議空想ヲ逞ウシ  
妄見ヲ競ヒ恰モ闇行摸索群盲爭鬪ノ狀情ナルニアラズヤ茲ニ天意別  
ニ新局ヲ開ケリ盲龜ノ浮木管ノミナラザルベキナリ

抑モ神靈界ニハ必ズ階級アルベシトノ觀念ハ輓近歐西ノ哲學士間ニ



モ發生セシコト、見へ英人ヒユルソンの「死後論」ト題スル一篇ニ左  
ノゴトキ論述アリシト聞ク

彼ノ宗教者ノ説ノゴトク人類ノ履行スル道路ハ二箇ニ分レテ  
一ハ現世ニ於テ僅ニ數十年間ニ亘リ一ハ來世ニ於テ永遠無盡  
ナリト曰フハ實ニ不相當ナルモノナリ余ノ信認スルトコロテ  
以テスレバ吾人死後ノ進化ハ常ニ一層神靈的ノ存在ヲ目的ト  
シテ益進歩スルモノナリ左レバ吾人進化ノ行路ニ於テ一階級  
ニ進ム毎ニ次ノ階級ニ進ムノ豫備ヲナスコト必要ナルベシ云  
々(生死論)

蓋シ此説ハ宇宙ニハ階級幾許アリテ吾人が現ニ棲息スルトコロハ果  
シテ何階級ナルヤ等ハ臆乎トノ悟ラズ必竟空想タルヲ免レズト雖モ  
兎ニモ角ニモ幾段ノ階級アルヲラントノ感想ハ眞理ノ一斑ヲ得シモ

ノニテ日本神學ノ前驅者ト謂フベシ  
抑モ又仰テ觀俯シテ察スルニ日月星辰ノ附麗安排ヨリ山川花卉ノ明  
媚芳菲ニ至ルマデ此地球上ニスラ尙ホ且美妙ノ驚クベク喜ブベキモ  
ノ敢テ少小ナリト云フベカラズ天ニ煥乎タル文章ノ在ルアリ野ニ可  
憐ナル百合花ノ在ルアリ况ンヤ覆載ノ渾脉ニ於テテヤ試ミニ挺身乾  
坤ノ側面ニ立チ俯仰眸ヲ放テ觀一觀セヨ適ニ彩光燦爛トシテ宛然虹  
霓ト其色趣ヲ同ウスルノ一大美觀ヲ呈スベキナリ  
凡ソ物アレハ必ズ形ナキコト能ハズ形アレバ必ズ方圓長短ナキコト  
能ハズ是レ天地ニ形狀ノ無ルベカラザル所以ナリ而シテ形狀アレバ  
必ズ運動ナカルベカラズ  
何チカ天地ノ七階級ト云フヤ曰ク

第一階級(高御室) 第二階級(高天ヶ原ノ上段)

第三階級(高天ヶ原ノ下段) 第四階級(葦原ノ中津國) 第五階級(葦原ノ豐國) 第六階級(黃泉ノ根底部) 第七階級(黃泉ノ月讀)  
 何チカ天地ノ七色ト云フヤ曰ク

赤色(第二階級第三階級) 紫(天ノ浮橋) 青(第四階級) 淡青(第五階級) 綠(湖之八百重) 正黃(第六階級) 淡黃(第七階級)

即チ是ナリ其詳細ハ當ニ天球總論及ビ各階級ノ下ニ於テ之ヲ説明スベシ要スルニ此地球上舊古人文ノ開闢セシヨリ以來平和安寧ハ少ク反テ亂雜騷擾多ク滔々トシテ其底止スルトコロヲ知ルベカラザルノ潰頽ヲ馴致セシハ抑モ何故グ必竟スレバ宇宙及ビ人類ノ一大問題上未タ隔靴搔癢ノ憾ヲ免レザルモノアルニ由ル世ノ人々ニシテ苟モ宇宙ノ總觀及ビ其經歷人類靈性ノ來往スル所以ヲ諦觀了知セバ黃金時代ノ際會豈得テ企テ望ムベカラザランヤ嗚於世ハ撞々擾々情波澎湃

狂瀾山ノゴトシ今ノ人士ノ所爲ハ如何ノ豺狼ノゴトク夜叉ノゴトク復タ自己カ靈性ノ妙有タルコトヲ知ラズ徒ラニ名利ヲ是レ逐ヒ鬪進麗颯斃レテ已ムモノ有之或ハ白眼以テ世ヲ冷笑シ復タ人事ノ勉ムベク圖維スベキヲ知ラズシテ放浪自得スルモノ有之人世素ト此クノゴトク支離背馳スベキモノ歟其レ然リ豈其レ然ラン夫レ今ノ世ニ處シテハ鎚銖相爭フベシ利害計較スベシ錦衣スベシ玉食スベシ而シテ且暮心ヲ天ニ馳騁スベシ純潔自ラ率ユベシ二者兼テ進メ併セ行フコト甚タ難カラズトス夫ノ富則不仁仁則不富トハ其言ヤ抑モ僻セリ今ノ教道家ハ如何ノ其身生靈ノ浮沈國命ノ汚隆ヲ負フ大任アルコトヲ忘却シ怒猛奮獅咆哮相噬ミ却テ靈界ノ巨賊タラザルモノ幾ント希ナリ請フ試ミニ一タビ此天球七階級ノ圖ヲ取テ展閱セヨ自家ガ信奉スル教基ノ那邊ノ階級ニ掛ルヤヲ判斷スルニ於テ一目自ラ瞭然タランノ

ミ蓋シ世界ノ各宗教ガ其歸極ノ方向ニ遠近高下ノ差異アル所以ハ職  
 トシテ天球ニ數層ノ階級アルニ由ル而シテ之ヲ總括スレバ只僅ニ五  
 六種別ニ出デザルベシ其故ハ人類界ヨリ天球ノ層外ニ至ルマテテ六  
 段階トス然ラハ其ノ目的トスルトコロ畢竟此五六段階ノ外ヲ出ツベ  
 カラザレバナリ古人詩アリ安駕扶搖翼。遂出蟾蜍外。不似地上人。層々論ニ  
 盈虧ト凡ソ人界ヲ超出スルコト一層ニシテ目ヲ俯シテ瞰下スレバ人  
 事百般ノ云爲ハ蝸牛角上ノ鬪爭ニシテ啞然大笑セザラント欲スルモ  
 得ベカラズ老聃ガ仁義ヲ目シテ小ナリトスルモ實ニ左在ルコト、云  
 フベシ層一層スレバ雲外ノ又雲外出世間ノ又出世間靈光照徹神魂圓  
 融シ其ノ至味其ノ至妙ハ云ハン方ナシ仍ホ層一層進一進スレバ乃チ  
 上帝ノ寶座ナリ湛々渾々聲モナク臭モナク自由ノ最モ自由自在ノ最  
 モ自在ナルトコロタリ此ヨリ一鞭ヲ加フレバ天地ノ範圍外ニシテ無

一物無何有ノ天外彼ノ真如ト曰ヒ玄虛ト曰ヒ大極ト曰フモ本ト此ヲ  
 指斥セリ夫レ是ニ至レバ神明モナク佛陀モナク甚シキハ上帝ノ力モ  
 尙ホ虛無ニ付シ去ルベシ佛者ノ無神主義ハ蓋シ是ヨリ出ツ過高逸軌  
 ノ弊ト云フベシ方向ヲ轉シ雲梯ヲ下テ更ニ人間界ニ出ヅレバ專ラ此  
 地ヲ整理スルヲ以テ標的トスルモノアリ孔孟教若クハ歐西ノ倫理學  
 是ナリ然レモ相與ニ地上ニ躊躇シテ擧ラズ卑陋ニ庶幾シ此中ニ挺立  
 シ過高ニ流レズ卑陋ニ陥非ラザルモノハ惟々吾神道ト基督教ナルカ  
 ナ而シテ基督教ノ尙ブベキハ單ニ道義ニ在リ全體ノ結構組織ニ至テ  
 ハ則チ支離雜駁道フニ足ラズ諸ヲ屋室ニ譬フレバ居間臺所ノ措置ハ  
 最モ日用ニ便益ナリト雖モ其堂奧ニ至テハ四壁蕭寥雨漏レ月穿チテ  
 殆ント坐臥スベカラザルト同般ナリ今ノ教道家ヨ今此ノ標準ニ比照  
 シテ彼此異同ヲ判別セヨ其ノ孰レカ時期ニ適合スルヤ其ノ孰レカ時

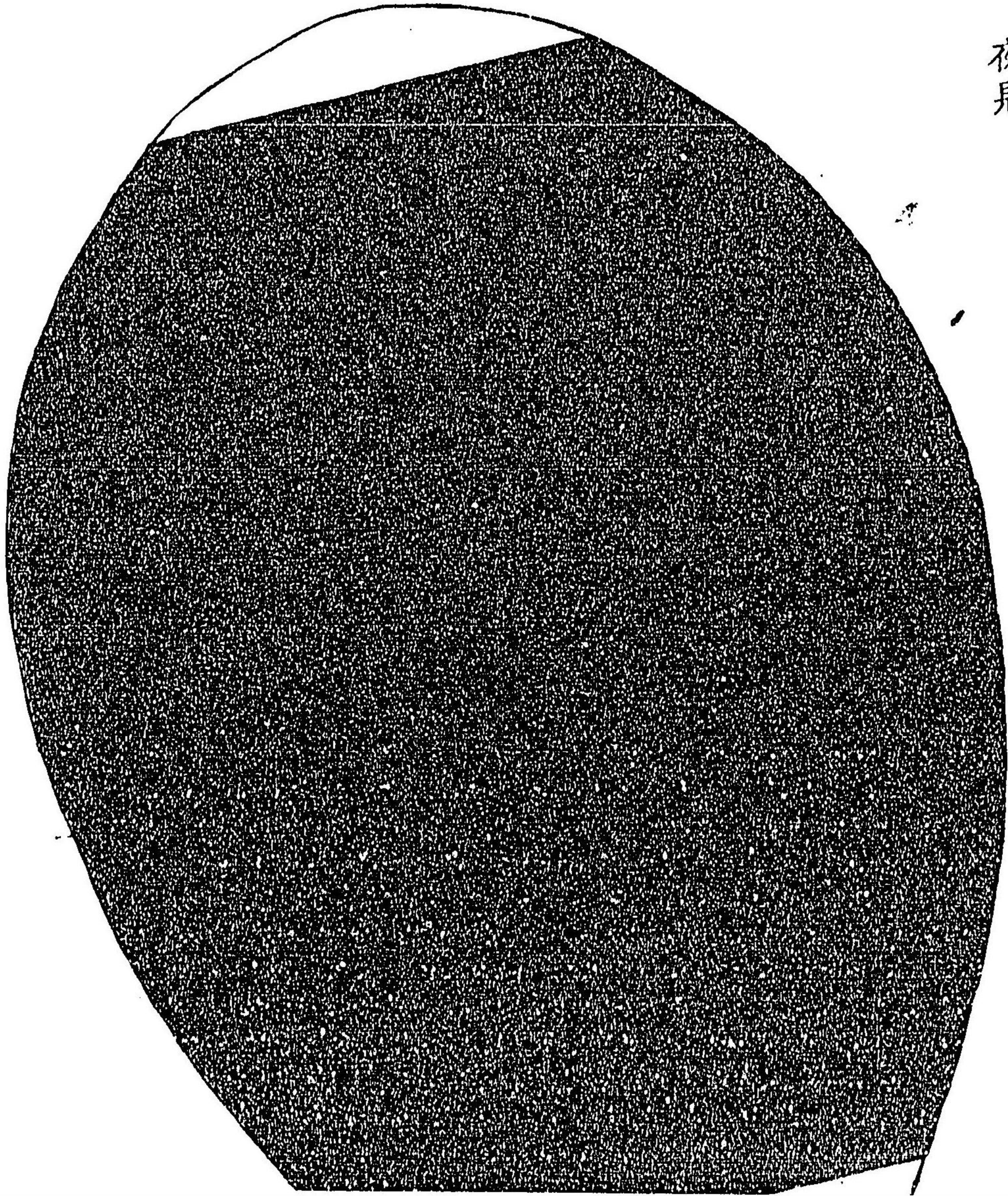
期ニ背戻スルヤ容易ニ取捨スルトコロヲ知ルベシ政治家ハ如何ノ政  
治家ニシテ苟モ上帝ノ攝理ヲ確信シ且人界ノ上下ニ界級アリテ此三  
才ノ關係ノ甚々密着シ其下層ニ侵サルベカラズ又其上天ヲ侵スベカ  
ラザルノ理趣ヲ領會セバ唯世事ノ外貌ニ露肝汲々トシ或ハ政教分離  
ヲ僥倖トシ祭教ヲ度外視スルノ昨非ヲ悔悟シ肅然トシテ敬畏シ悚然  
トシテ恐懼セズンバアラザルベシ思フニ在上ノ要務ハ風猷ヲ繩スシ典  
教ヲ敷キ天ニ代テ物ヲ理ムルニ在リ其ノ爾ラザル可ラザル所以ハ風  
猷張ラザレバ德義地ヲ拂ヒ邪慝世ニ滿ツ典教解紐スレバ人々安心立  
命ヲ失フテ其所ヲ得ズ勢一タヒ此ニ及ンデ下層始メテ多事ヲ致ス妄  
念ノ氣邪慾ノ癘ハ鬱結シテ開通セズ鬼氣トナリ毒癘トナリテ現界ヲ  
侵スベシ(伊邪那岐命ノ千引石ヲ黃泉ノ比良坂ニ引キ塞キシ所以ナリ  
五風十雨於是乎調和セズ疫癘災害於是乎荐リニ臻リ人事ハ亂雜ニ亂

雜ヲ加ヘ發シテ兵亂トナラザレバ鬱シテ痿痞軟弱トナリ舉世酒色ヲ  
除クノ外ハ絶テ高尚ノ趣味ナク生ルト雖モ死人ノゴトク其ノ害毒ヲ  
流スコト當ニ現界ノミナラズ其ノ腐敗氣惡毒ハ又正ニ升騰シテ上天  
ヲ侵スベシ上天亦始メテ騷擾ヲ至シ惡神跋扈シ龍虬驕リ迫リ神明其  
亂雜ヲ厭フテ其ノ迹ヲ避ケ玉フベシ(天之磐石ノ事是レナリ)是ヲコレ  
神人ノ離反トハ謂フ結局事ノ收拾スベカラザルニ至レバ終ニ其ノ社  
稷民人ヲ擧テ他國ノ篡奪スルトコロトナラザレバ自滅ニ歸センコト  
疑フベクモナキコトナリ抑モ其咎メ誰ニカ適キ歸セン夫レ祭教ノ已  
ムベカラザルヤ大類チ此クノゴトシテ而シテ政教一致ハ風潮ノ許サバ  
ルトコロナリ然レモ豈復々他ニ良圖ナシトセンヤ夫レ政事重キ歟宗  
教重キ歟我邦政治家ノ最モ思慮セザルベカラザルコト、信ズ大凡ソ  
風紀ノ馳張ニ關リ邦家ノ存亡ニ繫ルモノ上帝及ヒ人性ノ問題ヨリ緊

切ナルハ莫シ再四熟慮セズシテ可ナランヤ彼ノ考古學者ノ爲ニ働ヒ  
 或ハ之ヲ玩弄トシ或ハ之ヲ談柄トナシテ輕忽ニ付スベカラザルナリ  
 我日本帝國ハ坤輿上ニ屹立シ風色ノ優美ナル習俗ノ清淨ナル宛然タ  
 ル天上界ノ一大寫映神明ノ栖止シ天人ノ遨遊スル神域神宇ニシテ物  
 トナク人トナク大約神采上品ナラザルハナシ輓近港口一タビ開ケテ  
 五洲ト交際セシヨリ形勢頓ニ一變セリ蓋シ此ノ一大變遷ハ地球全般  
 テ平準スル風潮ノ勢力ナレバ獨リ脱レント欲スルモ勢得ベカラザル  
 トコロナリ乃チ單純的ハ複雜的トナリ恬靜的ハ活動的トナリ天然の  
 ハ人力的トナリ淡澹的ハ濃密的トナリ長袖的ハ短褐的トナリ神侶的  
 ハ俗套的トナレリ其レ此ニ至テ稍々人事ノ眞面目ニ違セリ自今後人  
 事ハ倍々繁劇繁多ナランコト必セリ是レ我邦今日ノ彰著ナル形勢ナ  
 リトス然リ而シテ此形勢ガ徹頭徹尾直進直行シテ大風ノ枯葉ヲ拂ヒ

積水ノ塵埃ヲ灑グガゴトク舊慣舊物ハ一モ存スルモノ無キニ至ラシ  
 ムベキ歟其レ然リ豈其レ然ランヤ社會ハ俗套的ニシテ止ムベキモノ  
 ニアラズ社會ハ濃密的ニシテ止ムベキモノニアラズ社會ハ人力的短  
 褐的ニシテ止ムベキモノニアラザルナリ必ズヤ優美高尚ノ美德良風  
 ナカルベカラズ而シテ優美高尚ノ良風ヲ上進センニハ上帝ノ尊崇ス  
 ベキハ勿論之ニ併セテ我皇風皇化ヲ維持シ且皇張スルニ在リ謹テ按  
 スルニ吾皇統ハ天津日繼キノ天孫天裔ニマシマシ皇宗ノ天上高千穂  
 ノ宮ヨリ降臨以還一系連綿二千五百有餘年建國ノ脉裁全ク異邦ト其  
 趣ヲ殊ニシ皮相者ニハ幾ント其理ヲ解スルコト能ハザルノ國脉ナリ  
 乃チ此天上界ノ種子萌蘗ヲ此東隅ノ一邦土ニ存留培養スルノ久シキ  
 コト蓋シ唯一國ノ爲メノミニアラズシテ更ニ宇内ニ洽及シ俱ニ共  
 ニ天上ノ神風神化ニ浴セシメントノ天意ナルコト炳乎トシテ火ヲ觀

ルガゴトシ吾人ハ目下ノ小形勢ニ眩惑セラレズ更ニ活眼ヲ開キ皇孫  
 チ奉護シ皇風ヲ皇張シテ以テ世界ノ亂雜ヲ救ヒ世界ノ俗套ヲ醫スル  
 ノ覺悟ヲナサザルベカラズ是レ豈歸決ノ大勢ニアラズシテ何ゾ而シ  
 テ又吾人ハ吾人ト性情ヲ共ニセル國津神ナル大國主ノ大神ニ對シ力  
 ナク盡シ精神ヲ竭クシテ之ニ信賴セザルベカラズ又其神德ニ憑テ靈能  
 ノ天賜ヲ受クザルベカラザルナリ之ヲ要スルニ吾人ハ善ト美トヲ舉  
 グ罪ト惡トニ戡チ正純華麗幸福圓滿ノ人界ヲ造作シ以テ上帝及天津  
 神國津神ノ尊意ニ報答セザルベカラザルノ責任義務アルコトヲ忘ル  
 ベカラズ苟モ此目的ヲ達センニハ宇宙ヲ安宅トセザルベカラズ死生  
 ナ一視セザルベカラズ而シテ一己ヲ重ンセザルベカラズ一家族ヲ整  
 理セザルベカラズ是レ宇宙及び其經歷ノ講明セザルベカラザル所以  
 ニシテ而シテ其人心ヲ正シ世道ヲ裨益スルノ少小ナラザル所以ナリ



天球圖

高御室

高天原

夜見

天之浮橋

葦原之上層

豐葦原

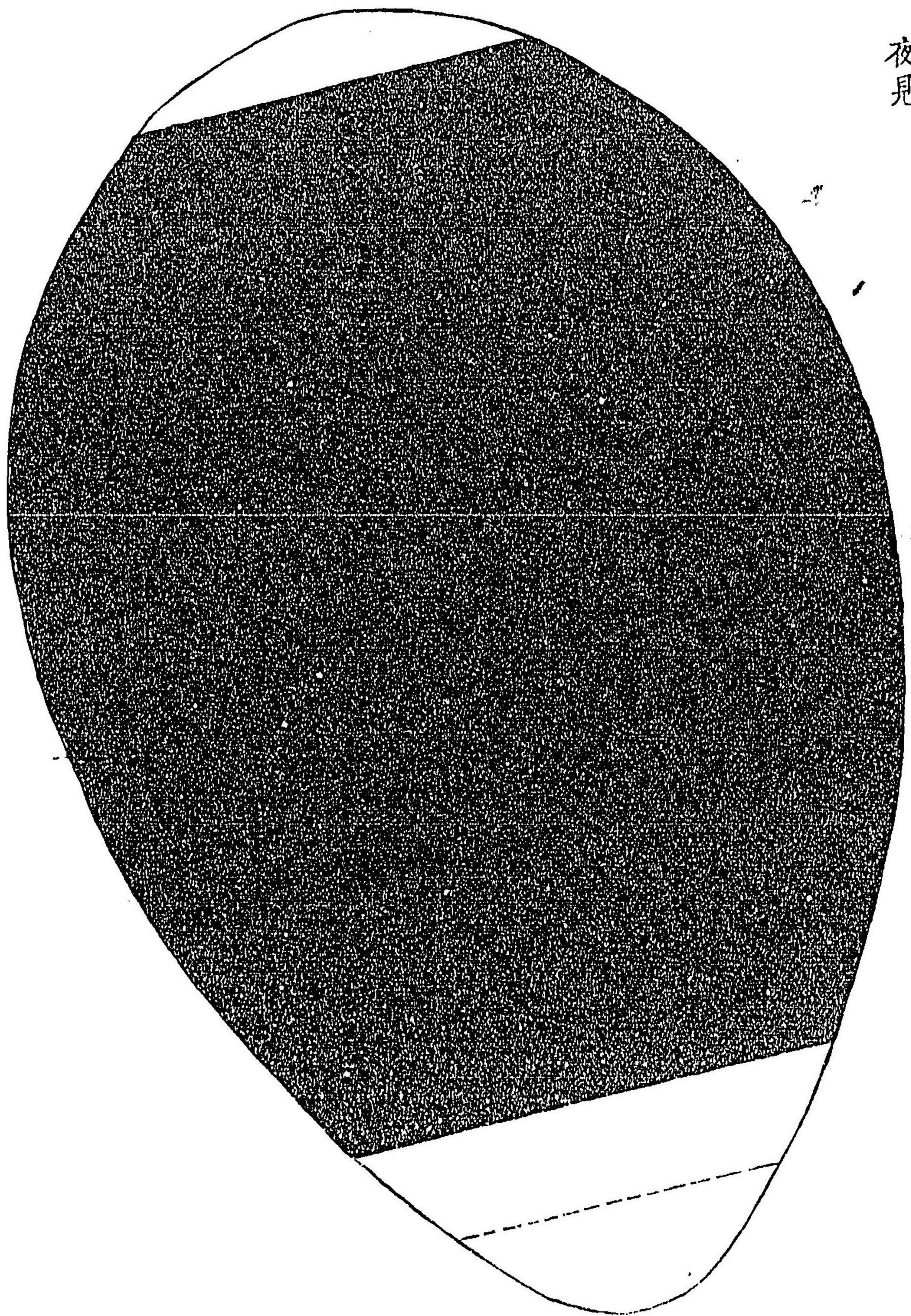
湖之八百重

同天原

單原之上層

夜見

# 天球圖





混 沌

混沌トハ天地萬有ノ範圍外ニシテ無始無終無限無邊即チ天地ノ未ダ  
現出セザル以前ニ存在シ天地ノ壞滅ニ及ブ其ノ以後ニモ存在シ底極  
ナク底止ナク包涵ノ又包涵覆燼ノ又覆燼ナル恢々トシテ名狀スベカ  
ラズ浩々トシテ端倪スベカラザルモノ只疆ヲ混沌ト號クルノミ  
而シテ這裏ハ無一物無何有ノ郷ナリトス只惟一ノ虛靈アリ是レ乃チ  
造化ノ基元萬有ノ母ナリ蓋シ其徳タルヤ廣大無極絶對無限ニシテ亦  
混沌ノ未ダ現出セザル其以前ニ存在シ混沌ノ壞滅ニ及ブ其以後ニモ  
存在シ神ノ又神妙ノ又妙ナルモノ而シテ廣淵奧蘊ニシテ又細微么塵  
ノ中ニ密藏スルトコロノ不可思議的ノ妙有タリ只疆ヲ上帝ト稱フル  
ノミ

謹ンテ國典ヲ案ズルニ天口事書倭姫ノ宣記ニ載セ云フ或ハ守混沌之

始。或得一爲念。或任本心。或舉定準。下是ノ所謂混沌之始若クハ得一トハ  
 乃チ混沌ヲ指シ若クハ上帝ヲ指スモノニアラズシテ何ゾ  
 抑モ上帝ノ名タル我古事記ニハ天津神ト稱ヘ高等ノ天神ト勢疑似  
 ノ間ニ在ルモノ、ゴトクナレモ仔細ニ觀察スレハ固ヨリ上帝其中ニ  
 在テ諸天神ノミニハアラザルナリ降テ人皇紀ニハ其名稱諸書ニ散見  
 セリ茲ニ其一ニチ擧クレバ桓武天皇紀ニハ皇天上帝ト曰ヒ或ハ天帝  
 ト云ヒ文德天皇紀ニハ昊天ト云ヒ古語拾遺ニハ皇天ト明記セリ因是  
 觀之上帝ノ稱號ハ其發生セシヨト已ニ年所アリ設令ヒ之ヲ以テ天之  
 御中主ノ異名トナシ或ハ漢史ニ摹倣セル虛飾ナリトナシ今日世界ノ  
 所謂造化上帝ニアラズト推諉スルモノアルトモ決シテ許スベカラズ  
 道理上ニマレ學文上ニマレ時勢上ニマレ既ニ上帝ノ名ノ稱道セザル  
 ベカラザル時運ノ順環ニ到着セリ効カニ接ズルニ彼ノ伊邪那岐伊邪

那美二神ノ天津神ヲ呼ビシハ畢竟罪愆ノ其ノ心身ニ纏ヒ來リ時運ノ  
 複雜ニ傾向スルノ秋ニシテ彼ノ禊祓ノ事ノ起リシト同事ノ出來事ナ  
 リキ今日我邦人が不知不識上帝尊崇ノ觀念ノ發起セシハ經ユベカラ  
 ザル自然ノ傾向ニシテ彼ノ西教西學ノ蹈襲ニ出ヅルニアラザルコト  
 斷々乎トシテ察スベキナリ  
 夫レ儒ノ大極道ノ玄虛佛ノ眞如ト稱フルモノ抑モ是ナリ倘シ我神道  
 ニシテ此混沌ヲ否斥セバ神道ノ神道タル所以ノ高致妙趣ヲ失ヒ人ヲ  
 シテ卑陋ニ固着セシメシノミ今ヤ世ハ多事ニ趨ケリ是時ニ當テ國人  
 ガ高ク思想ヲ天外ニ冲飛スルニアラザレバ陷井ヲ地ニ徇匄シ道德高  
 ムベカラズ美術進ムベカラズ學文精ナルベカラズ大凡ソ上帝及ヒ混  
 沌ヲ確信スルト否トハ一個人ヨリ乃至一家一國一世界ノ上ニマデ其  
 影響スルトコロ淺少ニアラズ人々宜シク躬自テ考察思念シ其本ニ溯

リ其始メニ反ラバ元々ノ妙靈即チ上帝ノ存在并ニ寂然渾然ノ妙靈ヲ認識スルニ於テ自ラ餘師アリ假令ヒ信セザラント欲スルモ復々得ベカラズ况ンヤ此事昭々トシテ載セテ神典及ヒ國書ニ在ルニ於テチヤ之ヲ曹大家ノ言ニ聞ク大道ハ混沌ニシテ成ルト混沌ノ德其レ尙バザルベクンヤ

天球總說

混沌ノ間上帝一物ヲ創造セリ如浮脂ウキゴ而久羅下那洲多陀用弊流クワラゲナスマタヨヘル(古事記)ノミ譬猶游魚之浮水上也日本書紀神代卷混沌如雞子(本書ノ雞子ノゴトシト云フト語同ウシテ義ハ殊ナリ)溟滓而含牙其清陽者溟靡而爲天重濁者淹滯而爲地(神代紀)此クノゴトキ浮游ノ一物發生セシガ快速ノ自轉ヲナスガ爲メニ漸次ニ形容ヲナシテ竟ニ雞子ノゴトキモノトナリ而シテ七階級ニ區劃シ又其形容ノ少シク傾斜シテ太陽ト斜向スル

ガ爲メニ七色ヲ呈スルニ至レリ

夫レ天球ノ形容ガ雞子ノゴトシト認ムル所以ハ今神典ヲ推究スルニ

一(混沌)三(造化)五(別天神)七(天神)五(地神)ト奇數ヲ以テ順次ニ多數ヲナシ而シテ七ニ至テ盡キ更ニ逆次ヲナシテ五トナリキ以下ハ未タ知ル

ベカラザルモ必ズヤ三トナリ一トナルベシ而シテ最下層ハ此數ノ外ナルニ據レバ本軀ノ垂下シテ成レルモノナルコト正ニ以テ知ルベシ今之レガ外廓ヲ畫スレバ渾然タル雞子様ノ形狀ヲ得ベキナリ抑モ天地ノ形容ニ就キ古今漢儒ノ說クトコロ一ニシテ足ラズ或ハ天ハ圓ク地ハ方ナリト曰ヒ或ハ天ノ形ハ雞子ノゴトシト曰ヒ或ハ恢々タル大圓ナリト曰ヒ或ハ天ノ形ハ穹窿シテ蓋ノゴトシト曰フト雖凡皆其ノ然ル所以ヲ説明セズ到底人ヲシテ信セシムルコト能ハザリキ又其ノ運動スル所以ハ唯大小ノ差コソアレ全ク此ノ天球ガ軌ヲ彼ノ筑紫島

ト同ツスルニ據リ其ノ自轉ヲ推歩スルコトヲ得ベシ而シテ四時ノ變  
 更アル所以等ハ大概泰西ノ學說ト異同ナシ然レモ試ニ此ノ天球圖ニ  
 就キ少シク考一考セヨ西說ノ猶ホ未タ管窺蠡測ヲ免レザルトコロア  
 ルヲ知ルベシ今ヤ吾神典ノ開示スルトコロ較明精確一世ノ智勇ヲ推  
 倒シ萬古ノ心胸ヲ開拓ス何ゾ雀躍ニ堪エンヤ  
 天地ガ七階級ニ區劃セラレシ所以ハ如何ン七色ニ甄別セラレシ所以  
 ハ如何ン請フ嘗ミ試ミニ說明セン夫レ第一層高御室ノ位置タルヤ神  
 典ノ表面ニハ較然顯著ナラズト雖モ細カニ其ノ神名所名若クハ他ノ  
 古典ヲ究メ觸類而推之引而伸之其ノ必在スルヤ復タ疑ヲ容レズ亦之  
 ニ賴テ以テ上帝ノ存在ヲ確知スベキナリ而シテ其ノ色ハ所謂渾沌無  
 色ナリトス第二層高天ヶ原ノ上段ナリ本文現ニ別天神五代天神七代  
 ト明記セリ其ノ段階其ノ時代ノ懸隔殊別セルト更ニ道ヲ須タズ而

シテ其ノ色ハ即チ正色ノ赤色ナリ日ノ宮ノ日ハ緋ナリ乃チ光耀赫灼  
 ノ謂ヒナリ第三層高天ヶ原ノ下段ナリ國之常立以下天神七代ノ階級  
 ナリ其ノ色ハ赤色ニシテ上段ト異リナシ蓋シ少シク薄赤ナランノミ  
 第四層ハ彼ノ天ノ浮橋ト云フニ據レハ兩界過渡ノ所タルコト疑ヒオ  
 シ而シテ其ノ色ヲ紫色トスル理由ハ赤ト青トノ間色ハ自ラ紫色ヲ呈  
 スルコト勿論ナリ且ヤ梵天帝釋ノ初利天ヨリ佛ヲ送リシトキ瑠璃ト  
 金ト銀トノ橋ヲ以テセリト佛書ニ見ユ之ヲ照會スレバ其ノ紫色タル  
 コト明ナリ第五層ハ葦原ノ上段此ノ段階以下ハ伊邪那岐伊邪那美二  
 神ノ固成セラレシ所ニ係ル其ノ呈色ハ正色ノ藍青ナリ葦雲原ノ稱ア  
 ル所以ナリ第六層ハ即チ吾人ノ現界其ノ他ノ天人界ニシテ葦原ノ乙  
 邦ナリ其ノ色ハ上段ニ比スレバ稍々淡藍ニ屬スルノミ青人草ノ號當  
 レリト謂フベシ且今現ニ日ヲ舉テ彼蒼ヲ一瞥セヨ思平ニ過キンノミ

第七層ハ湖之八百重乃チ現界ト黄泉トノ間ヲ隔斷スルトコロノ渡津ナルコト知ルベキナリ彼ノ浮屠氏ノ所謂三途ノ川若クハジヨンパンヤガ天路歷程ニ所謂死ノ川トハ即チ此所ナリ而シテ之ヲ綠色トスルモノハ廻チ青ト黄トノ自然ノ間色ナレバナリ且ヤ其ノ名稱ニ山ルモ亦争フベカラザルノ辭柄ナリトス第八層黄泉ノ上段根底方ナリ是レ吾人が未來ノ審斷所ニシテ一大浮沈一大榮枯ノ岐ル、停車場ナリ天主教派ガ唱道スル煉獄也者蓋シ此ニ外ナラズ色ハ正色ノ黄色ナリ秋津即チ青黄津ナリ下層ノ黄色ナルコト知ルベシ漢土ニモ夙ニ黄土黄泉ノ稱謂アルコト人皆之ヲ知レリ第九層黄泉ノ月讀ナリ月讀トハ茲ニ纒ニ一言スレバ焦熱地獄ノ省語トス其他十餘種ノ意義アリ要スルニ其ノ慘憺亡狀ノ刑辟場タルコト燃犀ヨリ明カナリ其ノ色ノ淡黄色ナルコトハ道理上必ズ然ラザルベカラズ

第一階級

第一階級ハ乃チ天地ノ最上階級ニ位シ上帝及ビ神魯岐神魯美ノミ寶座ヲ其中ニ占メ神聖純白ナルコト得テ名狀スベカラザル絶妙的ノ至聖所タリ之ヲ高御室或ハ高御座ト曰フ  
吾人々類ハ斯ノ至聖至潔ナルト且高遠ノ距離ナルニモ拘ハラズ憚ルトコロナク畏ル、トコロナク一呼吸一瞬間ニシテ親シク斯ニ造詣スルコトヲ得ル舊ト吾人が靈性ノ上帝ニ於ルハ猶ホ兒子ノ慈父ニ於ルガゴトキ關係アレバナリ吾人豈警醒セザルベケンヤ  
而シテ吾人々類ガ須臾モ離ルベカラザル仁愛即チ愛靈又靈神正氣浩然ノ氣ト云フモノ此郷ヨリ流出スルモノナリトス吾人豈之ヲ感受セザルベケンヤ人或ハ問ハン何ヲ以テ此階級ノ存在スルコトヲ知リシヤ請フ其說ヲ聞ント蓋シ以下五項ノ解説チ一讀セバ疑團立ロニ氷釋

スベシ

○第一項 高天ヶ原トハ高タカキ頭アタリノ腹ハラト云フ意味ニシテ仍ホ葦原即チ頭アタリ足タビノ腹ハラト云フ腹ノ字ノ同一意ナリトス則チ其上下ニ階級アリテ其間ニ攝在スルノ稱ナリ故ニ高天ヶ原ト稱スルトキハ其上層ニモ亦尙ホ一段級アリデ之ニ對スルノ稱ナルヤ毫モ疑ヲ容レザルトコロナリ

○第二項 高御座ノ存在スル理由ハ種々アリ就中殊ニ天之常立トコダテ天之御中主ノ御名ニ憑ルモ歴々證スベシ夫レ常トハ常世トコヨ又豐ト同語ニシテ乙子代オトコヨノ略語乃チ弟オトコ(次男)ノ義ニテ兄國オトコクニニ對スルノ稱ナリトス現ニ吾人が棲息スル世界ヲ常世トコヨトモ云ヒ豐國トコヨクニトモ乙訓トモ云フ所以ハ上層兄國オトコクニニ對シテ爾云フコトナリ故ニ天之常立ト云フキハ必ズ其上位ニ戴クトコロアルベキヤ固ヨリ論ナシ又御

中主ト稱スルモ其上下ニ關係スルトコロアルコト多言ヲ須クズ

○第三項 前ノ混沌ニ於テ其所謂得一ノ神語ヨリ既ニ一ノ奇數ヲ得ベシ而シテ高天ヶ原ニ於テ別神五代ノ五ノ奇數ヲ得ベシ又其次ニ天神七代ノ七ノ奇數ヲ得ベシ然ラハ則チ一ト五トノ間ニ三ノ奇數ヲ得ザルノ理ナキコト明白ナリトス七五三ノ整數ハ自然ノ法則ト知ルベシ

○第四項 大凡ソ七ノ數ハ宇宙天然ノ套數ニシテ茲ニ之ヲ實例スル迄モナク人ノ普ク知ルトコロナリ果シテ此天地ガ六段階ニ造成セラレシ以上ハ亦必ズ之ニ一虛位ヲ加ヘテ七ノ全數ヲ見ザルノ理アルコトナシ否ラザレバ決シテ完璧ト云フヲ得ズ且ヤ六階級ニシテ七色ニ區別セラレナバ斷シテ色ノ本躰タル即チ白色ノ基元ヲ欠クヲ得ズ造化ノ妙工豈不規則アラシヤ是レ高御室ノ設

位ハ天球ノ組織上吾人が道理性ノ必ズ許サザルベカラザルトコ  
ロナルヲ信ズルナリ

○第五項 大凡造物ノ中ニハ大小ノ差ハアルトモ全ク其体容法則  
ヲ同ウスルモノアリ神典ノ謂ユル筑紫ノ日向島ハ全ク小天地ニ  
シテ上帝ノ吾人ヲシテ天地ヲ揣摩セシムルノ影ヲ慕型タリ其  
最上位ニ白日別アルハ正ニ以テ天球ノ最上位ニ神聖純白ノ至聖  
所アルコトヲ洞識スルニ足リヌベシ

右ノゴトク合理ノ證左ヲ臚列セバ宿疑積習立ロニ烟散霧消ニ歸シテ  
白日ノ光リヲ仰視セン夫レ今ノ世ニ處シテハ假令ヒ一方ニハ世事ニ  
齷齪シ生理ニ奔走シツ、アルトモ時アリテハ超然悠然思ヲ風雲ニ乘  
シ志ヲ鸞翼ニ駕シテ上帝ノ御座ニ接セザルベカラズ否ナ其所ヨリ流  
出スル靈泉靈膏ニ沐浴シテ黄塵ヲ洗滌セザルベカラズ枯燥ヲ潤澤セ

ザルベカラズ而シテ其所ニ造詣スルニ抑モ道アリ澆季ノ罪人ノ敢テ  
企テ得ベキトコロニアラズ人々其レ宜シク反省悔改シテ罪尤ヲ洗濯  
シ以テ本心ヲ發揮セザルベカラズ蓋シ人生ノ福利滿悦復々之ニ過ク  
ルモノ莫ラン

第二階級

第二階級ヲ高天々原ノ上段トス抑モ此域ハ日光ノ直射スルトコロニ  
シテ金華灼燦明彩遍照綾ノゴトク緋ノゴトキ神域タリ

古事記ニ曰ク天地初發之時於高天原成神名天之御中主神次高御產  
巢日神次神產巢日神云々

如鞏牙因萌騰之物而成神名宇麻志阿志阿備比古遲神次天之常立神  
右高等天神ノ御名ヲ推究スレバ此神域ノ景光火ヲ覩ルト均シク燦々  
赫々タリ

一天之御中主ハ前ニ解クガゴトシ  
 一高御産巢日神次ニ神産巢日神ハ共ニ蒸日ト云フ義ニテ蒸熱燄ク  
 ガゴトキチ云フ蓋シ太陽ノ直射スル赤道下ナレバナリ天球圖ヲ  
 參看セシコトヲ要ス  
 一宇麻志阿斯訶備比古遲神宇麻志ハ善哉善哉ナリ阿斯訶備ハ綾ニ  
 賢ニテ共ニ讚歎絶賞ノ辭ナリ備ハ日ナリ日古遲ハ日ノ東ナリ之  
 チ約スレバ漸次ニ赤道直下ヲ距ルニ隨ヒ金光綾爛ノ風光ヲ呈シ  
 日ムカシノ所ノ神ト云フコトナリ知ルベシ此域ノ光華明彩六合  
 ニ照徹シ得テ思議スベカラザルノ妙域ナルコト唯神語ニヨリテ  
 明瞭ナルノミナラス天球ト太陽トノ向背ヲ推釋スレバ明カニ其  
 妙趣ヲ知ルベキナリ  
 一天之常立神解前ニ出スガゴトシ

現ニ此ニ在マス高等天神ハ僉共ニ陰陽部判セズ即チ男性女性ノ渾一  
 シ且ツ形容ノ名狀ナキ妙躰ナリトス固ヨリ形質ナキコト言テ須タズ  
 即チ

古事記ニ曰ク並獨神成坐而隱身

此天神ハ清淨純一神妙靈活恒ニ上帝ト相觀エ其天機ニ與リ其化育ヲ  
 贊ク能ハザルトコロナク知ラザルトコロナキコト幾ント上帝ニ亞ク  
 其榮光尊貴想フベキナリ

以上別天神五代ノ階級トス而シテ下二柱ノ神ハ蓋シ神ニシテ又國土  
 ナルベシ何トナレバ神ハ七五三一ノ奇數ニ成立ツコト前々縷述スル  
 ガゴトシ之ト參差錯綜シテ邦土ハ八六四二ノ偶數ニ組成セラル、モ  
 ノ、ゴトシ第五階級ニ八洲アリ其上級ニ六島アリ高天ヶ原ノ下段ニ  
 四國アリ之ヲ推索スレバ此階級ニ二國ナキコト能ハザルナリ又降テ



第六階級ニ十箇ノ分土アリ其下層第七階級ニ十二箇所ノ地獄アリ大  
約シ造化ハ事物ノ大トナク小トナク秩然整然トシテ毫モ其法則ヲ紊  
亂スルモノニアラザレバナリ

第三階級

是レ乃チ高天夕原ノ下段天神七代ノ階級ナリ蓋シ此七代ノ中中間四  
代ノ神々ハ單ニ神ノ形迹アルノミナラズ之ニ由テ其神域ノ光景ヲ觀  
ヒ以テ其漸ク次第ヲ逐フテ靈ヨリ細ヨリ雜ヨリ精ニ入ルノ理ヲ知  
ルベシ其始メテ氣牀ナリシヨリ乃至美地妙域トナルマデ四個ノ洲壤  
ヲ容ヅクリシ而シテ一物が斯ク變遷進化セシニハアラズ漸次級ヲ逐  
テ各自ニ其形狀ヲ具セシナリ之ヲ再言スレバ始メ氣牀ノ一物アリ其  
下第一島ハ浮遊セル地球ノゴトキモノ後稍々浮洲ノゴトクナリキ其  
次第二島ハ球牀ガ廻旋ヲ初メシ其次第三島ハ巨大洪濶ノ球狀ナリキ

其次第四島ニ至テハ稍々縮小シテ固形トナリ光明遍照黃金世界トハ  
ナリシナリ而シテ此變更ノ歷程ハ地球ノ一物が創始ノトキ氣牀ニシ  
テ今ノゴトキ堅牢ナル固牀トナリ以テ森羅萬有ヲ載スルニ至レルノ  
理ト略ホ同一理ナリトス

古事記曰次成神名國之常立神。次豐雲野神。

國之常立トハ上段ニ對シテ豐即チ常ノ稱アリ豐雲野ノ豐モ亦上ニ同  
シ雲野ハ雲ノゴトキ野ト云フ義ニテ是レ乃チ氣牀ノ一物が初メテ著  
ハレシナリ此二柱神モ亦陰陽ナク且形容ナキ神靈ナリ本文獨リ神ニ  
シテ身ヲ隱ストハ此ヲコレ謂フ  
次成神名字比地邇神。次妹須比智邇神。

是ニ至テ陰陽ノ神始メテ現出シ給ヘリ而シテ一時ニ偶生セラレシニ  
ハアラズ其時代ハ遙カニ懸絶セルモノト考ヘラル抑モ此神名ハ即チ

其時代ノ形容ヲ彰ハスモノニシテ宇比地邇トハ浮キタル土ニ似タリト云フ義ナリ浮游セル地球ノゴトキモノナリキ後稍々須比地邇トナレリ須ハ洲ナリ洲土ニ似タルモノトナレルナリ

次角杙神、妹活杙神

角杙ハ貫日ナリ活杙ハ往來日ナリ根軸稍々直立シテ大陽ノ錘直線ト恰モ一串セルヲ云フナラン又球脉ノ廻旅ニヨリ晝夜ハナクトモ大陽ノ往來スルガゴトク見ユルヲ云フナラン

附テ云フ此階級ハ邦土モ神脉モ共ニ盤ニシテ形質アルニアラズ然リ而シテ良シヤ靈脉ニセヨ苟モ其脉ナル以上ハ其大陽トノ距離ノ相近邇セルコト地球ニ比スレバ幾ント億萬里ノ差アル炎熱酷烈ノトコロニ栖止セラルベキ筈ナキナリ蓋シ零圍氣ノ非常ニ濃厚ナルベシト假定セン歟其廻旅ヲ妨阻スルヲ奈何セン是レ其

根軸ノ直立シテ大陽ノ光熱線ヲ遮蔽スルガ爲メニ其球ノ頂上ノミニ濃厚ノ雲野ノゴトキ氛氳氣ノ重疊スルニハアラザル歟或ハ又此世界ハ渾テ球ノ内面ニ栖息スルナラント先輩神道家ノ説モアリシヤニ覺ユ此説蓋シ一理アルニ似タリ本文各神名ヲ案スルニ仍ホ亦内裏宮居ノ趣キ糺糊ノ中ニ認メラル、ガゴトシ然レモ未ダ判然セズ姑ク疑ヲ存ス

次意富斗能地神、次妹大斗乃辨神

此二神名ハ共ニ同意義ナリ巨大殿地及ビ巨大ノ殿陸ナリ巨大ノ形態ヲナスヲ云フナラン

次淤母陀流神、次妹阿夜訶志古泥神

是ニ於テカ球ノ面垂レテ完全ノ形様ヲナシ綾ニ賢美妙ノ神洲トハナレリ蓋シ此二神ハ同時ノ偶生トゾ知ラル夫レ此域ノ形狀タルヤ想像

ノ及ブベカラザルトコロナレヒ名ニ逢フ綾羅錦繡ノ神寶ニシテ金光  
緋色這間一ニ清淨純潔ニシテ善ト美ト生出シ一點ノ罪惡ナク靄然々  
ル一團ノ和氣ニシテ熙々洋洋々相愛シ相娛ミ光采炫映神韵穆肅マリ  
次伊邪那岐神次妹伊邪那美神

此二神ニ至テ陰陽接合ノ事始マリ爾後單純ハ漸ク複雑トナリ恬靜ハ  
漸ク活動トナリ罪惡生シ苦惱出テ来レリ抑モ此二神ハ吾人が靈性ニ  
於ルモ身體ニ於ルモ現界ノ萬有ニ於ルモ共ニ生成セラレシ始祖ニシ  
テ其形蹟ハ最モ縝密ニ講明セザルベカラズ而シテ其形蹟ハ此階級ニ  
於テハ關係甚々少ナク只後代煥發ノ種子ヲ胚胎スルノミ第四階級以  
下ニ就キ其活潑ナル運動ノ神迹ヲ領會シ以テ吾人が智慧理想ヲ發達  
セシメ吾人が性命道德ヲ涵養センコトヲ要ス

因ニ云フ彼ノキリストノ徒弟ポロガコリント人ニ寄スル其後

書ニ左ノ文句アリ

我キリストニアル一人ノ者ヲ知レリ此人十四年前ニ挈ヘラレ  
テ第三層ノ天ニ到ル(中畧)彼レ挈ヘラレテ樂園ニ至リ言フベカ  
ラザル言即チ人ノ語ルマシキ言ヲ聞リ云々

右第三層天ノ樂園トハ古往今來歐西ノ神學者ガ頗ル解説ニ苦ム  
トコロノ難句ナリト聞シガ是レ乃チ此第三階級ノ事ニ係ルコト  
甚々了々タリ彼レガ千古ノ疑難正ニ我神典ノ餘慶ニ由テ其蒙ヲ  
啓クベシ亦妙ナラズヤ

第四階級

此階級ハ環象ノ尤モ麗映ナルトコロナリ乃チ翠黛ノ空氣ニ包圍セラ  
レ之レニ加フルニ上層ノ瑠璃色ト上々層ノ朱金色ト時ニ其光彩ヲ映  
射シテ陸離タリ是レ此界ノ島名ニ綺美キビノ名稱アル所以ナリ而シテ一

名之ヲ葦原ノ中津國ト稱ス是界ハ高天ケ原ト相距ルコト只一葦ノミ  
 ナリ故ニ嶋名ニ遷ノ島アリ天麗島アリ乃チ記ニ曰  
 然後還坐之時生吉備兒島亦名謂建日方別次生小豆島亦名謂大野手  
 比女次生大島亦名謂大多流別次生女島亦名謂天一根次生知訶島  
 亦名謂天之忍男次生兩兒島亦名謂天兩屋  
 右還坐ノ時トハ高天原ニ還坐ノ時ナリ廻チ下層ノ八島ヲ生成シ其天  
 功ヲ畢ヘ更ニ此界ニ昇騰シ來テ本文六島ヲ生成シ給ヒシナリ吉備島  
 ト云ヒ小豆島ト云ヒ知訶島ト云ヒ之ヲ推覈スレバ此界ノ狀況ノ一斑  
 ナ管窺スルヲ得ベシ已ニ前陳ノ如シ思フニ他其ノ島名及ビ其人種ヲ  
 モ委曲探討シナバ種々ノ意味アリ又種々ノ人物モコレ有ン然レ現界  
 トハ未ダ嘗テ交通セザルガ爲メ歟史傳ニモ未ダ似寄ノ尤物神人ヲ見  
 聞シ得ズ蓋シコレ有ン未ダ之ヲ聞カザルナリ今茲ニ強辨苦說スルモ

復タ世ニ益ナカルベシ之ヲ通過シ去ルモ敢テ妨ケナカラン  
 却說伊邪那岐伊邪那美二神ノ當初高天ケ原ヲ降り天下ヲ經營セラレ  
 ヲヤ始メテ此上層天ノ浮橋(天之八重雲トモ云フ)ニ立テ其沼矛ヲ指シ  
 下シ其矛ノ垂落ル盤累リ積リテ島ト成ル是ヲ游能基呂島ト云フ次ニ  
 水蛭子次ニ淡島共ニ子ノ例ニ入レズト此三島ハ未ダ何物タルヲ知ル  
 ニ由ナシ蓋シ或ハ游能基呂島トハ尾之基亂ノ定所ナキ意ニテ彗星ヲ  
 云フニハアラザル乎水蛭子未ダ詳ナラズ淡島ハ粟ノ島ニテ小星ヲ云  
 フニハアラザル乎夫ノ下層八島ノゴトキハ即チ所謂八惑星ニシテ泰  
 西ノ天文說ト符節ヲ合スガゴトシ此ヲ以テ之ヲ推ストキハ此界ノ諸  
 島モ亦其實在スルコト毫モ疑ヲ容レズト雖レ今ヤ之ヲ斷言スルニ踟  
 躇ヒザルヲ得ザルモノハ他人ノ信ヲ博スルニ足ル程ノ證明ヲ欠クヲ  
 以テノ故ナリ

抑モ二神ノ垂迹ハ吾人々事ノ濫觴ニシテ資テ以テ則ルベキモノアリ  
 資テ以テ慎ムベキモノアリ資テ以テ社スベキモノアリ何チカ則ルベ  
 キモノト云フヤ夫レ夫婦ハ人倫ノ大本世道ノ綱紀ナリ而シテ婦ハ夫  
 ニ先ズベカラズ夫ヲ輔ケ夫ニ從フヲ以テ其本分トス記ニ曰ク女人先  
 言不<sub>フ</sub>良<sub>ハシカラス</sub>ト又夫ノ婦ヲ愛スベキハ亦其聖訓ナリトス記ニ曰ク欲<sub>ハシ</sub>相<sub>シ</sub>見<sub>ル</sub>其  
 妹伊邪那美命<sub>イナメノミ</sub>追<sub>テ</sub>往<sub>ル</sub>黃泉國<sub>ヨミ</sub>ト又吾人ハ凡ソ事業ヲ經營セント欲セバ一  
 ニ上帝ヲ遵奉シ其成敗利鈍ハ吾人が預メ知ル能ハザルトコロ只本分  
 ヲ全ウシ義務ヲ竭サンノミ記ニ曰ク宜<sub>キ</sub>白<sub>キ</sub>天神之御所<sub>ミコトノミヤ</sub>即共參上<sub>ニ</sub>請<sub>フ</sub>天神  
 之命<sub>ノミ</sub>爾<sub>ノ</sub>ト吾人豈則ラザルベケンヤ何チカ慎ムベキモノト云フヤ姦亂  
 是ナリ夫婦ハ最モ宜シク相愛シ相親ムベクシテ百福百善ノ根本ナリ  
 ト雖<sub>レ</sub>凡ソ利ノアルトコロニハ害ノ伴隨スルコトハ事物ノ常數ナリ  
 特<sub>ニ</sub>男女ノ間<sub>ニ</sub>在<sub>テ</sub>ハ尤モ利アリ尤モ害アリ<sub>ト</sub>輒<sub>チ</sub>伊邪那美命ハ身ヲ

以テ天下後世ヲ警戒シ給ヘリ記ニ曰ク因<sub>ル</sub>生<sub>ル</sub>火<sub>ノ</sub>神<sub>ニ</sub>遂<sub>ニ</sub>神<sub>ニ</sub>避<sub>ル</sub>坐<sub>ス</sub>也即チ黃泉  
 ニ入り給ヒシナリ黃泉<sub>ヨミ</sub>ハ地獄ニシテ最<sub>ト</sub>モ醜<sub>シ</sub>メキ穢<sub>キ</sub>國<sub>ニ</sub>テ在<sub>リ</sub>ケ  
 リ吾人豈鑑ミザルベケンヤ何チカ社スベキモノト云フヤ禊祓<sub>ミソギ</sub>コレナ  
 リ以下禊祓ノ條ニ於テ詳述スベシ  
 其他吾人が幸福ニ資スル群品衆彙彼山川艸木ヨリ禾穀菜蔬ノ類ニ至  
 ルマテ皆悉ク二神ノ恩惠ニアラザルハ莫シ吾人ハ朝昏上帝ニ拜謝ス  
 ルト共ニ二神ノ盛德鴻業ヲ頌讚セザルベケンヤ

第五階級

第五階級ハ葦原ノ乙國ニシテ吾人が現界及び其他天人界ノ基布羅列  
 スルトコロノ位置ナリ此階級ハ吾人ト直接ノ關係ヲ有シ吾人が其他  
 界トノ關係ハ如何ン吾人ハ此世ニ處スルニ幸福本分ノ如何ンが求ム  
 ベク如何ンが盡クスベキ等ノ直接講明セザルベカラザルノ要件一ニ

シテ足ラズ且ヤ此境界ハ事々物々靈妙的ト物質的トノ合躰シタル錯綜ノ現象ヲ具有スル宇宙ニ稀有ノ境界ナレバ吾人ハ最モ縝密ニ推究セザルベカラザルナリ若シ夫レ唯物ニ偏シテ身ヲ現界ニ寄セ且事物ヲ觀察セバ物質ノ外復タ一物ナキノ現象ヲ呈スルヤ固ヨリ然ルベシト雖トモ是クノゴトキ淺膚陋劣ノ識見ハ一己人ヲシテ地上ニ匍匐セシメ高尙ノ思想ヲ滅却セシムルノミナラス一社會ヲ舉テ無味我殺ノ沮洳場トナラシムルノ弊ヲ免レズ懼レザルベケンヤ若シ夫レ唯心ニ偏シテ身ヲ現界ニ寄セ且事物ヲ觀察セバ心靈ノ外復タ一物ナキノ幻象ヲ呈スルヤ固ヨリ然ルベシト雖トモ是クノゴトキ夢幻虛空ノ識見ハ一己人ヲシテ浮世ヲ厭苦セシメ進取ノ志望ヲ抹殺セシムルノミナラズ一社會ヲ舉テ風流三昧ノ兒戲場トナラシムルノ弊ヲ免レズ慎マザルベケンヤ吾人ハ物質ヲ有セリ而シテ物質我ニアラズ我ハ靈妙ナリ

世界ハ物質ヲ有セリ而シテ物質世界ニアラズ世界ハ靈妙ナリ此靈物二者ノ勸念ノ基礎確立シ然シテ後ニ此境界ヲ觀察セザレバ甲是乙非疑難百出シ水火モ密ナラザルノ爭鬪ヲ構ヘテ果シモナク貴重ノ歲月ヲ筆壇舌戰ノ間ニ浪費スルノミニシテ誠ニ益モナキ呆事タルヲ免レ得ス爰ニ吾人ハ神典ノ啓示スルトコロニ據リ先ヅ初メニ此境界ニ基布羅列スル天人界ノ光景ヲ伺ヒ以テ吾人が靈界ノ幸福ニ資セント欲ス世ノ褊狹自ラ守リ且故見ニ狂ル、者ヨ心ノ目ヲ啓キ心ノ耳ヲ開テ神典ノ奧秘ヲ領得センコトヲ要ス

天人界ノ名稱及ヒ其人種

古事記ニ曰ク於是伊邪那岐命先言阿那邇夜志愛袁登賣袁後妹伊邪那美命言阿那邇夜志愛袁登古哀如此言竟而御合生子淡道之穗之狹別島次生伊豫之二島此島者身一而有四面每面有名故伊豫國謂愛比

女<sup>メト</sup>譚岐國謂<sup>イ、ヒコ</sup>飯依比古阿波國謂<sup>カ、ゲツ</sup>大宜都比女土佐國謂<sup>タテ</sup>建依別次生隱伎<sup>カキ</sup>之<sup>ノ</sup>三子島亦名謂<sup>ハ</sup>天之忍許呂別次生築紫島此島亦身一而有四面每而<sup>ニ</sup>有名故築紫國謂<sup>カレ</sup>白日別豐國謂<sup>シ</sup>豐日別肥國謂<sup>フ</sup>速日向日向國謂<sup>ト</sup>豐久士<sup>シ</sup>比泥別熊襲國謂<sup>チ</sup>建日別次生佐渡亦名建日別次生伊伎國亦名謂<sup>ハ</sup>天比<sup>ヒ</sup>登都柱次生津亦名天之狹手依比女次生大倭豐秋津島亦名謂<sup>ハ</sup>天御虛<sup>ソ</sup>空豐秋津根別故因此八島先所生謂<sup>ラ</sup>大八島國

以上大八洲ハ親島ノ誤解ニシテ兒島ニ對シテ之ヲ唱フ是レ本ト上帝ノ鑄造セラルトコロノモノヲ二神ノ脩理固成セラレシモノニシテ無中ニ有テ生ゼシモノニハアラズ生ト云フ語ニ拘泥スベカラズ而シテ神典ノ高遠絕妙ニシテ人智入力ノ敢テ窺ヒ知ルベカラザル天上界ノ光景ヲ啓示セル宇内無比ノ價值アル寶典ヲバ當初之ヲ輯録スルニ當テ明リニモ彈丸黒子ノ國土ノ名稱ニ喚ヒ倣セシコト鳳凰ヲ雞鷄ニ恧

シメ麒麟ヲ槽檻ニ伏セシムルヨリモ仍ホ甚シキ不倫ノ僻事ナリキ遂ニ古往今來人ヲシテ之レガ了解ニ苦マシメシノミナラズ輓近宇内ノ交通開テヨリ内外ノ人士ハ之ヲ只我一國ニ關係スル昔物語ノ兎園冊ト同一視スルニ至ラシメシハ豈痛歎ノ至リナラズヤイデヤ是ヨリ千古ノ雲霧ヲ排シテ星斗ノ光芒ヲ披カザルベカラズ  
 淡道之穗之狹別島 淡道トハ不遇ト云フコトニテ女性ニ遇逢セザルヲ云フ穗ハ顔ナリ狹別トハ酒醜顔ト云フ約リニシテ即チ世ニ酒星又猩猩ト稱スルモノナリ(狝猴類ノ猩)又回々教ノ稱道スル樂園ニ天ノ美祿ナル醇酒等ノ美味アリト云フト暗ニ符合ス  
 伊豫之二名島 伊豫ハ最ト美ト云フコトニテ二名ハ蓋ナシナリ他界ト交通ノ自在ナルヲ以テ斯クハ稱フ此島ハ四箇ニ別ル蓋シ河海ヲ以テ隔ツルナラン

伊豫之愛媛<sup>エビノ</sup> 此國ハ伊豫ノ名ニ稱ヒ風色最ト美シキ樂園ニシテ翠  
 リノ樹木黛色滴ントシ錦綉ノ百花ハ咲キ亂レテ爛熳タリ仙禽彩  
 鳥其間ニ和鳴上下シ又一帶ノ泉流アリ潺湲トシテ紆徐灌注セリ  
 此園中ニアル多クノ美女ヲ愛媛ト云ヒ雲鬟霓裳歌儻邀待燒燭甚  
 タ意ニ中リ清香鼻ヲ撲チ琴聲耳ニ愜ヒ歡樂涯リナカラシムルト  
 コロナリ彼ノ織女星牽牛星ノ七月七夕ニ鵲橋ヲ度テ相値フト云  
 フハ是ナリ本邦所在ニ風光最モ佳ナル處天女祠アラザルハナシ  
 是ノ天津乙女ノ時ニ遊遊スルトコロナリ昔駿河ノ三穗ノ御崎ニ  
 舞遊ヒ漁人ト相會合セシモ亦是ナリ抑モ本島ハ各宗教ニ重大ノ  
 關係アルモノナリ佛者ハ辨財天ト呼ビ回々教ハ之ヲ善人ノ入ル  
 トコロノ樂園トナシ其甚シキ善人ハ之ト婚配シ柔軟約采ノ褥ニ  
 臥シテ情多シト云フ西教ノ讚美歌ニ

天津乙女ノ住遊ブ清キ川邊ニ吾モマクツイニ行マシ朝夕ニ望  
 ミ待チツ、樂シメリト

右屬望ノ階級ノ高下ハ姑ク舍キ亦以テ俗腸ヲ洗ヒ美妙ノ觀念ヲ  
 發揮セシムルニ足レリ

讚岐之飲依比古<sup>タマキノイヒコ</sup> 不戸鎖男國ノ美少年ト云フ意ナリ此國ノ景狀ハ  
 前ト同シク美麗ナルトコロニテ其栖息スル天人ニ男性女性ノ別  
 アルノミ前ニ云フ牽牛星ハ此天人ナラン又前愛比女ニ對シテ愛<sup>エ</sup>  
 日子ト唱ヘシナラン邦人惠比子ト云フ往昔神后皇宮三韓征伐歸  
 朝ノ途次攝津ノ西ノ宮ニ於テ鯛魚ヲ釣テ奉上セシモノアリ乃チ  
 惠比須ナリシト今尙ホ之ヲ祭祀ス而シテ大黒惠比須ト並ベ稱ス  
 ルトキハ大國主ノ事ナリ以下幸魂奇魂ノ條ヲ看テ知ルベシ  
 阿波之大宜都比女<sup>アハノオホツヒメ</sup> 是モ亦男性ト相遇フガ故ニ偶合トハ云ナリ大



宜都比女トハ長大ノ下卑而女子ト云フ意ナリ俗ニ傳フ阿カメ而  
 ハ此相ヲ寫セシモノト信セラル  
 土佐之武依別土 佐ハ讃岐ノ反對戸鎖ト云フコトニテ他界ノ女性  
 ト交通セザルトコロナリ武依比古トハ勇敢驍武ノ大丈夫ト云フ  
 コトニテ唐ノ天寶中五蕃ノ寇アリ時ニ空中ニ人アリ甲冑ヲ撰キ  
 大戟ヲ揮ヒ猛勢江河ヲ決スルガゴトク虜軍爲メニ披靡セリト是  
 レ世ニ云フ毘沙門天ナリ土佐之武依比古ハ是ナラン  
 隱伎ノ三子島天之忍基呂別 翁ノ赤子ノ意ニテ世ノ諺ニ云フ百歳ノ  
 返リ赤子之ト同意味ナリ天之忍基呂別トハ天上ノ長大ニシテ醜ナ  
 ル頭顱ト云フ義トス世ニ傳フ七福神中ノ福祿神又福助ハ是ノ天人  
 ノ事ナリ乃チ身幹矮小ニシテ恰モ赤子ノゴトク而シテ鬚眉霜雪ノ  
 老人チリ頭顱長大ニシテ不釣合ノ醜男ナリ宋ノ元佑中京師ニ一老

人アリ長僅ニ三尺身ハ首顱ニ相半ス秀目豊髯トヲ以テ市ニ遊フ錢  
 ヲ得レバ則チ飲ム自ラ曰フ吾身ハ老人星ト一日上召シテ酒ヲ賜フ  
 俄ニシテ其人ヲ逸ス翌日大史壽星ノ纏密ニ帝坐ニ掛ルト奏ス云々  
 筑紫國 筑紫ハ美麗ト云フコトニテ天壤間無比絶妙ノ靈界ナリ吾人  
 ヲ類ニハ最モ大關係ヲ有シ假リニモ忽視スベカラス特ニ况ンヤ吾  
 皇祖皇靈ノ代々臨御マシマス神域ニシテ吾人ハ今神典ノ休光ニヨ  
 リ萬々歳ノ下九天雲漢ノ表ニ龍鱗ヲ窺フコトヲ得坐ロニ感激欽仰  
 ノ至リニ堪ヘス此島亦身一而有四面每面有名今謹テ之ヲ圖解スル  
 コト第一圖ノゴトシ其圓球ハ幾ノド直立シ赤道ト樞軸トハ三十度  
 許ノ交角ヲナセルモノナリト認定セラル是レ上段は日光直射シテ  
 晝多ク夜少ク下底ハ恒ニ幽暗ナル所以ナリ其回旋ハ東ヨリ西ニ旋  
 轉ス今唱フルトコロノ東西南北ハ神界ノ日向國ノ神語ナルコトヲ

知り得ラルベシ乃チ東ハヒムカシ西ハヒイニシ南ハヒミナミユ北  
ハヒキタ之ヲ我地球ニ襲用スルコト妥當ナラズ第二圖ヲ着テ了解  
スベシ」

神國ハ地名人名ニハ多ク直接目撃スルトコロノモノヲ取レリ就中  
日常親睹スル身躰ヨリ明白ナルモノハ莫シ是レ神名ニモ地名ニモ  
大概身躰ノ名稱アル所以ナリ

豊葦原之千秋チキキカキカキノシホ長五百秋之水穗國トハ此球ノ上三段ヲ連稱セシモノ  
ナラン中津國ニ對シテ豊ト呼ビ千秋ハ血明又火明ト稱ヘテ第一段  
ノ光耀遍照ヲ云ヒ長五百ノ百ハ日ナリ日晷ノ最モ長キ義ニア即チ  
日向ノ國ヲ云ヒ秋之水穗トノ秋ハ青ト最下段ノ黄色トノ稍々相混  
ズルガ故ヨ青黄ト云ヒ水穗トハ不見日ニア豊國ヲ云ヒ其漸次ニ限  
ナスガ爲メニ名ケシモノナルベシ

白日別 最上頂白色ノ神域ニシテ上帝及ヒ神魯岐神魯美ノ臨御マ  
シマス高御座ナリ猶ホ天球ノ高御室ト異ナラズ虛位ノ聖所タリ  
火ノ國速日別 日光直射シテ光華明彩靈光照徹日没スレバ少頃ク  
ニシテ日出ヅ是レ火ノ國及ヒ速日別ノ稱アル所以ナリ一名高天  
原ノ日ノ大宮ト稱シ或ハ天ノ高市ト稱ス大物主神及ヒ事代主神  
八十萬神ノ會合セラレシ所ナリ

因ニ云フ高御座ト云ヒ高天ヶ原ト云ヒ其他天球ノ名稱ト同一  
ノモノ多シ恐クハ讀者ノ或ハ迷誤センコトヲ本ト此球ハ天球  
ノ小慕型ニシテ彼ノ西人ノ所謂地ニ行ハル、法則ハ天ニ於テ  
モ亦其法則ノゴトク行ハル、モノト云ヘルゴトク上帝ノ吾人  
ヲシテ天球ヲ類推セシメラル、爲メノ設計ナルコトヲ恐察セ  
ザルベカラズ

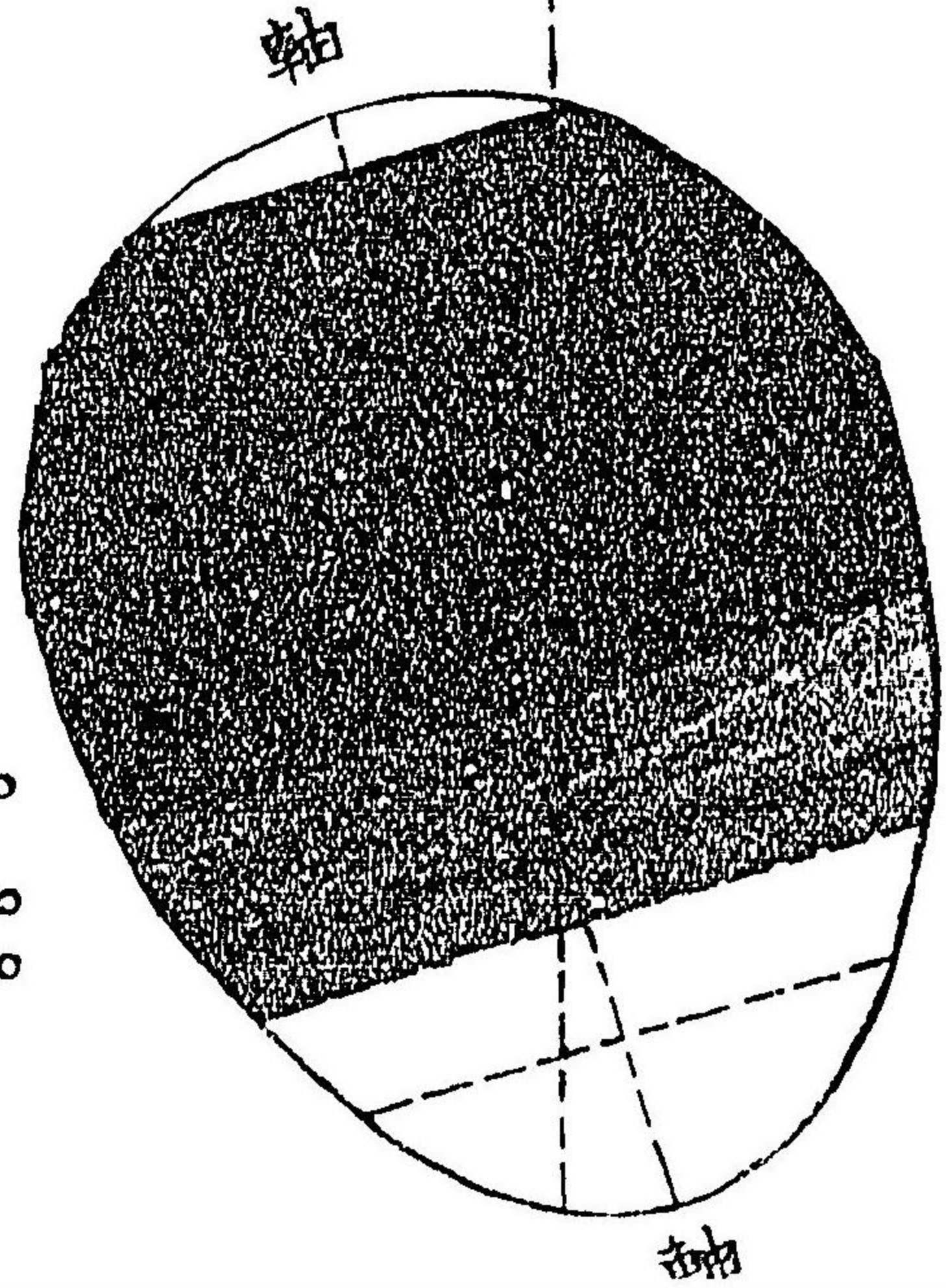
其稍々下層ヲ日ノ少宮ト名ケ吾皇祖天照大御神茲ニ御坐マス此  
域ハ赤道直下ヲ避ケ甚々居住ニ適シ所謂住吉ノ神地ニシテ山河  
襟帶自然ノ帝都山ニハ天ノ香山カクヤマアリ天ノ金山カネヤマアリ河ニハ天ノ安  
川アリ營田ノ事アリ絳織ノ事アリ動物ニハ天ノ班駒直男鹿アリ  
植物ニハ天ノ眞賢木小竹葉等アリ劍鏡アリ弓矢アリ其他百物服  
御備ハラザルモノナシ彼ノ一時世ノ亂離ニ會シ下神上侵シ荒フ  
ル神跋扈シ皇祖天照大御神ノ赫怒マシマシテ帝坐ヲ遷レテ磐戸  
ニ潜龍シ給ヒシモ此地ナリ

此地ト下界日向ノ國トヲ隔ツル一條ノ雲ノゴトキ又川ノゴトキ  
所アリ之ヲ天之八重雲ト呼ヒ天ノ磐船ヲ浮ブト云ヒ又天ノ浮橋  
トモ云フ天孫ノ葦原ノ中國へ降臨ノトキ天翔リ國翔リシマセシ  
名蹟ナリトス

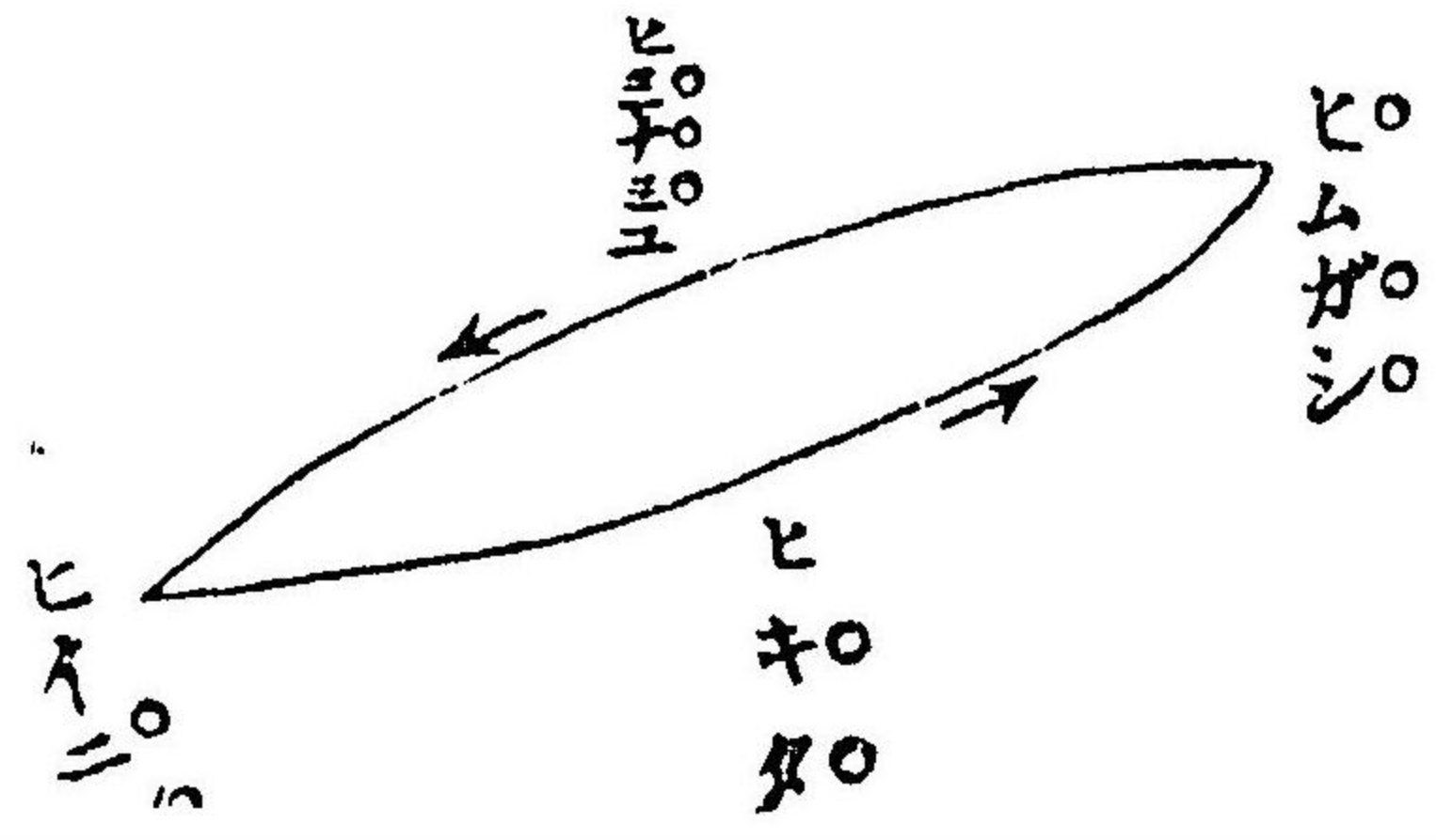
大陽

- 白日別
- ▨ 火ノ國
- ▩ 天之八重雲
- ▧ 日向國
- ▦ 豊國
- ▥ 湖之八百重
- ▤ 熊襲

第一圖

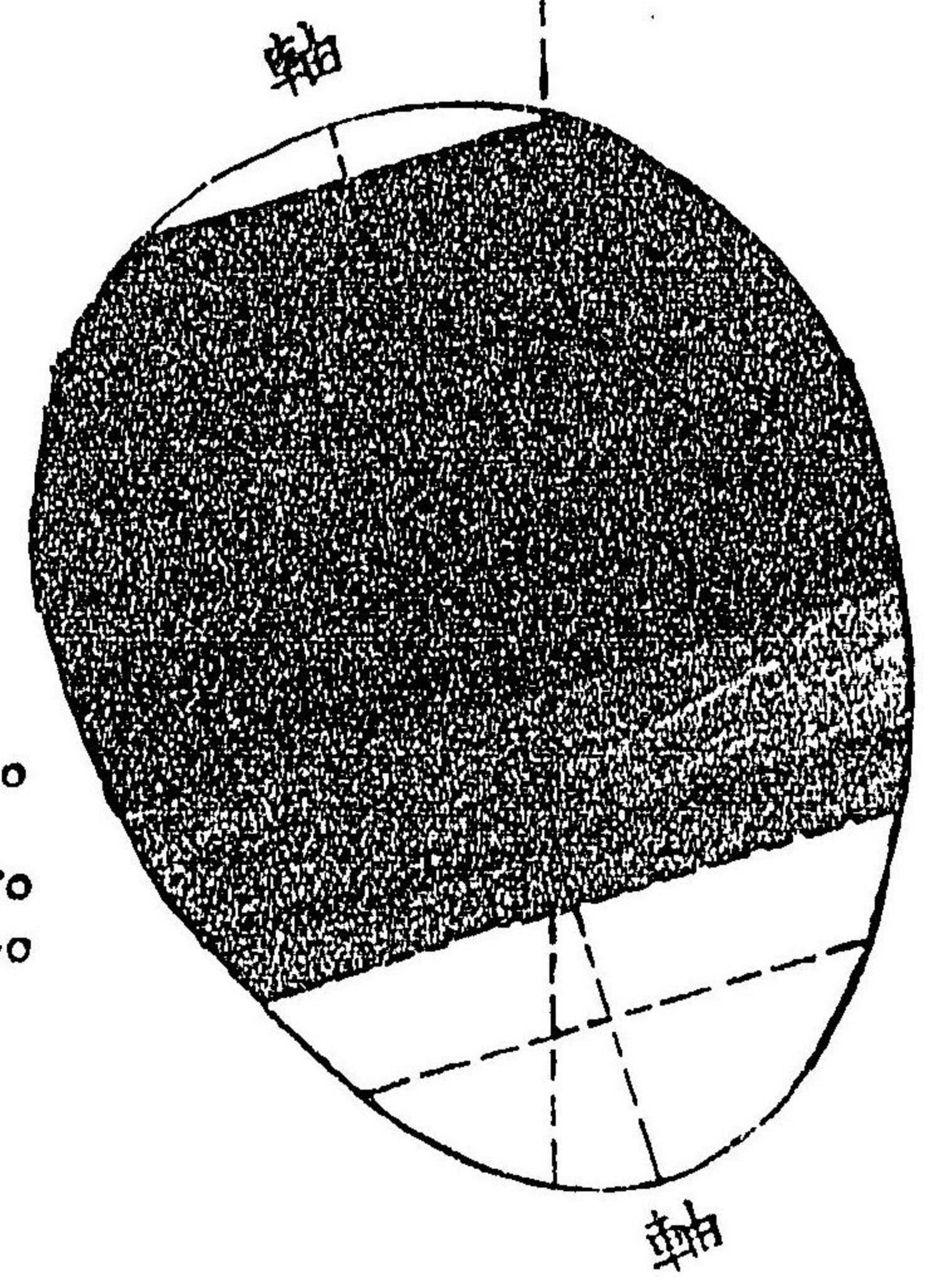


第二圖

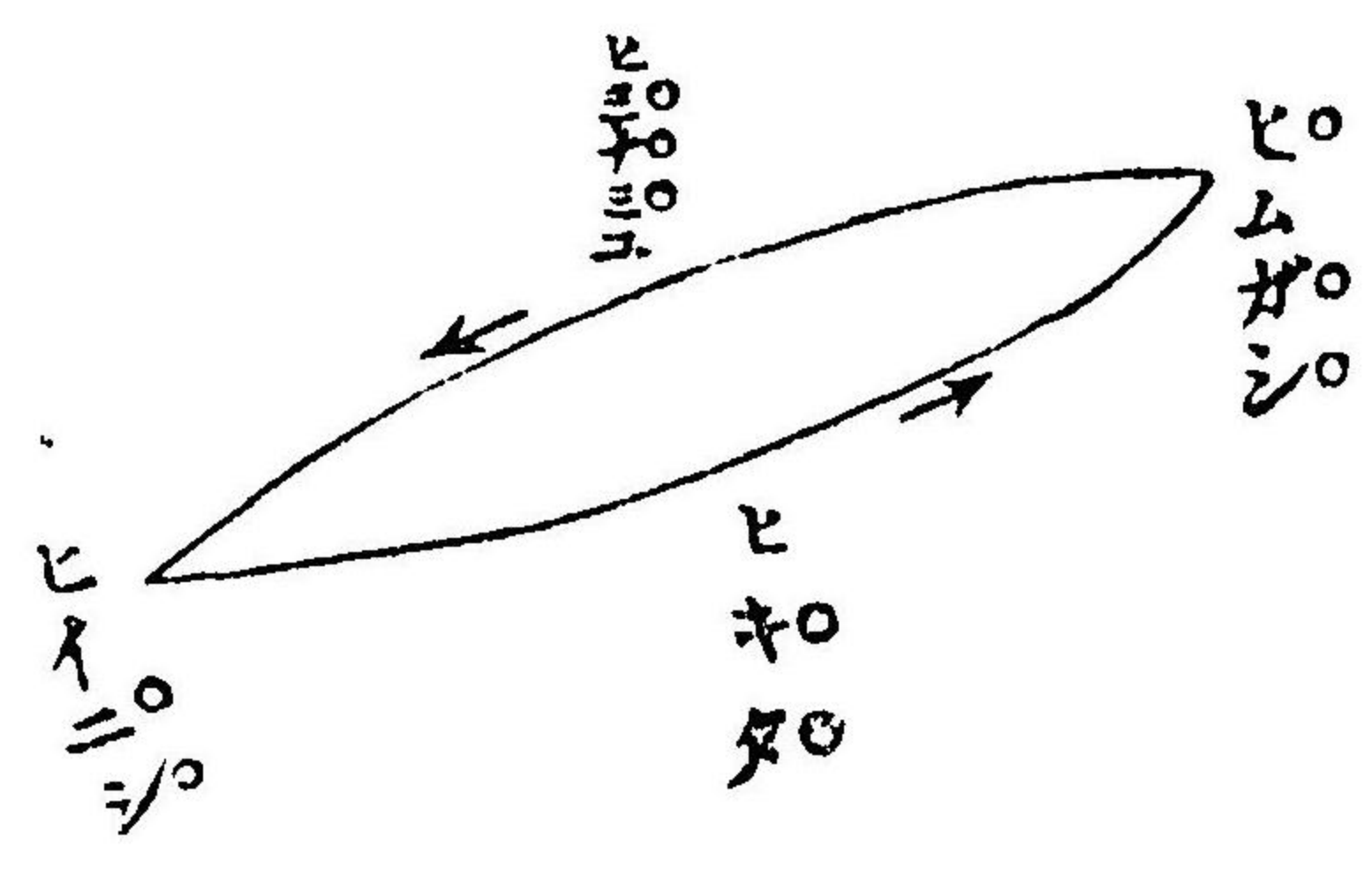


□ 白日別  
 ■ 火ノ國  
 ■ 天之八重雲  
 ■ 日向國  
 ■ 豊國  
 ■ 湖之八百重  
 ■ 熊襲

第一圖



第二圖



日向ノ國豊久土比根別 常ニ太陽ト相對シ吾人ガ朝カサ嗽カサヲ視ルガゴ  
トクナルガ故ニ日向ヒムカヒト云フ豊ハ上段ニ對スルノ稱ナリ久士比ハ  
美麗ウツクシ日ナリ根ハ下ナリ皇孫天津彦火瓊杵アマツヒコノ尊ノ初メテ降クダリ到マ  
セシハ此域ノ高千穂タカチホ之多計オホカニシテ爾來皇居テ爰ニ奠メ給ヒキ之  
ヲ高千穂ノ宮ト稱ス高千穂ノ多計トハ高乳臍チホノ頭髮ウケト云フ義ニ  
テ此域ノ最モ廣衍平濶ニシテ樹木ノ鬱鬱タルトコロニ降臨マシ  
マセシヲ云フ樹林ハ頭髮ノ叢生セルニ類似ス故ニ斯ノ稱アルベ  
シ  
抑モ是ノ國ハ藍色ノ雰圍氣ニ包裹セラレ日出ノ處ノ邊ハ毎ニ紫  
雲糝糊ノ間ニ靉靄シ時ニ上國ノ朱金色ヲ漏泄シ藍界ノ銀光ト相  
映シ爲メニ滿目ノ風光川湖樹木ヨリ花艸飛禽獸畜及ヒ殿園物具  
ニ至ルマデ皆瑠璃彩爛人ヲ射リ眼ニ炫シ所謂美麗ウツクシノ國ノ名稱孚

トニ虚シカラズ思想ノ力モ及ビ難キ最トモ不可思議的ノ妙界ナ  
 リトス而シテ山岳ハ一モ神典ニ見エザルガゴトシ湖海灌漑ハ則  
 チ所在ニ瀉注シ天鏡一碧或ハ激澗藍ヲ拖キ朱荷紅藕其中ニ芳姿  
 ヲ抽キ清香ヲ薰セリ佛家ノ所謂八功德池ニ芙蓉ヲ見伽陵頻伽ノ  
 妙音ヲ聞トハ抑モ是ナリ西經ニ埃田<sup>エデン</sup>ノ園ト稱スルモノ亦是ナリ  
 爰ニ寫シテ參照スベシ曰ク河アリ流レ出テ以テ其園ニ灌ゲリ一  
 ハビソント曰ヒハピラ四方ニ潑洒セリ曰ク何曰ク何ト想フニ彼  
 ノ始祖ト唱フル男女二人ハ本ト此國ニ在リシモノナルコト疑ナ  
 シ而シテ當時魔神ニ誘惑セラレ罪惡貫盈シテ天孫ノ葦原へ降臨  
 ノトキ其天軍ニ放逐セラレテ陷歿シ來リシモノナルコト知ルベ  
 シ西部亞細亞歐羅ハ其子孫ノ蔓延セシモノナルコト亦知ルベシ  
 之ヲ吾人國神ナル少名毘古ノ後裔ニ比スルヲ得ンヤ况ンヤ天孫

ニ於テテヤ聞クトコロニ據レバ現今歐西ノ實驗學者輩ハエデン  
 園ノ遺跡ヲ搜索スト稱シ彼ノユウフヲテ河畔ヲ徘徊上下シテ頤  
 リニ其手掛リヲ求メ居レリト云フ井底痴蛙ト一般噴飯セザラン  
 ト欲スルモ得ヘケンヤ實驗學派ノ局促管見之ヲ以テ推知スベシ  
 餘事ハ擱キ以上開示スルトコロノ樂境樂地ハ雲烟過眼茫々一タ  
 ビ逝テ復タ痕迹ヲ止メザルモノト思惟スルコト勿レ同胞兄弟ヨ  
 今尙ホ依然當時ニ殊ラズ其門扉ハ毎ニ開放シ勉メテ人ヲ招徠シ  
 テ怠ラザルモノアルコトヲ忘ルベカラズ人壽百年水面ノ泡沫榮  
 利寵達ハ黃梁ノ一夢寧ロ千代モ八千代モ常盤ニ動カヌ永生眞福  
 ノ域ニ上ルノ優レルニ若ンヤ  
 我日本語ハ此天上界ノ語ト同一ノ言語ナリ本邦ヲ言靈ノ邦ト呼  
 フモ之ガ爲メノミ誠トニ神聖無比ナリトス今ヤ世界ノ善男善女

が異日此靈界ノ神民トナリ神子トナラント懇祈熱願スルモノハ  
 先ツ來テ日本語即チ神語ヲ修メザルベカラズ且ヤ今ニ及ンデ我  
 皇風皇化ニ浴セザルベカラズ否ラザレバ異日僥倖ニシテ天上ニ  
 躋ルトモ異邦人ト呼バレ醜<sup>シ</sup>メキ國人ト呼バレ天國ノ片隅ニ屏居  
 シテ神州ノ神民ト共ニ齒スルコト能ハザルベシ吾人ハ外人ノ爲  
 メニ愛惜シテ已ム能ハズ然ルヲ反テ我邦ノ形情ハ此神語ヲ神語  
 トモ思ハズ自ラ卑下シテ侏儒ヲ學ビ假令ヒ交際ノ便宜ニモセヨ  
 國家ガ勸奨シテ一般ニ外音ヲ操ラシムルニ至リシハ豈咄々怪事  
 ナラズヤ

豊國ノ豊日別 伊邪那岐命ノ禊<sup>ミヤ</sup>祓<sup>ヤ</sup>シ給ヒシ筑紫ノ日向ノ橘<sup>ミカ</sup>ノ小門<sup>コト</sup>  
 ノ阿波岐<sup>アハキ</sup>ヶ原トハ此處ナリ蓋シ橘ハ立<sup>タチ</sup>鼻<sup>ハナ</sup>ニテ山嶽ヲ云フ阿波岐  
 トハ青<sup>アヲ</sup>脛<sup>ハネ</sup>ナリ想フニ這裏ニ棲息スル人種ヲ青人草ト呼ヒ百物需

用一モ完備セザルモノ莫ラン何トナレバ山嶽ハ造化ノ寶庫不盡  
 藏ニシテ金銀銅鐵ヲ秘有シ造化ノ特ニ人ノ幸福ニ供シ人ヲ勸奨  
 シ人ヲ鼓舞シテ事爲ヲ經營セシムルモノナレバ優悠無爲ノ域ニ  
 アラズシテ文明ノ既ニ業ニ黄金時代ニ迄上達セルノ狀洵ニ歛膽  
 スベキナリ

此國并ニ上國トモ奮ト國神ナル大國主ノ大神少名毘古名命ト共  
 ニ國土ヲ經營セラシトコロニ係ル其生活的ノ稍々進歩シ文物  
 ノ稍々觀ルベキニ至ルト共ニ弊竇百出紀綱廢墮姦穢流行殘虐風  
 ヲナシ女ハ男ニ撈拐セラレ強ハ弱ヲ凌ギ大ハ小ヲ併セ龍蛇亦人  
 ニ驕ルニ至レリ是レ葦原ノ中津國ハイタク亂レテ惡神<sup>カガ</sup>五月蠅<sup>ハ</sup>ナ  
 スメリト宸襟ヲ腦マセラレシ所以ニシテ撥亂反正ノ爲メ皇孫ノ  
 降臨無ルベカラザル時運ニ達セル所以又大國主ノ大神及ヒ其子



事代主大神ノ歸順誠款ヲ表セラレ闔族皆出雲へ神避テ給ヒシ所以ナリ而シテ大國主ノ神ヲ始トシ仍ホ皇孫ヲ奉護セラレシハ勿論天降ノ輔弼天之兒屋根ノ命等ト經營統治セラレ遂ニ平國ニソ趨キケル

出雲ト云セ伯耆ト云ヒ伊那波ト云フガゴトキハ皆此中ニ在リ出雲ハ出ル股ナリ其位置ノ股ニ當ルノミナラズ蓋シ湖海ヲ挾ンテ岬出スルトコロナルベシ或ハ又此邊ハ毎ニ七色ニ加フルニ金色ヲ以テスル八重雲ノ大空ニ燦爛トシテ現出スルトコロナルベシ彼ノ素盞雄尊ノ八股ノ蟒蛇ヲ斬リ天之叢雲ノ寶劍ヲ獲給ヒシハ此邊簸ノ川上トス而シテ杵築ノ宮モ此出雲ノ國ノ中ニ在リ

伯耆ハ禊祓ノ阿波岐ヶ原ト同所タリ

伊那波未タ考出セズ姑ク疑ヲ闕ク

爰ニ神典ヲ讀ムモノ豫メ注意セザルベカラザルモノアリ此神域ハ鳥獸マデモ皆人語スルモノナルコトヲ若シ豫メ之ヲ會得セザレハ奇怪ノ念始メニ生シ遂ニ之ヲ荒唐ナリトシ之ヲ無稽ナリトシテ神典マデモ不信ニ付シ去ルニ至ラン西經ノ記載スルゴトク其始祖ヲ誘惑セシ蛇ノ人語セシハ決シテ妄作ニアラザルナリ蓋シ今日ニテモ悟性ノ發達セシ高明ノ士ハ鳥獸ノ人語ヲ聽取スルニ難カラザルベシ

熊襲建日別 隅裾ニシテ最下段ノ陰府ナリ或ハ大隅ト曰ヒ或ハ啖喰ト曰ヒ或ハ夜之食國ト云ヒ堅州國ト曰フ絶テ日光ナク僅ニ月光ヲ仰グノミニシテ最トモ醜メキ汚穢ノ國ナリ其幽暗黯澹ノ狀醜鼻スベシ此邊一面黃ナルベシ青黃ノ稱ニテ推知スルコトヲ得

伊邪那美命素盞ノ尊及ビ大國主ノ神ノ入ラレシハ此ノ陰府ニ外

以上筑紫ノ國ハ天球ノ小幕型ニシテ最上段ハ高御室ニ擬シ次上段ハ高天ヶ原ニ肖似シ中段ハ吾人ノ世界ヲ現象シ下段ハ天地ノ最下層タル陰府ヲ指射スルモノニシテ天球ノ影ト云フベシ  
 輓近望遠鏡ノ發明ニヨリ彼ノ火星ヲ實驗セル學說ニ據ルニ火星ハ甚々壯觀ヲ呈シ陸地ハ赤黄ニ見エ海水ハ暗綠色ニ見ユト其海水ト見シハ誤レリ素ヨリ陸地ナリ思フニ全球ノ右側面ヲ觀望シテ赤青黄ノ三色ノミヲ認メシモノナラン今一步ヲ進メテ光采ノ炳媽タルヲ確認スベシ  
 抑モ我開國以來以上ノ國名ヲ以テ内國ノ名稱トナセシコト今日ヨリ見レバ甚々不當ハ則チ不當ナリト雖レ亦深意ノ存スルアリ前々陳述セシゴトク本邦ハ此天上界ノ寫映ニシテ猶ホ此天上界ノ名稱

ガ天球ノ名稱ト稍々同一ナルトコロアルガゴトク妄ニモアラズニユルニモアラザルナリ仍ホ本邦ガ此地球上ノ神域ナルコト天上界ノ高御室即チ神ノ御坐ト同一ナルノ理ヲバ下條ニ於テ詳述スベシ  
 嗚呼謫陋ノ小人末代ノ罪夫筆ヲ呵シテ濫リニ破天荒ヲ擬シ天闕ノ禁秘ヲ發キ玉京ノ盛事ヲ覗ヘリ我皇祖皇靈ノ呵譴ヲ蒙ラザルモノハ殆ント僥倖ナリ蒼天茫々歲月悠々俯仰今昔ノ感ニ堪ヘズ筆ヲ投シテ蹴然起テ書牕ヲ啓ケバ夜色冷涼星斗人ニ逼ル  
 佐渡島武日別 佐渡ハ前土佐ト同意義天門ヲ鎖シテ出入ヲ許ササルノ意ナリ武日ハ明瞭ヲラザレバ其人ノ武勇ヲ云フナラン固ヨリ交通ナキヲ以テ亦其形狀ヲ知ルニ由ナシ晋ノ陶侃夢生八翼飛而上天見天門九重比登其天惟一門不得入闢者以枝擊之因墜地折其左翼及寤左腋猶痛シト蓋シ是佐渡島ナルベシ我古代ノ俗諺ニ來イト云フ

ヲ迎往<sup>ユ</sup>ガリヨカ佐渡へ佐渡ハ四重<sup>シツク</sup>凝浪ノ上ト是レ他界ノ天女ノ神  
 歌トコソハ知ラル、ナリ  
 伊伎<sup>イキ</sup>之天<sup>アメノ</sup>之一ツ柱 伊伎<sup>イキ</sup>ハ長生<sup>ナガイキ</sup>ノ義ナラン世ニ傳フ壽老人ノ杖ヲ引  
 クハ乃チ一ツ足ノ故ニハアテザル歟一本一ツ目ニ作ル一目ノ人種  
 ナルガ故ニ最<sup>イ</sup>ト奇<sup>ク</sup>牀<sup>シキ</sup>國即チ伊伎ト道フナルベシ疑ヲ闕ク  
 津島<sup>ツシマ</sup>之天<sup>アメノ</sup>之繩<sup>ツナ</sup>依比女 吾人ノ栖止スル地球ノゴトク環瀛ナルガ故ニ  
 津島ト稱フ此女性ハ皆頭上ニ繩<sup>ツナ</sup>貝ヲ戴ケリ世ニ云フ龍宮是ナリ雄  
 略天皇ノ廿二年丹後ノ國水江ノ浦島子適々船中仙女ニ誘レテ蓬萊  
 島ニ到リ珍羞ノ供鳳鸞ノ曲伉儷三年歸思暗ニ動キ一朝龜背ニ送致  
 セラレ故國ニ入レバ今ハ昔數千年ノ後ナリシ已ニシテ玉匣ヲ啓ケ  
 バ忽地ニ白頭翁トナリシトゾ正史ノ傳フルトコロ歷々タリ是レ此  
 ノ津島ナリシヤ疑ヒナシ

大倭豊秋津島天<sup>ミ</sup>御虛空<sup>ソラ</sup>豊秋津根<sup>ネ</sup>別 是レ乃チ現界ナリ此次條ニ於テ  
 詳説セン茲ニ畧ス

以上八島ヲ親島ト云フ是レ皆第五階級中ニ羅布スルトコロノモノナ  
 リ而シテ上層第四階級ニ麗離スルトコロノモノヲ兒島ト云フ其所以  
 ハ凡テ靈ニ係ルコトハ天上ヲ主トシ物質ニ係ルコトハ下土ヲ主トス  
 ル故ナルベシ<sup>ア</sup>目ヲ擧レバ森羅萬象吾人が塊球ハ一粟粒ニ過キズ而  
 シテ之ヲ各天人界ニ比スレバ其純粹其幸榮其樂易其富贍如何ゾヤ筆  
 下魂飛ヒ神馳セ爽然自失スルモノ久之

現世界ノ形勢

大倭豊秋津島天<sup>ミ</sup>之御虛空<sup>ソラ</sup>豊秋津根<sup>ネ</sup>別 是レ廼チ吾人ノ棲息スル輿地  
 ニシテ今之ヲ五大洲ニ區劃シ面積三千零々七万九千餘方里人口十四  
 億八千ヲ有スル第五階級豊葦原ノ八島中最下ノ一個島ナリ又之ヲ常<sup>トコ</sup>

世トモ乙國トモ日高見ノ國トモ云フ先ヅ爰ニ大倭豊秋津島ノ名義ヲ  
 解説スベシ蓋シ吾人ハ之ニ由テ地球ガ天球ノ如何ナル位置ニアル  
 乎ヲ認識スルコトヲ得ベシ夫レ大倭トハ親島ノ下ト云フ義ニテ其位  
 置ノ最下位ニ在ルヲ云フ或ハ大矢的ノ義ニテ中央ニ位スルヲ云フ此  
 ノ兩義共ニ通スベシ豊トハ乙子世ノ約リニテ弟國ノ稱ナリ常世ト云  
 ヒ乙國ト云フモ皆然リ秋トハ青黄ノ約リナリ上層ノ青色ト下層ノ黄  
 色トノ間ニ在ガ故ナリ彼ノ夏木ノ翠綠ト黄葉トノ間ノ時候ヲ秋ト云  
 フト異ナルヲナシ津島ハ所謂四海ニシテ處トシテ海津ヲラザルナキ  
 ヲ云フ吾人ハ此地球ノ地位ヲ知ルヲ得シ之ニ由テ吾人々類ハ宇宙  
 間神人ノ最劣等ニ屬スルモノナルコトヲ會得シテ各自ニ靈性ノ上達  
 上進ヲ圖ラザルベカラズ吾人ハ此地球ノ幾ノト下層黄泉ニ近隣スル  
 ヲ知ルヲ得シ之ニ由テ吾人ハ自己ノ生命ノ危急ナルコトヲ了知シ

テ各自ニ上帝及ビ神明ニ奉事シ靈性ノ沈淪落没ヲ防カザルベカラズ  
 蓋シ神典ノ垂示スル微旨ノ吾人ヲ獎勵シ吾人ヲ警戒スルコト此クノ  
 ゴトシ眷々服膺セザルヘケンヤ

夫レ吾人ハ天地ノ創始及ビ其經歷若クハ此地球ノ脩理マテヲ知レリ  
 併セテ吾人ハ吾人ノ鼻祖ガ岐美二神ニ形質ヲ固成セラレシヲ知レリ  
 隨テ吾人ハ鼻祖ノ形質ガ如何ナル形象ナリシヤ爾後如何ニ變遷進化  
 セシヤ人文ハ如何ニシテ開成セシヤ等ヲ知ラントヲ欲スルハ吾人ガ  
 理念ノ熱望ニシテ其正鵠ヲ得ザレバ已ム能ハザルハ蓋シ自他同一ノ  
 感ナルベシ

前天之御虛空別ノ解釋ヲ故ラニ默過シテ斯ニ至リシガ是ヨリ其名稱  
 ヲ推究シテ其眞面目ヲ顯シ以テ吾人が鼻祖ノ形象ヲ親ハザルベカラ  
 ズ今ヤ此ノ人祖論ハ世界ノ學術上宗教上ノ一大難問ニシテ筆戰舌鬪

中原鹿ヲ逐フノ景狀ナリト聞ク是時ニ當テ吾神典ハ纔ニ此隻語ヲ以テ挺然紛亂ヲ解キ疑蒙ヲ排スルニ千鈞ノ力萬斛ノ量ヲ著セリ  
 天之御虛空判トハ頭目ノ見虛空ト云フ義ニテ頭頂ニ眼目アリテ毎ニ虛空ヲ仰視スルノ怪物的乃チ牛頭ノ動物ナリキ是レ乃チ岐美二神ノ時代ニ固成セラレ已ニ大洪水以前マテ此地球上ニ棲息セシ人類ノ始祖ナリトス蓋シ其遺趾遺象ハ世界ニ乏シカラザルベシ先ヅ其二三ヲ舉テ之ヲ實證スレバ地中海岸ノスリヤノペニケニ在リシ偶像ハ是ナリトス即チ牛頭人身ノ怪物ナリ圖ノゴトシ



其他漢土ノ大古史ニ牛頭蛇身ノ人物アリ我邦ニテ牛頭天王即チ祇園社ナリ之ヲ素盞雄尊トスルハ神道者流ノ僻說ナリト稱スルモノ亦是ナリ想像スルニ牛頭ノミナラズ漢史ノ傳フルゴトク蛇身ニシテ鱗介アリシモノナラン今日ニテモ蠻俗ニハ大概文身シ或ハ好ンテ蛇牀ヲ刺繡スルコト漫ニ看過スベカラサルノ一考證ナルベシ加之ナラス深ク人間ノ性理ヲ叩ケバ蛇蝎ノ性情冥々ノ中ニ見ハル、モノ歟邪蘇毎ニ罪人ニ對シテハ蝮ノ裔ト罵リ釋迦人ニ誨ユルニ毎ニ云フ煩腦ノ毒蛇眠テ汝ガ胸ニ在リト而シテ肉食ノミニシテ人々相噬ミシモノナラシ其ベニケニテハ幼童ヲ燒キ殺シ之ヲ供物トナセシテ以テ證スベシ此ノ動物ノ地球上ニ跋扈セシ其間ハ幾十萬年ノ久シキナルヤ知ルベカラズ而シテ此世界ニモ粗末ナガラモ彫刻臼杵等ノアリシコトハ西學者ノ教ユルガゴトシ既ニシテ上帝ハ此不完全ナル怪物ヲ造リシコ

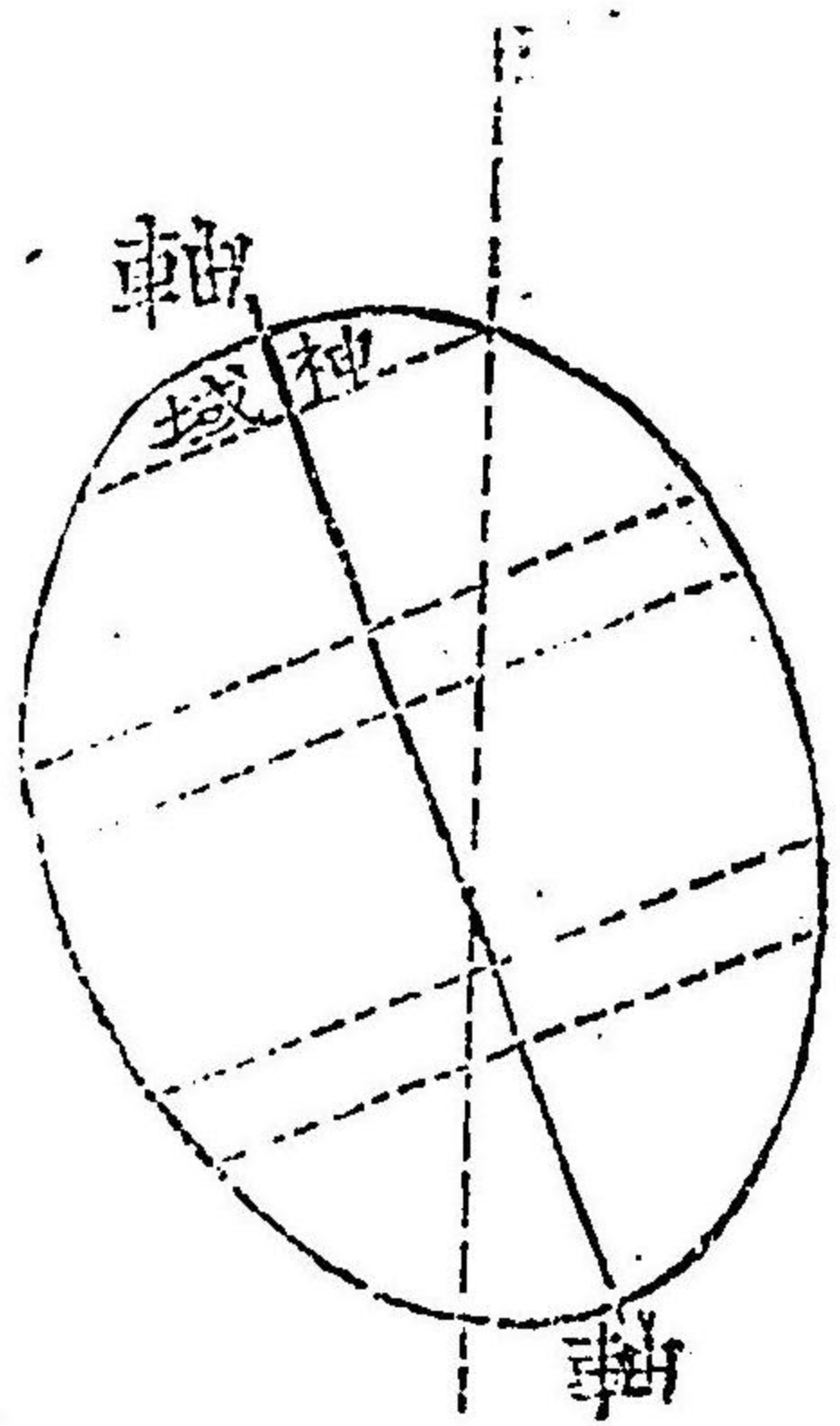
トヲ悔ヒ一大洪水ヲ全世界ニ汎濫セシメ、ノアノ洪水ニアラズ禹ノ洪水ニモラズ、稍後來ノ種子トナスベキモノヲ除クノ外ハ蕩然一掃シテ復タ噍類ナク淘汰ノ大法ヲ斷行セリ相尋テ天上界ニモ亦陶太ノ法行ハレ天人ノ劣等ナルモノヲ驅逐シテ陸續地球上ノ各所ニ降落セシメ(西經史ノアダムエバハ蓋シ遣中ノ其一ナラン而シテ新世界ノ人類ノ夙ニ増殖セシハ亞細亞洲ノ西部ナルコト誣ユベカラズ之ヲ以テ東方全般其ノ子孫ナリト云フハ妄モ甚シ)其前世界ノ遺種ト雜揉シ生子増殖ノ事ヲ圖レリ居ルコト又幾十萬歳ニシテ更ニ人種各所ニ蔓延シ眼鼻耳口ノ漸次ニ其所ヲ移シ化醇シ稍々天人ニ肖似スル其間ニハ猿猴ノゴトキ面貌トナリシ時期モ可有之英人ダルフン氏ハ偏ニ此時期ニ若目セシナラン後又幾十萬歳ニシテ始メテ全ク天人ト其軀容其性情其語音ヲ同ウスルノ時期ニコソハ達シケル於是乎純粹ナル天人各所

ニ降臨シテ工藝稼穡ノ事若クハ紡織文字醫療ノ事ニ至ルマデ凡ソ人生百般幸福ニ供スルノ資料ヲ誨示セリ稽フルニ神典中前後此地球乃チ常世トコヨ或ハ根國ニ入り給ヒシ天神地祇ニハ素盞雄尊ソサノヲ大國主ノ神少名毗古名命御毛入浴命ナリ而シテ素盞雄尊ハ西方ニ(猶太ノ神ノエホバハ舉動ノ疎暴ナル或ハ此神ナラン)少名毗古名命大國主ノ神ハ東方ニ(漢土ニハ夙ニ文運ノ進歩アルニヨリ推知スベシ)其後倭即チ我日本ニ登リ給シ後幾クモナク事物ノ稍々進歩スルニ隨ヒ亂雜絶ユル間ナク彼ノ天上ノ事蹟即チ皇孫ノ葦原ノ中國へ降御前後ノ爭擾ヲ再演セリ於是乎又皇孫ノ降臨無カルベカラズ迺チ神倭依波禮毗古ノ命(神武天皇)ノ侍臣ヲ率テ天上高千穗タカチホヲ出テ降臨マシマシ后末ダ幾モナク天功ヲ畢ヘ長ヘニ吾大和ヤマトノ楹原ノ宮ニ宸宮ヲ定メ玉ヘリ

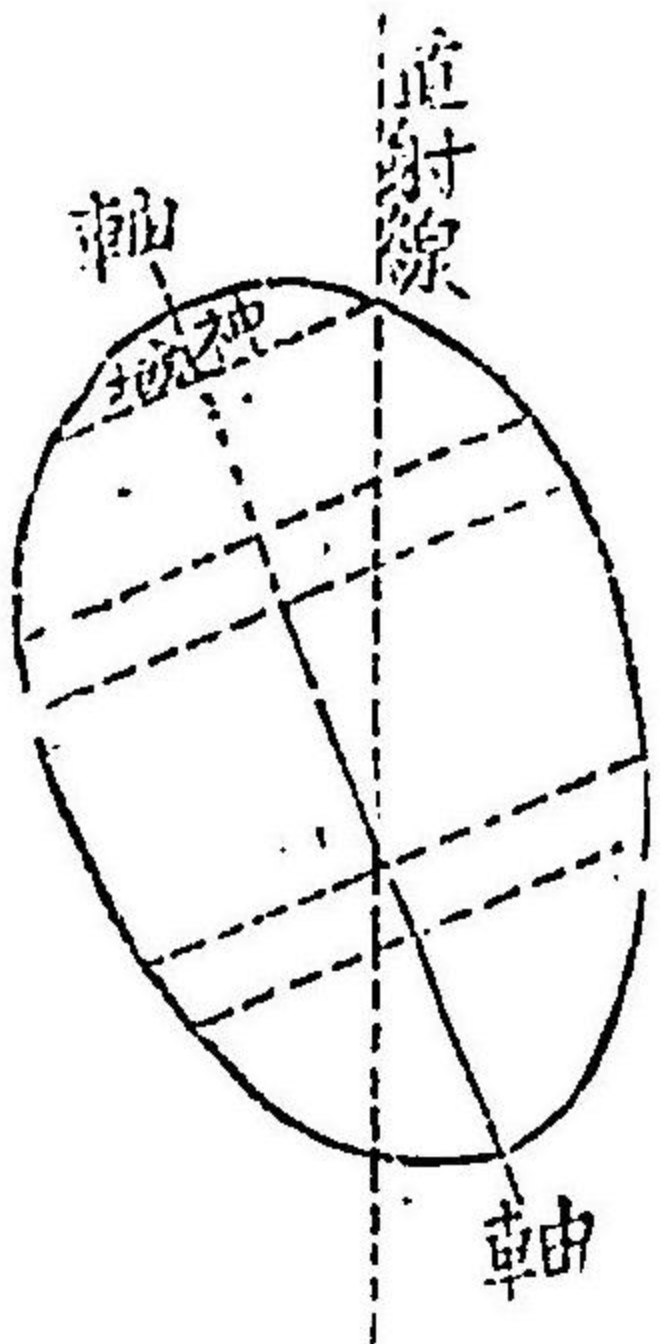
以上開陳スルトコロニ籍リ吾人形質ノ始祖ハ牛首ノ怪物ナリシコト

ヲ知ルベシ後大洪水ニヨリ一洗セラレテ更ニ新萌芽ヲ出シ天人下土  
 ニ降り吾人が祖先ヲ其肖像ニ改造シテ粗ヨリ精ニ入りシヲ知ルベシ  
 天人ノ吾人が幸福ノ資ニ供セシヲ知ルベシ吾人ハ特ニ皇孫神倭伊波  
 禮毗古命ノ天上ヨリ我日本ニ降臨シ給ヒシヲ體認セザルベカラズ爾  
 來寶祚ノ長キ天壤ト限リナク茲ニ二千五百有餘年之ニ由テ知ルベシ  
 我帝室ノ尊嚴萬國ニ比類ナキコトヲ而シテ神州ノ神州タル所以仍ホ  
 茲ニ確實ニ其證左ヲ舉グ讀者ヲシテ歸向スルトコロヲ知ラシメント  
 欲ス

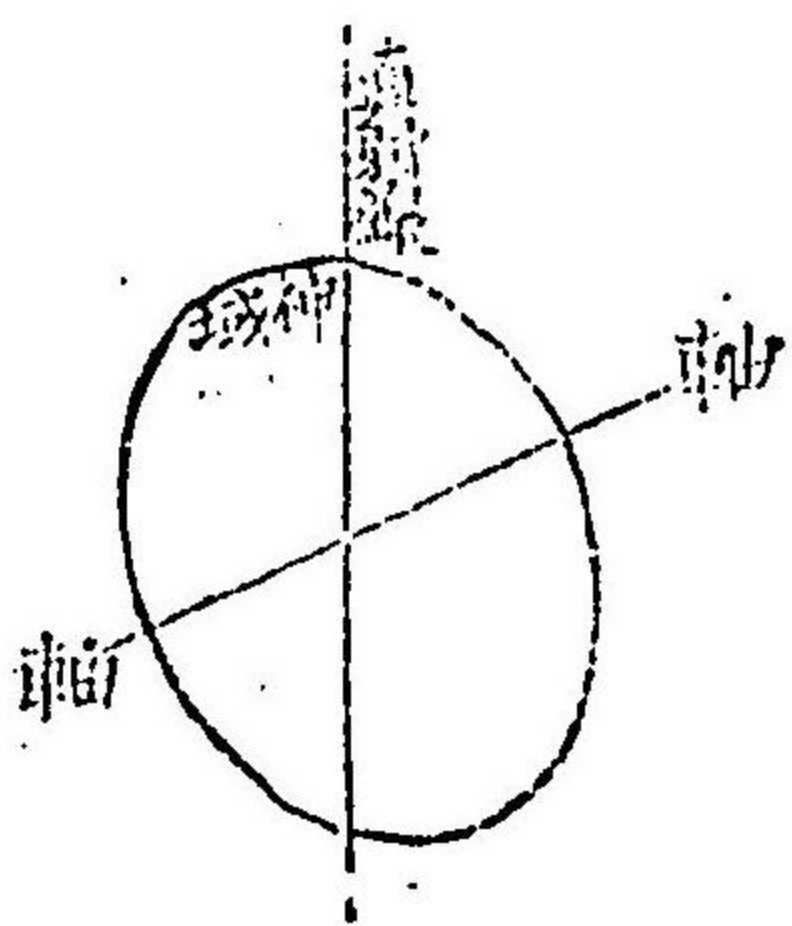
第一圖 天球



第二圖 筑紫日向島



第三圖 地球



以上三球ヲ比較スレバ神ノ存在スル御坐ノ位置赫々トシテ日ヲ見ル  
 ガゴトシ固ヨリ上帝ハ在サ、ルナク知ザルナシ然レモ故サラニ一週

間首日ヲ自カラノ聖日トナシ玉ヘリ天球ノ七階級其首級モ亦自ラノ  
 聖所トナシ玉ヘリ之ヲ以テ之ヲ推ストキハ各星球前同位置ヲ其聖所  
 トナシ玉フコト誰カ復不可トセン神州ト稱ヘ皇國ト云フコト之ヲ自稱  
 自負夸言捏造虛構虛飾ト云フベキカ少シク熾簫ニ觀察シ細密ニ思考  
 セバ豁然トシテ悟リ渙然トシテ解ケ皇孫ノ奉護セザルベカラザルコ  
 ト只我一國ノ爲メニアラズ萬國萬民ニ關係スルノ輕少ナラザルヲ自  
 認スベシ而シテ西癖者流ヲ恥死セシムルニ足ラン曾テ西學者ノ言ニ  
 聞ク後代ノ種子ハ前代ニ胚胎スルコト歴史ノ原理ナリト之ヲ十萬億  
 土天上ニ於テ文物ノ稍々上進シ弊害隨テ生シ皇孫瓊々杵尊於是乎降  
 臨セルト又之ヲ數千歳ノ上地上ニ於テ文物稍々上進シ弊害隨テ生シ  
 皇孫神倭伊波禮毗古於是乎降臨シ給ヘルコトヲ參照スレバ今日文物ノ  
 稍々上進シ弊害百出ノ際復々皇孫ノ降臨ナカルベケンヤ乃皇風皇化

ヲ宣布シテ此時弊ヲ救ハザルベカラザルノ時運ニ迫レリ天ニ在テ行  
 ハル、事ハ地ニモ亦行ハレ又歴史ハ繰リ返ストノ西儒ノ哲者我ヲ欺  
 カザルヲ知ルベシ吾平野國臣ノ國歌ニ

青雲の向ふ皇魯岐皇魯美の

稜威かゝやく御世にあしてん

吾人ハ國ノ爲メ否テ現世界ノ爲メ鞠躬勉進セザルベケンヤ

禊祓

禊祓ノ事ハ伊邪那岐命ノ筑紫ノ日向ノ橘小門之阿波岐原ニ於テ汚穢  
 ヲ禊祓シ給フコト載テ神典ニ在リ是レ實ニ萬世不刊ノ大典人生回春  
 ノ妙訣ニシテ吾人ノ九死ヲ出テ生々ニ入り暗昧ヲ脱シテ光明ニ就ク  
 ヲ得ルコト唯コノ典式ノアルガ爲メノミ若シ此典式微セバ吾人ハ何  
 ニ由テ身ノ罪愆ヲ洗フヲ得ンヤ何ニ由テ靈ノ清淨ニ復スルヲ得ンヤ



人生百般ノ福祉ハ此ヨリ源出スルモノナラザルハ莫キナリ而シテ禪  
 祓ノ要旨ハ形骸ノ膠着ヲ脱却シ心靈ノ自由ヲ恢復スルニ在リ豈外禮  
 ナ云ハンヤ夫レ東西聖賢ノ自ラ起テ人ヲ援ケ世ヲ救フヤ類子皆其初  
 メニ禪祓ノ事ヲ宣道セザルハナシ孔子之ヲ身ヲ殺シテ仁ヲ爲スト云  
 ヒ又朝ニ道ヲ聽テ夕ニ死スルモ可ナリト云ヒ浮屠氏之ヲ身心脱落意  
 根挫斷ト云ヒ禪定悟空ト云ヒ不惜身命ト云ヒ耶蘇之ヲ悔改メヨ天國  
 ハ邇シト云ヒ十字架ヲ負フテ日々我ニ從ヘト云ヒ肉ト情トヲ十字架  
 ニ付ケヨト云ヒ其他王守仁ハ自ラ已ニ死セルモノトナリ假リニ棺中  
 ニ入リテ眠ムルコト數日子始メテ良知ヲ開キシト云フ邦人ノ國歌ニ  
 モ「中々に身を思はぬは身を安し身を思ふに身を苦しけれ」又「身を捨  
 てこそ浮む瀬もあれ」ト大凡身心ノ安定セズシテ邪情肉慾雜念妄想  
 ニ繫縛纏繞セラル、所以ハ其ノ基クトコロ只此ノ么微ナル五尺ノ形

軀ヲ以テ我ナリト思惟シ其之ヲ除クノ外ニ自由ナル活潑々地ノ本脉  
 即チ自己ノ存在スルコトハ夢想ダモセザルガ人類ノ墮落シテ再ビ禽  
 獸ト伍ヲ同ウスルニ至ルノ根本ニシテ古今東西聖賢ノ席暖マル暇マ  
 ナク孜々屹々トシテ人ノ溺レルヲ恤ミ人ノ陷井ルヲ援ケントセシハ  
 惟此妄想ヲ排除シテ自己ヲ信認セシメント欲スルノ外アルコトナシ  
 而シテ其説クトコロ徑庭アリト雖モ其歸指ハ本ト我禪祓ノ法ニ外ナ  
 ラザルヤ識者ヲ須タズシテ知ルベキナリ  
 而シテミゾギノ法タルヤ佛門ノゴトキハ數様ノ法アリ剃髮スルモミ  
 ソギナリ托鉢スルモミソギナリ拂子ヲ以テ人ノ頭ヲ批ツモミソギナ  
 リ絶食スルモ亦ミソギナリ曇者ニ徳川幕政ノ末ニ有名ナル大橋順藏  
 氏ガ儒學ノ傍ヲ禪味ヲ窺ハント欲シ曾テ芝ノ青松禪寺ニ詣リ其禪師  
 ニ就テ志ヲ言ヒシカバ禪師曰ク貴公ハ當世高名ノ儒家ナリト聞ク今

節ヲ折テ我道ヲ聽ントノ志ハ感スベシ然ル處從來我寺門ニ法規アリ  
它ニアラズ入門ノ輩ハ必ズ一札ノ起請文ヲ認メ出サザルベカラズ其  
文案ヲ示スベシトテ自ラ筆ヲ援テ散亂々々ト相認メ順藏氏ノ坐前ニ  
展覽セリ其案文ニ曰ク

今度順藏儀入門就學之上者答愆御座候節は勿論就令其儀無御座  
候節に御打擲被致候ども又爲夫萬一一命相落し候ても及其期親  
族私共より毛頭申分無御座仍而爲後日證文一札如件

親族 某

年月日

某

誰殿

順藏氏之ヲ瞥見スルヤ否ヤ艷然色ヲ作シ席ヲ蹴立テ辭シ去レリト禪  
家ノ事奇抜ニ出ヅルコトハ獨リ是ノミニ限ラザルコトナルガ眞ニ味

ヒアルコトニシテ是ヲ之レ佛門ノ禮被<sup>ミソギ</sup>ノ一法ト云フモ可ナルベシ  
其他何レノ國何レノ世ニモ相應シギ禮被法ノアラザルハ莫シ我封建  
時代ノ所謂武門武士ノゴトキモ知ラズ識ラズシテ其則ニ從ヒ居リシ  
ハ爭フベカラザル事實ニシテ彼ノ三百年間文恬武熙ノ大平ニ際會シ  
ナカラ旗下ノ士ヲ除クノ外ハ曾テ元氣ノ沮喪セザリシ所以ハ原ト其  
因ヲ之ニ歸セザルベカラズ苟モ鎗一本ノ家ニ生長セシモノハ緘襟ノ  
中ヨリ一命ハ事フル主君ノ有ニテ決シテ我物ニハアラズト教訓セラ  
レ習慣ハ第二ノ天性ヲナシ一旦變故アルニ會セバ主人ノ馬前ニ一死  
ヲ試ミノトノ覺悟ハ寤寐心頭ヲ去ラザリキ是レ獨リ武邊ヲ嗜ムモノ  
ノミニアラズ職ニ文吏ニ就クモノモ亦然リ若シ其執務ニ失誤失躰ア  
ラバ一死以テ謝罪スベキノミト之ヲ要スルニ死ヌルヲ忠義ト云フコ  
トハ武士ノ世ノ習ハセニシテ本心ガ肉ノ下ニ立ザリシハ元氣ノ一大

元素ト云ハザルヲ得ズ抑モ又國民ヲ擧テ兵役ノ義務ヲ負ハシムルノ法制モ亦之レガ爲メノミ大凡ソ一國皆擧テ公義ヲ重シ身命ヲ惜マザルノ氣象ヲ養成スルハ護國ノ一大要務又風紀ノ一大張本ニシテ兵役ノゴトキハ其一助ニシテ又ミソキノ一法ナリト云フベシ今ヤ歐西ニ決闘ノ風俗アリ一概ニ之ヲ蕃俗ノ遺習トハ卑下スベカラズ蓋シ元氣ヲ鼓舞スルニ少補ナクンバアラザルナリ

然リト雖モ人爲模型的ハ天真自發的ニハ若カザルナリ外形ノ檢束的ハ内心ノ制裁的ニハ若カザルナリ以上佛門ノ所作ノゴトキ武門ノ習俗ノゴトキ軍役戰陣ノゴトキ決闘ノゴトキ一時一隅ニ補益ナキニシモアラズト雖モ抑モ邊幅ニシテ復々言フニ足ラズ夫レ世ニ士風ヲ鼓舞シ氣節ヲ淬勵スト稱シ誤テ天下ノ少年ヲ率テ疎暴過激ノ亂民トナシ終ニハ收拾スベカラザルノ弊害ヲ醸スニ至リシ實例ハ少ナカラズ

王守仁ノ徒ノ有明ノ末造ニ於ルガゴトキ平田ノ徒弟若クハ水戸ノ學派ノ幕府ノ季世ニ於ルガゴトキ即チ爾リトス是レ皆本ヲ治メズシテ末ヲ逐フノ弊ト云ハザルヲ得ズ之ヲ奈何ツ其根幹タル宗教道德即チ真正ノ禊祓法ヲ講セズシテ可ナランヤ古云フ文事アルモノハ武備アリト凡ソ形軀ヲ默念冥想ノ中ニ斷切シ肉情ヲ棄几獨坐ノ間ニ克戡スルノ効ハ其實砲丸霰雨ノ中ヲ冒シ劍花星芒ノ間ニ立ツト毫モ異ナルコト無キモノナリ東京ニ或學士アリ一夕微恙アリ案摩ヲ呼ビテ導引セシメシトキ醫者按腹シツ、自語シテ曰ク先生ハ劍道ノ修行ニ格別勉強サレシモノト覺ユト學士固ヨリ劍道ヲ知ラズ醫者ニ謂テ曰ク汝何ヲ以テ余カ劍客タルコトヲ知リシヤ醫者曰ク此丹田ノ硬證ナルコト獨リ擊劍家ニ限ルモノニシテ餘人ニハ決シテ見ザルトコロナリ貧道ガ多年經驗スルトコロ蓋シ差ハザルベシ學士笑テ答ヘズ陰ガニ自

得スルトコロアリシト亦以テ文武ノ兩岐セズ其歸チ一ニスルヲ知ル  
 ニ足レルナリ  
 而シテ禊祓トハ世人或ハ只水ノ禮式トノミ思フモノアリ昔時占部家  
 ノ神道ニ灌頂ノ法アリ禁裡ノ行事ニ灑水ノ加持アリ是レ皆法ヲ禊祓  
 ニ取リシモノニシテ外式固ヨリ無用ト云フニハアラザレモ是唯心靈  
 ノ汚穢罪愆ヲ洗滌スルノ外表ニ過ギズ人々輕重スルトコロヲ知ラザ  
 ルベカラズ往昔單純ノ世ニアリテハ率知ラズ世降リテ再ビ形質ニ傾  
 向スルノ世トナリテハ單ニ灌頂灑水ノミニテハ到底虛文タルヲ免レ  
 ズ必ズヤ時代ニ適切ナル禊祓ノ法方ナカルベカラズ即チ謝罪懺愧ハ  
 其要旨ナリトス吾人ハ上帝ニ對シ不義傲慢ノ大罪ヲ謝セザルベカラ  
 ズ吾人ハ自己ニ對シ不信殘虐ノ行爲ヲ悔改セザルベカラサルナリ加  
 旃ナラズニ且燒鎌ノ敏鎌ヲ以テ打拂フ事ノゴトク五尺ノ形骸ト動物

的ノ慾情ト寸斷高截シテ惜マズ之ヲ犧牲トナシテ上帝ノ寶前ニ捧  
 グベシ吾人ハ懺悔ト禊祓ト神明ノ休光トニ賴テ原罪ト今罪トノ消除  
 ヲ得ベシ而シテ最極ノ要旨ハ神隨ニ在リ神隨トハ神明ニ信倚シテ纖  
 毫モ私意私智ヲ須非ザルヲ云フ所謂義人ハ信仰ニヨリテ生ト其旨違  
 ハザルナリ思テ念ハザルベケンヤ

大國主ノ大神

吾人ハ上帝ノ愛子ナリ慈孫タリ上帝ハ吾人ノ慈父タリ嚴君タリ而シ  
 テ吾人ハ當初動物的ノ形質ヲ有シ汚穢纏綿シ穢豕ナル獸物ナリシヲ  
 バ天人勉メテ其形象ニ肖セテ陶冶化醇セリ仍ホ其遺ル罪惡ヲ禊除セ  
 ンガ爲メニ當初岐神ノ愛憐ナル其ノ法ヲ後世子孫ニ垂レ給ヘリ禊祓  
 是ナリ  
 吾人ハ之レガ爲メニ死中ニ生ヲ得闇中ニ燈ヲ得シ其恩愛奚ンゾ謝セ

ザルベケンヤ而シテ吾人ハ已ニ靈ノ病患ヲ斐鋤セリトスルモ吾人ガ世途ノ行路ハ蜀水巴山ヨリモ艱嶮ナリ吾人ハ決シテ此中ヲ單犖孤行スルコト能ハズ必ズヤ上帝ノ恩祐ヲ禱リ併ヒテ吾人ニ接近シ曾テ吾人靈性ノ辛甘ヲ實驗セル國津神ニ信賴シテ其保助ヲ仰ガザルベカラズ神代紀ニ曰ク

於是大巳貴神報曰天神救教愍愍如此敢不從命乎吾所治顯露事者皇孫當治吾將退治幽事。

又歸着之首渠者大物主神及事代主神乃合八十万神於天高市帥昇天陳其誠款之至時高皇產靈尊勅大物主神云々宜領八十万神爲皇孫奉護乃使還歸之

上天ハ大國主ノ大神ヲ高御室ヨリ再ビ還リ降シテ皇孫ヲ保護セシメ給フ其畏キ博愛ノ神慮ハ獨リ天上ニ止マラス現界ノ今日マデモ其恩

澤ニ光被セザルモノナキコト言ヲ待ズ而シテ吾人が同胞タル日ノ本人ハ特ニ大國主ノ恩即チ幸魂奇魂ニ沐浴スルコト他邦ノ得テ及ブベカラザルトコロ吾人奚ンゾ神慮ヲ奉牀シ身心ヲ放任シテ之ヲ信奉シ以テ一己ノ幸福ヲ全ウシ延テ一家ニ一國ニ及ボシ又延テ萬邦ニ及ボシ世界ノ汚風ヲ驅リ世界ノ頽俗ヲ支ヘ世界ノ道義ヲ進メザルヘカラズ吾人が責任亦大且重カラズヤ  
世人動モスレバ輒チ云フ人類ハ上帝ヲ信奉スレバ事既ニ足レリ何ソ其他ノ神明ニ媚ヒ事フルヲ要センヤト是レ思ハザルノ大甚シキモノナリ上帝遵奉ハ固ヨリ終天極地渝ルベカラズト雖モ時勢已ニ豹變シテ風流無爲的ハ經濟有爲的トナレルヲ争フベカラザル事實ナリ風流無爲的ノ時代ノ變遷シテ經濟有爲的ノ時代トナリテハ人々風塵ニ奔走セザルベカラズ勢利ニ齟齬セザルベカラズ貨殖圖ヲザルベカラズ

工藝營ザルベカラズ衣食隨テ短褐ナラザルベカラズ肉類ナラザルベ  
 カラズ居室隨テ簡便ナラザルベカラズ是時ニ當テ專ラ無垢清淨ヲ事  
 トセント欲スルモ得ベカラザルノミナラズ却テ心性ヲ害ヒ幸福ヲ傷  
 ハザルモノ幾ンド希ナリトス是我邦往時ヨリ農商ノ家ニハ大國主ノ  
 大神ヲ奉祀スルモノ多キニ居リシ所以ニシテ今日ハ農商家ト其趣ノ  
 平準ヲ取ラザルベカラザルノ秋トハナレリ夫レ大國主ノ大神ノ天上  
 界ヲ經營セラル、ヤ幸魂奇魂ノ天祐ヲ滿受シテ少名彥名命ト同心協  
 力拮据經營其國土ヲ修成シ給ヘリ

大已貴命謂少彥名命曰吾等所造之國豈謂善成之乎少名彥名命對曰  
 或有所成或有不成ト

今日ハ其未タ成ナラザルトコロヲ成シ其未タ足ラザルトコロヲ補ヒ  
 嘗テ天上界ヲ作り堅メシゴトク又此邦土ヲ作り堅ムルノ時期ニ達セ

リ西人云フ歴史ハ繰返シテ往事ヲ再演スルモノナリト信ナルカナ神  
 代ノ出來事ハ之ヲ後代ニ照準スルニ符節ヲ合スルガゴトク同一轍ヲ  
 步驟スルモノ多シトス因是觀之大國主ノ大神ハ獨リ吾人ノ心靈ヲ保  
 護シ給フノミナラズ稼穡種藝ノ上ニマシテ工作技術ノ上ニマシテ學文藝  
 能ノ上ニマシテ其恩祐ノ加ハラザルナキコト熟思ヲ待タスシテ知ルベ  
 シ其レ然リ吾人ノ世界ハ經濟有爲的ノ時代トナレリ世事ハ倍々繁雜  
 ナルベシ人心ハ倍々活潑ナルベシ而シテ世運進歩ノ爲ニハ大國主ノ  
 大神ニ信賴セザルベカラズ而シテ又靈魂保護上ニ緊要欠クベカラザ  
 ルモノアリ一週一日上帝ノ聖日ヲ守リ身靈ノ休養ヲナスコト是ナリ  
 此休養日ノ緊要ナルコトハ一般ノ是認スルトコロニシテ爲メニ靈魂  
 ノ活動ヲ得ルハ勿論身軀ノ健全隨テ得ラルベシ社會ノ仁惠隨テ得ラ  
 ルベシ工藝ノ進歩隨テ得ラルベシ人生幸福ノ一大源頭ト云フベシ(安

息日ノ事ハ決シテ耶蘇教ノ誠律ヲ襲用スルニアラザルコトハ收結説  
 ニ於テ詳述セリ若シ夫レ縱令ヒ大國主ノ大神ヲ篤信スルトモ上帝尊  
 信ノ念及ビ其聖日ヲ神聖トシテ休養セザレバ陸軍ニ汽罐ナキト同般  
 ナリ若シ夫レ縱令ヒ上帝尊信ノ念及ビ其聖日ヲ神聖トシテ休養スル  
 トモ大國主ノ大神ヲ篤信スルニアラザレバ船舶ニ帆ナキト同般思ハ  
 ザルベケンヤ  
 上帝及ビ大國主ノ恩徳ハ吾人靈性ノ須臾モ離ルベカラザル謂ユル道  
 ナリ徳ナリ而シテ吾人が未來ヲ看顧綏撫スルモノ亦コノ大國主ノ大  
 神ナリトス

古事記ニ曰ク僕者於百不足八十限手隱而待ト

萬葉集ノ歌ニ百足ヲ又八十ノ限手ニ手向セバ過去ニシ人ニケダシ遇  
 ムカモトアル八十限手ト同意義ニテ是ハ陰府ノ初到頭ボリメナニシテ人界ノ

幽魂ガ正邪善惡ノ別ナク種々ノ岐路ヨリ此通衢ニ集ヒ來ルトコロナ  
 ルガ故ニ八十ノ限手ト云ヒシモノナリ此歌ノ意ハ其處ニ手向シナバ  
 過ギヨシ思フ人ニ遇レルナラントノ意ナリ大國主ハ乃チ其處ノ主宰  
 ニシテ吾人が生前ノ善惡邪正ニ依テ一々處斷セラレ自是又陰府ノ堅  
 洲國即チ吾人が修練ノ各所ニ到ルノ追分トナルヤニ想像セラル蓋シ  
 其景狀ト云ヒ其容貌ト云ヒ佛家ノ所謂焰魔王ト相髣髴タリ何トナ  
 レバ其景狀ハ前ノゴトシ其容貌ニ就テハ葦原ノ醜男ト呼做レシコト  
 アレバナリ非歟

夫レ吾人ノ罪愆ヲ解除スルニハ禊祓ノ法アリ吾人ハ罪ヲ悔ヒ過チ改  
 メ形骸ヲ犠牲トナシテ上帝ニ謝スベシ慈父何ゾ之ヲ宥恕セザラン何  
 ツ復タ他ノ贖罪ヲ待タンヤ吾人が同胞ハ或ル邦國ノ人種ノゴトク贖  
 罪ヲ要スル程極惡貫盈ノ慘狀迄ニ沈淪セリトハ思ハレザルナリ然リ

ト雖凡世ノ廣キ人ノ多キ必ズヤ沈溺墮落ノ甚シキモノナキヲ保シ難シ若シ贖罪ノ必要ヲ感シテ自ラ不安心ヲ懷クモノアラバ神典ニハ夙ニ其豫備アリテ大國主ハ屢次苦楚ヲ嘗メ死地ヲ蹈給フコト唯一朝一回ノ比ニアラザルナリ

古事記ニ曰ク八十神怒欲殺大穴牟遲神共議而云々時石所燒著而死爾其御祖命哭忠而參上于天請神產巢日之命時乃云々成麗壯夫而出行云々

又曰ク其大神出見而告此者謂之葦原色男即喚入而令寐其蛇室於是其妻須勢理毘賣以蛇比禮授其夫云其蛇將咋以其比禮三擧打撥故如教者蛇自靜又令入吳公與蜂室且授吳公蜂之比禮教如先

鳴鏑射大野之中令採其矢故入其野時即以火廻燒其野於是不知所出之間鼠來云々

其他艱難辛楚ノ遭逢ハ更僕ニ遑マナシ試ニ思ヘ天人界ニ在テ古今人類ノ未ダ嘗テ遭逢セザルトコロノ災害崎嶇ノ其一身ニ叢リ攢リ艱難備サニ嘗ムルガゴトキコトアラントハ殆ント信ズベカラザルモノ、ゴトシ是レ必ズ深意ナクンバアラザルナリ乃チ萬世萬人ノ爲メニ其災厄ヲ負ヒ其苦惱ヲ贖ヒシモノト想念スルノ外ハ決シテ其理趣ヲ見出スコト能ハズ是レ反側者ノ贖罪ニハ其力餘リアリ就テ其恩惠ヲ被ルベシ安慰立ロニ來ラン彼ノ一朝一夕ノ苦楚ニヨリテ天下萬民ノ贖罪ヲナセリト夸唱スルガゴトキモノ、比ニハアラザルナリ然リ而シテ今仍ホ是クノゴトキ贖罪ヲ要スル我世態人情ニハアラザルノミナラス是クノゴトキ事ヲ以テ人ノ感情ニ訴フルノ益少クシテ害多キコトハ識者ノ知ルゴトシ是レ徒ニ人ノ感情ヲ亢進セシムルノミニシテイトドサヘ感情多キ女性ハ爲メニ其拘束スルトコロトナリ



チ人間ノ趣味ヲ失フニ至ルノ通弊アルコトハ是レ又識者ノ知ルトコ  
 ロナリ女性然リ況ンヤ男子ニ於テチャ一タヒ感情ニ制セラルトキ  
 ハ理性之レガ爲メニ發達セズ自主之ガ爲メニ伸暢セズ左支右梧感情  
 ノ奴隸トナリテ已マンノミ慎マザルベケンヤ  
 眞正ノ宗教ハ理性ニ由テ道理ヲ信ズベクシテ感情ニ由テ具體ヲ信ズ  
 ベキモノニアラズ宗教ト學問トノ併立セズシテ遂ニ宗教ガ學問ノ棄  
 斥スルトコロトナリシ現況ヲ馴致セシハ古來ノ宗教ガ大概感情的ノ  
 宗教ナリシガ故ノミ慨歎ニ勝ユベケンヤ今ヤ我神學ヲ講究スルニ當  
 リ尤モ注意セザルベカラズ而シテ吾人ハ宜シク贖罪ヲ要スル程汚風  
 類俗ニ流レザル様人々自ラ奮勉セザルベカラズ若シ夫レ贖罪ナク  
 バ不満ナリト思フモノアラバ大國主ノ恩旨ヲ信奉スルモ敢テ妨ケナ  
 シ夫レ道ハ猶ホ水ノゴトシ孟軻氏云フ源泉混混盈科而進ト苟モ求ム

ルモノ掬スルモノニシテ満足アラザランヤ

奇魂クシダマ幸魂サキダマ

奇魂クシダマトハ愛アイイヅクイシムシム靈レイト云フ義ナリ乃チ心之徳愛之理サキダマ幸魂サキダマトハ制  
 裁サイキキ靈レイト云フ義ナリ乃チ心之制事之宜此二靈ハ人生ニ必需ナルコ  
 ト猶ホ身ノ衣食ニ於ルガゴトク須臾モ離ルベカラス單ニ之ヲ徳義ト  
 云ヒ又之ヲ道ト曰フ而シテ儒道之ヲ仁義ト名ケ釋氏之ヲ攝取折伏ト  
 云ヒ耶蘇之ヲ智チキキコト蛇ヘビノゴトク仁柔ナルコト鶺鴒セウノゴトクナレトハ  
 云ヒシナリ智チサトキキキノ意義亦其中ニ在リ蓋シ此靈ノ出處ニ就テハ古  
 往今來全世界ノ志士仁人ガ講究セント欲シテ止マザルトコロニシテ  
 而シテ仍ホ五里霧中ニ彷徨シ未タ正鵠ヲ得ザルノ一大問題ナルコト  
 ハ人ノ普ク知ルトコロナリ今夫レ我神典ノ垂示スルトコロニ據リ縱  
 横旁午其秘蘊ヲ叩ケバ幸魂ハ國ツ神即チ大國主ノ大神ニ出テ奇魂ハ

神魯岐神魯美或ハ上帝ニ出ヅルモノナルコト歴然トシテ證スベシ  
 古事記ニ云フ於是大國主神。愁而告吾獨何能得作此國。孰神與吾能相  
 作此國耶。是時有光海依來之神其神言能治我前者吾能共與相作成。若  
 不然者國難成爾。大國主大神曰。然者治奉之狀如何。答曰。吾者伊都岐奉  
 于倭之青垣東山上。此者坐御室山上神也。ト神代紀ニ是時大已貴神問  
 曰。然則汝是誰耶對曰吾是汝之幸魂奇魂也。ト  
 以上二書ノ垂示スルトコロニ據レバ幸魂ハ倭ノ青垣東山上ニ駐在シ  
 奇魂ハ御室ノ山上ニ坐マスト有之因テ稽フルニ此倭之青垣東山上ト  
 云フヲ解釋スレバ倭トハカマヤクアマノモト、云フ意ニテ青垣ハ筑  
 紫ノ日向ノ青部ヲ云ヒ東トハヒムカシ正ニ日向ト同シ山上トハカマ  
 ヤクアマヲタカミスル處トノ意ナルベシ。又御室トハカミムロギカ  
 ミムロミ也。此山上トハ前ノ山上トハ大ニ異ニシテカマヤクアマノ上

ト云フ意ナリ即チ高天原ノ上段上帝ノ御坐ナルコト知ルベシ  
 夫レ奇魂ハ仁愛喜樂ヲ吾人ニ賦與スル靈能ニシテ幸魂ハ吾人が處世  
 ニ要需ナル智靈ノ靈能ト云フベシ而シテクシ靈ノ吾人ニ光被潤澤ス  
 ルコト其端一ニシテ足ラス一義奇魂ノ名稱亦當ルトコロアリト云フ  
 ベシ或ハ吾人が心靈ノ乾燥ヲ潤澤スル靈泉トナリ或ハ吾人が心靈ノ  
 枯軋ヲ圓滑ニスル靈膏トナリ或ハ吾人が心靈ノ不淨ヲ禳拂スル靈火  
 若クハ靈鹽トナリ或ハ吾人が心靈ノ飢餓ヲ醫スルノ靈餌トナリ之ヲ  
 約スレバ仁愛ニ外ナラズ此仁愛也者一己人ニモ一家ニモ一社會ニモ  
 其緊用ナルコト譬喩スルニモノナシ古今内外ノ士君子淑婦人が熱望  
 熱中殆ント狂スルガゴトクニ之ヲ尋子之ヲ求ムルコト亦宜ベナラズ  
 ヤ又幸魂ハ吾人が此世ニ處シ此世ヲ整理スルニ缺クベカラザル天資  
 ナリトス武備兵政此ニ由テ嚴ナルベシ百工種藝此ニ由テ進ムベシ學

問技術此ニ由テ精ナルベシ生理生計此ニ由テ饒カナルベシ一家眷族  
 此ニ由テ正肅ナルベシ其効用亦大テラズヤ  
 邦俗惠比須大黒ヲ奉祠スルコト農工商ノ家ニハ今モ昔モ變ラヌ一般  
 ノ風習ナルガ取モ直サズ其惠比須ハ愛靈ニシテ大黒ハ幸魂ナルコト  
 テ見出セリ然シテ惠比須ヲ事代主ノ神トナシ大黒ヲ大國主ノ神トナ  
 シテ之ヲ二躰ニ分別スルコト抑モ非ナリ大國主ノ大神一躰ニテ此二  
 相ヲ具セラレシモノニテ神典ニ據ルモ或ハ時アリテ美麗ノ色郎ト呼  
 ヒ倣シ或ハ時アリテハ葦原ノ醜男ト呼ヒ倣レシテ視レバ一躰ニシテ  
 面貌ノ時ニヨリ場合ニヨリテ變リシヲ知リヌベシ惠比須ノ温顔笑靨  
 ハ實ニ仁愛喜樂ノ面貌ニテ當初之ヲ畫キ出タセシモノ、妙想ハ眞ニ  
 感ズベシ其鯛魚ヲ抱持スルモノハ亦愛度ニ縁義ヲ取リシモノナラン  
 而シテ大黒ハ其面相必ズ鰲面猛獍ナラザルベカラズ反テ之ヲ惠比須

ト同面躰ニ爲セシハ後世ノ捏造ナラン其脊ニ負フ囊ハ智囊ノ事ナラ  
 ン歟奇靈幸靈別名柔魂荒魂トモ稱フ夫レ丈夫ノ世ニ處スルヤ氣守凛  
 々猛氣世ヲ蓋ヒ而シテ又仁柔赤子ノ心ヲ失フベカラズ是ニ至ツテ眞  
 儒眞男ト云フベシ彘者ニ木戸孝允公比斯曼爾克傳ニ序シテ曰ク方今  
 歐洲諸國。字國最稱強。而其人材比斯曼爾克氏。最稱尤。余曾聞其名。未知其  
 實。及副使干歐洲。經巡之次。之伯倫。親與其官僚相見焉。始上公館。其眼光炯  
 射。威度加入者。不問而知其爲比氏也。及既相接。笑語温藉。寬嚴有節。絕無圭  
 角。蓋亦希觀之偉傑也。云々蓋シ比氏ノ風度天性ニ由ルト雖モ抑モ亦修  
 練ノ功其多キニ居ルト云ハザルベカラズ當今ハ君子上薦的ノ時代已  
 ニ去リテ實業實務的ノ時代トハナレリ然ラバ即チ國津神ナル大國主  
 ノ大神ニ信賴シ之ニ併セテ愛靈幸靈ノ天賜ヲ受ケザルベカラズ亦然  
 ラズヤ而シテ二靈ハ獨リ形容ヲ惠比須大黒ニ著ハセシノミナラズ彼

ノ我皇家ニ傳ハル劍璽ハ二靈ノ形容ナリトス決シテ漢土歷代ノ傳靈  
 ノゴトキ器物ノ比ニハアラザルナリ之ヲ稱シテ日本魂ト稱スルモ可  
 ナリ豈ニ奇ニシテ且妙ナラズヤ  
 已ニ前ニモ述ベシゴトク此靈ノ事ニ就テハ古今ノ神學上人ヲシテ幾  
 多ノ思想ヲ勞セシメ幾多ノ時間ヲ費サシメ幾多ノ騷擾ヲ醸サシメタ  
 リキ今尙ホ陰雲慘愴何ツ霽ルベキトモ思ハレザルハ歐米天地ノ現況  
 ナリ願フニ耶蘇教ノ耶蘇教タル所以ハ只是靈ノ信從者ニ活動スルガ  
 爲メノミ彼ノ徒是ヲ聖キ靈ト名ケ愛ノ靈ト呼ブ而シテ其聖靈也者唯  
 一個ノ愛ノミト思ヒ做シ神ハ即チ愛ナリト絶叫シ一意之ヲ求メ之ヲ  
 得ルニ汲々タルコト殆ント狂ノゴトシ誠ニ然リ愛ノ德ハ其レ尙フベ  
 キナリ其レ欲フベキナリ殊ニ知ラズ威嚴節義ノ其ノ中ニ在ルアリテ  
 唯仁愛ノミニニアラザルコトヲ現ニ彼ノ聖靈ノ降臨セシハペンテコス

テノ日ニシテ其狀焰ノゴトクシテ岐<sup>ツ</sup>レテ各人ノ上ニ止マルト明記ア  
 ルニアラズヤ此岐<sup>ツ</sup>レテト云フコトニ由レハ其二個ニシテ一個ニアラ  
 ザルコト火ヲ睹ルガゴトシ其高足約翰ハ聖靈ヲ滿受セシモノト稱シ  
 其愛ヲ講説スルコト一ニシテ足ラズ而シテ曾テ雷ノ子ト綽名セラレ  
 シモノナリキ其性情ノ前後如何ニ豹變セシト雖モ猶ホ立ロニエチテ  
 ビヤ人ガ白哲人ニ變化スベキ理ナキガゴトシ必ズヤ之ヲ望メバ威度  
 猛勇凜然人ヲ射リ之ニ接スレバ言笑忻怡藹然掬スベキノ人傑ナリシ  
 ヤ乎トニ想フベキナリ其レ此クノゴトク二者相須テ始メテ聖靈ノ効  
 用ヲ顯揚シ人生ノ福祉ヲ保全スト云フベシ彼徒是ヲ之レ察セズ仁柔  
 ナ講ズルコト頗ル偏重シ聖靈トハ唯愛ノ事トノミ誤リ認メ一ニモ二  
 ニモ愛々ナリト云ヒ自ラモ處シ人ニモ宣フ其弊ヤ企望スルトコロト  
 相齟齬シ遂ニ下ハ上ヲ侵シ婦ハ夫ヲ凌ギ女子ハ男子ヲ輕ンシ子女ハ

父兄ニ征レ綱常紊レ倫理壞レ弊害百出殆ンド收攬スベカラザルコト  
 基督教國ノ現況ニシテ敢テ誣妄ノ言ニハアラザルナリ是レ其レ誰レ  
 ノ愆チツ教祖ハ智キコト蛇ノゴトク溫柔ナルコト鶴ノゴトクナレト  
 訓示セリ(獨リ傳道者ノ爲メニ)且ヤ其世ニ在ルヤ奸商ヲ聖殿ヨリ叱咤  
 驅逐セシ人ハ孩提幼兒ヲ其膝上ニ擁シテ祝福セシ人ナリ由來其教理  
 ニハ其咎メヲ歸スベカラザルモ亦必竟教理ノ曖昧遂ニ人ヲシテ迷ハシ  
 ムル者アルヲ奈何セン加之ナラズ聖靈ノ出處ニ就キ或ハ天父ヨリ出  
 ツルト主張シ或ハ子ノ神ヨリ出ツルト主張シ或ハ天父ヨリモ出子ノ  
 神ヨリモ亦出ツルモノナリト主張シ是亦理論上ノ爭鬪ニ止マラズ彼  
 ノ羅馬教ト希臘教トガ分離シテ東西ニ割據セシハ此ノ宗義ノ爭論ニ  
 外ナラズ而シテ今尙ホ互ニ頑守シテ相仇視シ其他新教派ハ曖昧摸稜  
 ニ付シ之ヲ父ヨリモ出子ヨリモ出ツルモノトナシテ其中庸說ヲ取リ

纒ニ泣寢入ノ姿ナルハ其頑其陋憫ムベキニアラズヤ今我神典ノ餘光  
 ニ頼リ愛ノ靈ハ上帝ノ許ヨリ來リ智靈ハ吾人ニ近キ國津神ヨリ來ル  
 モノナリト解知セバ宿疑氷釋スルトコロアルベキヤ必セリ

## 第六階級

此階級ハ幽府ノ審鞠所ニシテ吾人が生前ノ善惡正邪忠奸好牙ニ照シ  
 テ公直公平其善ニ福スベキハ福シ其淫ニ禍スベキハ禍シ毫釐爽ハズ  
 微塵洩サズ各其報ヲ得各其所ヲ得所謂顏回ガ貧且天ナルモ盜跖ガ富  
 且壽ナルモ是ニ至テ天道ノ是歟非歟斷々乎トシテ終結スルノ所タリ  
 試ニ思ヘ吾人々類ノ此世ニ生存スル石火電閃管ノミナラズ夏木纒カ  
 ニ陰ヲ結ヘハ秋闌已ニ露ヲ含ム一年又一年昨日ノ紅顏ハ今日ノ白頭  
 人生五十年七十古來稀世ノ尊貴ナルモノ獨リ免レ能フベキ乎能ハザ  
 ルナリ世ノ富有ナルモノ獨リ免レ能フベキ乎能ハザルナリ秦皇ハ阿

房ノ逸豫長ヘニモガナト長生ノ藥ヲ蓬萊島ニ求メシメシガ其槎臣徐  
生ハ何ノ復命モナク望ハ已ニ絶エ貧富老少同一死北邙山下ノ烟トコ  
ソハ成リニケル宋ノ文相丞ハ悲愴感慨ノ餘リニヤ人生自古誰無死ト  
ハ叫ビシナリ太田道灌ノ國歌ニモ

斯るときこそ命の惜からん

かねてなき身と思ひしらすは

又

遂に行道とはかねて聞しかど

きのふ今日とは思はさうけり

天下滔々已ノ頭上ニハ一死ノ大敵アリテ其來ルコト忽奄何ツトモ定  
メヌ墓ナキ身ニテアリナガラ其之ヲ處スルノ方ヲモ講セズ浮世ノ事  
ニ目眩ミテ屠所ノ羊ヲ學ブ人コソ哀レナレ夫レ如是人々常ニ目ニモ

視耳ニモ聞クトコロノ甚々略易キ死生ノトスヲ尙ホ餘所事トナスモ  
ノ多シ况ンヤ未來ノ應報ニ於テヤ偶々之ヲ講説スルモノアルモ馬  
耳東風恬トシテ顧ミズ反テ是事ヲ以テ心ニ懸ケザルヲ洒落トナシ淡  
泊トナシ達識トナシ學世俗ヲナシテ返ルヲ知ラズ此クノゴトキ風俗  
此クノゴトキ人心ハ文明野蕃ヲ問ハズ復タ有ルベクトモ思ハレズ其  
由テ來ルトコロヲ繹ヌレバ一途ニ未來世ノ事ハ佛者ノ虛誕ナリト思  
倣セシガ第一ノ根原ナルベシ蓋シ佛者ノ説クトコロ虛誕ハ則チ虛誕  
ナルベシ然レニ誤謬ハ真理ノ影ト云フコトアリ未タ必ズシモ虛妄ノ  
ミトハ云フベカラズ

識者或ハ問ハン黄泉ニ是クノゴトキ所ノアルト何ノ徴スベキアルヤ  
ト對テ曰ハン此所チ神典ニハ根ノ堅洲國ト云フ之ヲ解説スレバ根國  
之轉移カクスト云フ意ニテ是ヨリ天上ニ躋ルモノモアラン人ニ再生

スルモノモアラシク地獄ニ墮落スルモノモアラシク其上下ニ流轉スルト  
コロナルニヨリ轉移國トハ名ケシナラン而シテ伊邪那美命ノ沈淪セ  
ラレシハ即チ是所ニテ其狀況ヲ窺ヒ知ルニ餘リアリ

古事記ニ曰ク故伊邪那美命者因生火神遂神避坐也云々 又於是欲  
相見其妹伊邪那美命追往黃泉國爾自殿滕戸出向之時伊邪那岐命語  
詔之愛我那邇妹命吾與汝所作之國未作竟故可還云々最後其妹伊邪  
美命身自追來焉爾千引石引塞其黃泉比良坂其石置中各對立而度事  
戸之時伊邪那美命言愛我那勢命爲如此者汝國之人草一日絞殺千頭  
爾伊邪那岐命詔愛我那邇命汝爲然者吾一日立千五百產屋 又是以  
伊邪那岐大神詔吾者到於伊那志許米志許米岐穢國而在祁理  
又須佐之男命及比大國主ノ大神モ此ニ來往セラレシコトアリト見ユ  
古事記ニ曰ク可參向須佐之男命所坐之根堅洲國必其大神識也故

隨詔命而參到須佐之男命之御所者云々

而シテ復活スルマデハ少之就眠スルトコロニシテ其間生前ノ罪過ノ  
深淺多少ニヨリ隨テ苦悶ニモ輕重アリ就眠ニモ長短アリトス彼基督  
耶蘇ノ三日ニシテ蘇リシモ此陰府ヨリセシナリ又其靈ヲ以テ獄ニア  
ル靈ニ宣傳フトアルモ羅馬教ニテ之ヲ煉獄ト呼ビ罪囚ノ未決檻トナ  
スコト眞理ニ庶幾シ新教派ハ之ヲ拒否シ之ヲ排擊ス角ヲ矯メテ牛ヲ  
殺スノ笑柄ヲ免レス即チ此處ナリ蓋シ自此昇天シ若クハ起死回生シ  
若クハ陷歿スル等大約テ六種類ナルベシト信ズ請フ左ニ一々其梗概  
ヲ開陳セン

第一 古ハハ人ノ死テ阿賀理ト云ヒ或ハ天翔リトハ云ヒシナリ蓋  
シ神魂ノ天ニ上ルテ云ヒシモノニテ倭建命ノ御靈ノ翔天飛行ス  
トアルゴトキ是ナリ而シテ人ノ望チ屬スル安樂國ハ即チ是ニテ

各宗教ノ所謂天國ニ升ルガゴトキ極樂ニ往生スルガゴトキ此ノ  
謂ヒニ外ナラズ蓋シ天上ノ國トテ一部一國ニアラズ極メテ衆多  
ナリ

第二 此ハ天上ニ上リシ靈ノ翔リ降り人間界ニ照臨シテ威靈ヲ彰  
ハスモノニシテ住ノ江ノ大神龍田ノ大神八幡ノ大神等はナリ

第三 國ヲ懷ヒ君ヲ思フ靈ノ神トモナク人トモナク隨所ニ浮游ス  
ルモノニシテ孝徳天皇ノ朝ニ蘇我ノ倉山田臣ノ自死セラレシキ  
今我見<sup>レ</sup>譖<sup>ム</sup>身<sup>ヲ</sup>刺<sup>シ</sup>而恐<sup>ム</sup>橫<sup>ニ</sup>誅<sup>ス</sup>聊<sup>ニ</sup>望<sup>ム</sup>黃<sup>泉</sup>尙<sup>ニ</sup>懷<sup>ク</sup>忠<sup>ヲ</sup>平ノ朝臣篤胤氏ノ生前ノ  
述懷モ是部ニ屬スルモノト云フベシ其言ニ曰フ適々ニ大御國へ  
射向ヒ奉ル夷狄ノアリテ翁<sup>本居</sup>ノ心ヲ痛メマサバ篤胤ガ參リ向  
ヒ見テ候ハンムト暫時ノ暇ヲ請テ山室山ノ日蔭ノ葛ヲ襟ニ懸ケ  
比々羅木ノ八尋ノ矛ヲ右手ニ持チ眞弓ノ弓ヲ左手ニ執リ千箭入

ノ靴ヲソビラニ負ヒ八握ノ大刀ヲ取佩テ虚空翔リ神軍ニ集リ申  
サン云々又藤田東湖翁ノ正氣歌ニ死爲<sup>ハ</sup>忠義<sup>ト</sup>鬼<sup>ト</sup>極<sup>ニ</sup>天<sup>ノ</sup>護<sup>ト</sup>皇<sup>ノ</sup>基<sup>ト</sup>ト歌ヒ  
シ忠魂毅魄ハ今尙ホ沛然天地淑靈ノ中ニ存シテ消磨セス日星河  
嶽ト其正氣ヲ爭フコト歌々トシテ見ルベシ

第四 或ハ忠憤ノ餘リ蹉跌恨ヲ吞テ斃レシモノ或ハ理學若クハ功  
業ニ熱中シ半途其目的ヲ達セズシテ濫去セシモノ等ハ再々人世  
ニ回生スルモノトス彼ノ七回人間ニ生レテ逆賊ヲ燈サントノ臨  
終ノ一言ハ淡河畔ノ薜蘿ト共ニ消滅スルモノニアラズ死々生々  
其目的ヲ遂ケザレバ已ザリシコト疑ヲ容レズ或佛者ノ遺偈ニ曰  
ク所冀生々世々與如是人互<sup>ニ</sup>固<sup>メ</sup>大事因緣於億劫常爲<sup>ニ</sup>主伴以擔荷如  
來正法眼藏修證無上正等菩提下願フニ泰西ノ學理若クハ功業ノ  
駿々トシテ進步スル所以ハ冥々ノ中此事アルガ爲メノミ彼所謂



遺傳トハ蓋シ之ヲ皮相セシモノニシテ一步ヲ進入スレバ其理赫奕火ヲ賭ルガゴトクナランベシヤミンフランクリンノ自傳ヲ緝クモノ其誕生ヲ自記スルトコロニ至レバ隱然復生ノ理アルヲ知ルニ於テ蓋シ思半ニ過ギン

第五 又鬼厲トナリテ人界ニ駐着スルモアリ仁徳天皇紀ニ上毛野君田道蝦夷ノ爲メニ軍ヲ敗ラレテ死ケルガ蝦夷人共ノ其墓ヲ掘ケルトキ大蛇トナリテ出テ目ヲ瞋ラシ蝦夷人ドモヲ昨ヒ毒氣ヲ被ラセケル時人曰フ田道雖既亡遂報仇何死人之無知耶又聞融天皇ノ永觀六月二十九日菅原ノ神ノ託宣ニ我隨身ノ伴黨十六万八千百餘人也總テ恨ヲ含ミ世ニ背ク貴賤ノ靈鬼皆悉ク集リ來リ但シ無理恨ヲ含ムノ輩ハ不相供ト

第六 極惡ノ小人嗜慾ノ奴隸トナリ感情ノ奴隸トナル者ノ靈魄ハ

那落ノ根底ニ陥歿墮落シテ復タ生期ナク其靈永ク死亡スルモノナリ第七階級ノ説クトコロノゴトシ

右ハ天昇スルニモ墮落スルニモセヨ何レモ皆暫ラク待命待罪スルノ場所ハ各自ニ分土セラレ決シテ雜居スルモノニハアラザルナリ蓋シ此所ニ十ヶノ分地アルコト道理上然ラザルベカラズトス思フニ嬰兒ノ夭死スルモノ、群衆スルノ處モ亦其一ニ居ラシ其他二三ハ未タ尋繹シ得ズ杜撰ノ譏ヲ免レザランコトヲ恐ルレバナリ後日ノ考覈ニ讓ル

風紀廢弛シ人心壞頽スレバ其餘波下層ニ及ビ下層隨テ多事ヲ致スノ趣キハ既ニ總論ニ於テ叙述セシゴトシ夫レ人々現世ニ於テ相爭ヒ相訟フトキハ遂ニ獄事繁雜ヲ極メ罪棍ハ囹圄ニ填咽スルト均シク邪念ノ情熾クガゴトク刻薄ノ念燃ルガゴトキ小人ノ其怨火情熾ハ一旦氣

息ト共ニ散消ニ歸スルモノニアラズ遂ニハ鬼厲トナリテ五月蠅ナシ  
 下層之レガ爲メニ混亂ヲ醸シ卒ニ其歸着スルトコロヲ失ヒ下層ト現  
 世トハ隔離ナク自由ニ上下スルヲ得ルニ至リ其世ニ荼毒スルコト勝  
 テ言フベカラザニル至ランノミ

以上説キ來ルトコロ世目シテ之ヲ怪力亂神ヲ語ルモノト言ハ、言ヘ  
 人ノ理想上之ヲ肯受セザルベカラザルノ道理アルヲ奈何スベキ是レ  
 乃チ道德宗教ノ忽諸ニ付スベカラザルモ亦且上朝廷ニハ鎮魂祭アリ  
 下家々ニハ供養祭事ヲ怠ラザリシ所以モ惟之レガ爲メナリキ蓋シ慎  
 終追遠則民之德飯<sub>ナ</sub>厚トハ孔丘ノ言我ヲ誣ヘザルナリ因テ思フニ今  
 日ハ德教ヲ敷キ風紀ヲ正シ人々ヲシテ意思ヲ純潔ニスルノ義方ヲ知  
 ラシメザルベカラザルハ勿論各自己レノ緣類若クハ祖先ノ爲メニハ  
 假令ヒ香火ヲ供シ位牌ヲ設ケザル迄モ其幽府ニ在テ冥福ノ加ハラシ

コトヲ且暮只管上帝及ヒ神明ニ祈念スルコトハ吾人が社會ニ對スル  
 義務又人タルモノ、義務否ナ孝子順孫ノ天良ニ於テモ打消スベカラ  
 ザル自然ノ情義ナリトス渠レ耶蘇教徒ハ胡<sub>ナ</sub>ニ爲ルモノゾ父母祖先ノ  
 靈ヲ視ルコト恰モ敝屣ヲ視ルガゴトク溘然一タヒ逝クバ追吊追遠ノ  
 事ハ更ニ關セザルモノ、ゴトシ抑モ何ノ意ゾ一步ヲ讓リ假令ヒ彼等  
 ガ假想スルゴトク其靈魂ハ直ニ天國ニ躋<sub>レ</sub>リトスルモ是亦甚々妄ナ  
 リ澆季ノ世ハ人天使ニアラズ安ソ直ニ升天スルコト可有之ンヤ陰  
 府ノ苦鍊ハ愈々切ナラン羅馬教會ガ煉獄トシテ死者ノ爲メニ追禱ス  
 ルノ教義ハ仍ホ稍々取ルベキトコロアルモ是スラ非理ナリトナシ妄  
 誕ナリトナシ一抹ニ付シ去リテ更ニ顧慮スルトコロナシ新教派ノ鹵  
 莽モ亦甚シト云フベシ願フニ基督教國ガ爭鬪日ニ甚シク干戈相踵キ  
 歴史ノ半面ハ殆ソト修羅ヲ以テ填充スルガゴトキハ其原因ヤ多端ナ

ルベシト雖モ抑モ父母祖先ノ靈ヲ追思追吊セザルヨリ風俗ノ非薄ヲ致セシハ其原因ノ一大分量ヲラン歟今ヤ我國百事更新ノ秋ニ當テ志士仁人ノ最モ宜ク三思スベキトコロト信ズ

抑モ此六階級ハ嘗ニ死後ニ於テ禍福ヲ判定スル所ナルノミナラズ吾人ガ現在修心ノ工夫上之ヲ忽視スベカラザル緊切ノ大關係ヲ有セリ

人若シ徒ニ心ヲ天上ニ馳騁シ思テ天外ニ逍遙セシムルトキハ心思乍チ孟浪ニ流レ奔放ニ失シ遂ニハ人ヲシテ増上傲慢世上ヲ睥睨シテ自ラ高ブルニ至ルベシ蓋シ修禪居士或ハ哲學者ノ古今東西多ク此弊窠ニ陷井ルモノハ此ニ由ラズンバアラズ周易ニ曰ク天道ハ虧盈而益謙ト耶蘇曰ク自ラ高ブルモノハ卑セラレ自ラ卑ウスルモノハ高クセラ

ルベシト夫レ大鵬ノ將ニ搏ントスルヤ先ツ其翼ヲ斂メザルベカラズ尺蠖ノ伸ントスルヤ先ツ其身ヲ屈セザルベカラズ靈性ノ天ニ冲ラン

コトヲ欲セバ先ツ謙虛自ラ下リテ泉下ニ罪ヲ待タザルベカラズ是レ安心立命ノ要訣ニシテ宗教ノ宗教タル所以哲學者流ノ心ヲ苦シメ身ヲ苦シメ一家ヲ苦メ終身満足ナクシテ已ム所以ナリ故テ以テ吾人神道ヲ信奉スルモノハ大國主ノ大神ノ爲ニ是レ倣ハザルベカラズ其言ニ曰ク僕ハ百足ラズ八十ノ隈手ニ隱レ侍リト是レ此ニ謙虛冲退ハ乃チ上天ノ嘉納スルトコロトナリテ幾クモ亡ク天ノ高市ニマテ參向セラル、ノ寵榮ヲ辱クシ給ヘリ吾人ハ此地下第六階級ニ謙退卑下シ自ラ視ルコト欲然タラバ上天ハ必ス提擧シテ高攀ノ榮幸ヲ與ヘ給ハン

而シテ心身ハ恆ニ平安ニシテ心性亦自ラ圓滿ナルベキナリ讀者ヨ須ラク此一段ハ反覆叮嚀ニ覽了シ捷徑ニ迷ハズ荆棘ニ陷ラズ上下回折スル天路ノ歷程ヲ誤ラザランコト切望ノ至リニ堪エズト云爾

第七階級

天地宇宙ノ最下底黄泉<sup>ヨミ</sup>ノ下段之ヲ月讀トハ云フナリ而シテ月讀ノ文字甚ダ不當ニシテ其本旨ト悖戾スルコト實ニ月讀ノ違ヒナリ廻テ世ノ所謂地獄トハ此處ノ謂ニシテヨミハ乃チ獄<sup>ヨミ</sup>ナリ而シテツキノ一字ニテ其意義十餘種ヲ包容セリ之ニ依テ東西神學上ノ疑問ヲ解釋スルモノ寡カラズ神語ノ妙用誰レカ驚歎セザランヤ抑モ地獄苛責ノ景狀ハ本邦ニ於テハ佛者夙ニ之ヲ繪畫ニシテ以テ衆生ニ目セシメシコト良々久シ而シテ近世ニ至テハ年々歳々目ニ狂レ耳ニ慣レシト之ニ加フルニ禪家ノ斷無ノ見ニ撼サレシトノ爲メニ遂ニ信心地ヲ拂ヒ復タ痛痒ヲ感ズルモノ無キニ至レリ近頃口基督教ノ漸ク我邦ニ傳播スルニ及ビテモ亦其談地獄ノ事ニ及ベハ輒チ一喙ニ付シ例ノ恐嚇手段トナシ縱令ヒ兒子婦人ヲ欺クベキモ敢テ士君子ヲ欺クベカラスト洒々落落々自ラ居ルモノ比々皆然ラザルハナシ是果シテ世道人心ノ利歟不

利歟問ハズシテ斷見ノ利ナク不利多キヲ知ルベシ然リ而シテ今ノ教育ヲ談ズルモノハ或ハ云フベシ幼童ヲ教導スルニ苟モ是クノ如キ事ヲ以テ恐嚇セバ頗ル天性ヲ傷害スルノ恐レチ免レズト其レ然リ然レレ之ヲ其肉情ヲ抑制シ我意ヲ滅殺セシムルノ効アルトニ比較スレハ未タ輒ク其利害ヲ判斷スベカラズ良シヤ其言ノゴトク兒童ニハ有害無益トナストモ是レガ爲メニ之ヲ社會ノ表面ヨリ一切擯斥セザルベカラズト云ハハ是レ猶ホ糖分ノ兒童ノ胃ニ害アルガ爲メニ社會ヨリ亦糖分ヲ廢除セザルベカラズト云フト奚ソ異ナラン世間豈此理アラシヤ大凡ソ地獄ノ事タル全世界ノ是認スルトコロニシテ人ノ理想上ニ由ルモ天啓ニ由ルモ確乎トシテ其必有テ證スベシ吾邦人獨リ頑トシテ之ヲ否拒スルトモ果シテ何ノ益カ之レ有シ殊ニ我神典ノ啓示スルトコロ誣ユベカラザルモノアリ設令ヒ信ゼザラント欲スルモ得ベ

カラズ左ニ之ヲ條陳セン看官之ヲ空見トバシ思フ勿レ

第一 焦熱地獄<sup>アツキヨミ</sup> 猛火ノ燄々タル嚮ヒ過クベカラズ蒸炒ノ沸々タル踏ミ度ルベカラズ端ナク人ハ紅爐ノ中ニ逐ハレ熱甌ノ中ニ驅ラレ叫喊泣號目モ當テラレヌ殘酷亡狀ノ仕置場ナルコト想ヒ見ルベキナリ西經ノ中ニ左ノ言アリ取テ以テ參考トナスベシ

前畧貧者死タレバ天ノ使者タチニ依テアラハムノ懷ニ送ラレタリ富メル人モ死テ葬ラレシガ陰府ニテ痛苦ヲ受ケ其目ヲ舉テ遙ニアブラハムト其懷ニ在ルラザロ<sup>貧者</sup>ヲ見テ喊叫<sup>サキ</sup>ヒ云ヒケルハ父アラハム我ヲ憐ミテラザロヲ遣シテ其指ノ尖ヲ水ニ蘸シ我が舌ヲ涼サシメ給ヘ我コノ火燄ノ中ニ苦メバナリアブラハム曰ケルハ子ヨ爾ハ生タリシ時ニ爾ノ福ヲ受ケ又ラ

ザロハ其苦ヲ受シテ憶ヘ今彼ハ慰メラレ爾ハ苦メラル、ナリト

亦以テ其情況ヲ徴知スルニ足レリトス

第二 寒冽地獄

<sup>ツメタキヨミ</sup>

寒冽地獄ハ前ト反對ニシテ剪々

タル霜風凜冽タル寒威膚ヲ裂キ指ヲ墮シ衣裾ノ被ルベキナク温煖ノ借ルベキナク奇寒若殺名狀スベカラザルトコロトス而シテ尙又入水セシメラル、者モ有ルベク灌泉セラレ、者モ有ルベシ其慘憺苛酷ノ狀ハ前ノ焦熱獄ト比スルニ過ルコトアルモ及バザルコトナキノ刑辟場タルヤ洞察スベキナリ是ニ就キ一場ノ話柄アリ往年キリスト教ノ傳教師ガ北洋アイスランドニ布教セシトキ反覆舌ヲ焦シテ地獄ノ火刑ヲ説テ悔改ヲ勸メシガ一日説教畢リ席散シテ後一人ノ老爺獨リ留リ教師ノ足下ニ俯シ悄然泣下謂

テ曰ク小可キヤカレハ今貴僧ノ説レシ地獄ヘ往カル、ナラバ幸福何ヲ以テ之ニ加ヘン貴僧今小可ノ爲メニ一日モ早ク其地ニ往カル、様祈禱シ給ヘト懇願シテ已マズ教師甚ダ訝リ更ニ之ヲ論シテ曰ク地獄ハ惡人ノ征クトコロニシテ善人ノ征クトコロニアラズ故人ハ早ニ及ンテ悔改メテ其苦患ヨリ拯救セラレザルベカラズ然ルニ吾子獨リ之ヲ求ム其何ノ意ナルヲ知ルベカラズ老爺歎歎シテ曰ク此地ノ光景ハ貴僧ノ今日撃スルゴトシ小可ハ此中ニ住スルコト五十年々漸ク老ヒ家又貧シク肉ノ寒ヲ凌クベキナク薪炭ノ煖ヲ取ルニ資ナク身將ニ凍ヘテ死ナントス寧ロ地獄ノ火爐中ニ浴シテ死セハ復タ遺憾ナシ故ヲ以テ只管之ヲ求ムルノミ乞フ憫諒セヨト教師遂ニ論スニ辭ナカリシト云フ畢竟スルニキリスト教理ノ不完全ヨリ是破綻ヲ生セシモノニテ地獄ノ刑罰豈止ニ

火刑ノミト云フノ理アラシヤ現世ニスラ往昔火責メニ併セテ水責メノ拷具アリシナリ况ンヤ天地ノ一大刑獄ニ於テヤ其責メ具ノ備ハラザルナキコト固ヨリ喋々ヲ須タザルナリ

第三 磔刑地獄

ツキヨミ

乃チ磔刑ノ塲ニテ交叉木上ニ懸ケ鎗

類ヲ以テ仰キ突クノ謂ヒナランイエスキ督ノ十字架刑トハ違フベシ何トナレバ彼ノイエスキノ十字架ハ釘ニテ手足ヲ打附ケシモノニテ突シモノニアラザレバナリ

第四 突地獄

ツキヨミ

前ト大同小異ナルベシ而シテ此刑ハ錐

ノゴトキモノニテ刺シ殺スモノナラン

第五 搗地獄

ツキヨミ

巨臼中ニ混入シ鐵杵ヲ以テ搗キ碎クヲ

謂フナルベシ

第六 劈裂地獄

ツキヨミ

車裂ノ刑即チ四支ヲ劈キ困苦備

サニ嘗メシムルノ處タリ

第七 唾辱地獄

ツバキヨミ

其面ニ唾キセラル、ノミナラズ叱

咤垢辱至ラザルナキ殆ンド人ノ耐ユベカラザル汚辱ノ刑場ナリ

第八 煎烙地獄

ツ、ミヤキヨミ

爲銅柱以膏塗之加於炭火之上

使有罪者緣之足滑<sup>ニソラツ</sup>墜<sup>ツ</sup>火中名曰炮烙之刑支那史ヲ讀ムモノ此ニ

至レハ未ダ嘗テ毛髮凍然タラズンバアラズ而シテ誰レカ思ハシ

人ハ皆其淵ニ臨ンテ墮ザルモノ只一綫ノミ

第九 無情地獄

ツレナキヨミ

此無情地獄ハ百般罪人ヲシテ苦

慘ヲ極メシムルトコロニシテ其景狀ハ固ヨリ悉ク述ブルコト能

ハズト雖<sup>レ</sup>其一端ヲ舉グレバ或ハ鞭撻セラル、モノアルベシ或

ハ重荷ヲ負フテ高ニ登リ遠キニ逐ハル、モノアルベシ或ハ常ニ

白刃爭鬪ノ中ニアルモノアルベク或ハ闇黒幽室ノ中ニアルモノ

アルベシ其他類推セバ勝テ算フベカラズ

第十 苛酷地獄

ツラキヨミ

前々ヨリ開陳セシ處刑一トシテ皆

苛酷ナラザルハナシト雖<sup>レ</sup>其苦難ヤ復タ永遠ニ亘ルモノニアラ

ズ<sup>ス</sup>下<sup>ス</sup>穢地獄ツキヨミニヨリテ知ルベシ俗語ニモ蛇<sup>ヒ</sup>デナイゾヨ生<sup>キ</sup>

殺シト緩漫不斷ニ苛責セラル、ヨリツラキハ莫シ蓋シ此處ノ苦

ハ或ハ蛇蝎ニ纏ハレ若クハ吮ハレ或ハ蜂ニ螫カレ或ハ刺棘ニ刺

サレ或ハ蛆蟲ニ侵サル、等戲ル、ガゴトク愚弄スルガゴトク悠

々不斷ニ艱苦ヲ蒙フルノトコロタリ

第十一 貫首地獄

ツラヌキヨミ

所謂獄門ニ梟首セラル、トコ

ロナリ蓋シ各自千狀萬態ノ刑ニ處セラレ其終結ニ及ビ更ニ各自

ノ罪狀ヲ榜示シテ梟首スルトコロナラン

第十二 穢獄

ツキヨミ

從來基督教家ハ其經文中ノ一二語ヲ根

據トシテ痛苦無盡ノ説ヲナスガ故ニ晩近ニ至リテハ異論湧騰シ  
 爲メニ其教理ノ全般ニモ信用ヲ欠クニ至レリ彌爾氏曰ク基督教  
 チ駁スル説ノ最モ有力ナルトコロハ此地獄ノ痛苦無終ノ定説ニ  
 關スルモノナリ他ノ諸點ニ就テノ反論ハ之ニ比スレバ卑微ニシ  
 テ殆ント反論ト稱スルニ足ラズト夫レ地獄ノ苦刑ハ決シテ無終  
 無盡ノモノニアラザルコト此神語ノ穢キ盡クルト云フ意義ニテ  
 一刀兩斷明カニ其疑獄ヲ斷ズルコトヲ得ベシト信認ス  
 抑モ此階級ヲ疣贅地獄 ツキヨミト訓ト做ト得ベシ上帝造化ハ何故ニ  
 此殘虐無狀ノ苦境ヲ設ケラレシヤ神ハ慈愛者ナリト聽シガ甚々矛盾  
 撞着スルニアラズヤトハ世人ノ往々怪訝ヲ免レザルトコロナリ其疑  
 團ヤ蓋シ一理ナキニアラズ然リ而シテ此神語ヲ玩味スレバ此界ヲ鑄  
 造シ且攝理セラル、コト上帝ノ大御心ニアラザルコト明了ナリ其所

以ハ疣贅乃チツキハ元來本體以外ノモノニテ其無キモ亦敢テ不可ナ  
 ルナシトノ義理アリ乃チ造化ノ始メヨリ存在スルニ相違ナキモ現ニ  
 乾坤ノ形骸ノ雞子様ナルヲ觀ルニ本體ノ漸ク垂下シテ成レルモノナ  
 ルコト一目シテ親易シ唯夫レ此界ノ必用トナリシハ世降り道微ニシ  
 テ上帝ノ明命ヲ遵奉スルモノ極メテ寡々タルニ至リ於是乎天道是非  
 ノ公義ヲ顯章セザルベカラザル萬已ムヲ得ザルヲ馴致セルガ爲メニ  
 倍々必要トハナレルナリ夫レ此界ヲシテ閑散無事ニ苦マシムルモ繁  
 劇多忙ニ趨カシムルモ唯吾人が現世ニ於テ風紀ヲ皇張スルト否トニ  
 由ル之ヲ換言スレバ上帝ニ從順スルト其旨ニ悖逆スルトニ由ル  
 ノミ豈勉メザルヲ得ンヤ吁上帝ノ慈愛ト威嚴ト是ニ由テコソ其萬分  
 チ窺ヒ知ルベシ

收結説



吾人ハ神典ニ據テ已ニ宇宙ノ總躰ヲ知レリ吾人ハ神典ニ據テ已ニ天地ノ創始ヲ知レリ吾人ハ神典ニ據テ吾人が現界ト他界トノ關係如何ヲ知レリ吾人ハ神典ニ據テ吾人ハ未來幸福ノ如何ニシテ求ムベク其進路ノ如何ニシテ進ムベキヤヲ知レリ吾人ハ神典ニ據テ已ニ信實必罰福善禍淫因果應報ノ吾人が未來ニ儼在シテ毫モ誣ユベカラズ毫モ濫ルベカラザルヲ知レリ而シテ天ノ磐船ハ吾人が爲メニ已ニ駛セリ天門ハ吾人が爲メニ已ニ開ケリ龍躡鳳舞宇宙ニ翱翔シ龜齡鶴算宇宙ト終始スベキ大自由大自在ハ吾人が眼前ニ懸リ吾人が頭上ヲ叩ケリ吾人安ソ目ヲ拭ヒ頭ヲ擡ケザルベクンヤ夫レ吾人が此世ニ棲息スル其間ハ瞬時ニシテ古人ノ所謂白駒ノ隙ヲ過グルガゴトキノミ左ハ去ナガラ吾人が存在ハ義務ナク責任ナキ彼ノ優悠タル行樂ノ過客ニハアラザルナリ社會ニ君上ニ祖先ニ親戚ニ家族ニ對シ及ビ自己ニ畜

類ニ對スル義務本分ハ積ンデ山ヲナシ疊ンテ岡ヲナシ吾人ノ生涯ハ其レ誠ニ繁務ナル哉吾人が此庶般ノ義務ハ皆本ト上帝ニ對シテ責任ヲ負擔スルモノナリ是ヲ以テ吾人ハ如何ニシテ其義務ヲ盡シ如何ニシテ其責任ヲ全フスベキトノ規制標準ノ必用ヲ感ズ而シテ吾人ハ原ヨリ天賦ノ良心ヲ有セリ賴テ以テ是非ヲ辨ズベシ賴テ以テ正邪ヲ糺スベシ復タ外制ヲ待タザルモノ、ゴトシ然リ而レヒ人ノ孱弱ナル人ノ蒙蔽ナル彼ノ不善改ムルコト能ハズ善ヲ知テ爲スコト能ハズトハ東西聖賢ノ同一慨歎辭タリ是レ單枯ナル良心ノ頼ムベカラズ而シテ終身道德ハ宗教ニ基カザルベカラザル所以ナリ

我神典ハ化工ノ妙ヲ著シ幽界ノ秘ヲ發シテ復タ餘蘊アルコトナシ然リ而シテ倫理道德ノ事ハ較々神蹟中ニ隱見スト雖ヒ未タ以テ復雜ナル世態人情ヲ控制スルニ足ラズ是レ或ハ神典ノ缺典ニハアラザル乎

將又我邦未タ嘗テ聖人ヲ出カズ爲メニ固有ノ名教絶テナシ之ヲ如何  
 スベキトハ蓋シ議者ノ多クハ疑問ヲ免レザルトコロナルベシソレ倫  
 理道德ノ著シク神典ニ見レズ且建國以來聖者ノ出テ舜倫ヲ叙述スル  
 モノナカリシハ事實ナリ而シテ吾人ハ斷ジテ云フ是レ乃チ神典ノ神  
 典タル所以皇國ノ皇國タル所以ナリト蓋シ我上世ハ人事甚タ單純ニ  
 シテ隨テ風俗ハ淳朴人情ハ敦厚心靈ハ亦概チ清淨純潔ニシテ殆ンド  
 神侶ト相伴シ此間ハ且暮日常矚目聽耳スル兩間ノ森羅萬有特ニ鳥獸  
 花卉ハ吾人が祖先ヲ感動シテ之レガ師保トナリ之レガ良友トナリシ  
 ヤ想フベシ

黄昏群飛ノ鳥ヲ流觀シテハ反哺ノ孝ヲ大切トヒシナラン久方ノ雲井  
 ノ雁ノ序ヲ立テ相頼ルヲ咏メテハ弟兄願影ノ情切ナリシナラン秋峯  
 風冷ニシテ麋鹿ノ呦々侶ヲ呼フノ聲ハ交友ノ情誼ヲ厚シ春塘艸綠ニ

シテ牛群ノ澤々犢ヲ舐フルノ狀ハ慈父慈母ノ恩愛ヲ深クシ時ヲ忘レ  
 ヌ路傍一莖ノ董花ハ信義ノ重ンズベキヲ勸メシナラン江畔島々依々  
 ノ柳枝ハ謙遜ノ尙フベキヲ訓ヘシナラン凡ソ風物ノ人ノ涼シキ心ニ  
 感觸スルハ今モ昔モ變ラヌ同一ノ趣味ナリト是ニ由テ天真ヲ窺ヒ  
 知リシ偉人哲士ハ洋ノ東西其人ニ乏シカラス花ニ啼ク鶯ハ妙經ヲ誦  
 シ水ニ住ム蛙ハ和歌ヲ吟ズトカヤ毛詩三百篇一トシテ感奮ヲ鳥獸草  
 木ニ比興セシモノナラザルハ莫シ熊澤藩山ハ嵯峨野ノ奥ニ閑居シ時  
 ニ口吟シテ云フ「羅月松風知天真」ト芭蕉翁ノ秀吟ニモ「古池や蛙飛  
 こむ水の音」ト米國ノ詩人ブライアントハ雁金ノ聲ヲ聽テ一詩ヲ賦セ  
 リ「大空ノ端ヨリ端ニ雁金ヲ導キ給フモノコソハアラシ絶セヌ世  
 ノ中ニ獨リ旅ニク我ヲシモ直ナル道ニ知ルベスル天津御親ト思フ嬉  
 シサ」ト吾ガ武居保氏ノ近作ニ云フ「池ノ邊リニ啼ク蛙聞ク人イカ

ニ答ユシテ遊惰ノ夢ヲ醒ストテ神ノ調ブル鼓カモサテモ妙ニツ聞ヘ  
 ケル可南ト以上ノ諸什ハ碎片ニ過ギスト雖ヒ三誦スレバ音響鏗然タ  
 リ琅然タリ  
 風物ハ人ヲ樂マシメ人ヲ悲マシメ人ヲ泣カシメ人ヲ笑ハシメ且ヤ人  
 テ鼓舞シ人ヲ訓誡シ人ヲ教導シテ已マザルモノヅカシ天父ノ恩慈泣  
 テ謝スベシ之ヲ要スルニ人ノ心ニシテ澹泊靜穩ナルトキハ矚目感耳  
 一ニ我が則ナラザルハナキナリ是レ我神典ノ神典タル所以ニシテ神  
 代ニアリテハ固ヨリ仁義ノ名稱必用ナク人代ニ在テモ亦世ノ大ラカ  
 ナル人ノ神聖ナル(上古男女ノ關係ノ嚴密ナラザルハ東西各國皆然ラ  
 ザルナシ今日ノ見識ヲ以テ議スルハ甚タ妄ナリ)倫理ト云ヒ道義ト云  
 フガゴトキハ差程必要ヲ感ゼザリシモ亦宜ベナラズヤ抑モ本邦ハ曾  
 テ他國ト情態ヲ異ニシ神州ノ號敢テ夸稱ニアラザルコトハ具眼之士

ノ肯諾スルトコロナリ其上世ハ人々家々ニ神明ヲ齋キ祀ルノ風極メ  
 テ隆ニシテ神ノ聖靈ハ洋々乎トシテ充溢シ愛ト義トニ充サレ仁義ノ  
 本跡道德ノ本領ハ夙ニ占有スルトコロニシテ時ニ會々干戟ノ事アル  
 モ大率テ人々相愛シ隣保相助ケ鼓腹擊壤人世ノ艱難ハ多カラサリキ  
 又何ツ仁義ト云ヒ道德ト云フガゴトキヲ待タンヤ而シテ世ハ漸ク澆  
 季ニ傾向シ仁義ノ名道德ノ稱ノ遂ニ無ルベカラザルニ及ンテ始メテ  
 其名稱ヲ周孔ノ道ニ假リ又之ヲ浮屠ノ教ニ取ルニ至レリ是レ皇國ノ  
 皇國タル所以ニシテ本ト仁義ノ本跡ヲ領有シ唯其名稱ヲ彼レニ假テ  
 我ヲ補ヒシノミ又別ニ聖者ノ出テ舜倫ヲ叙述スルモノナカリシモ敢  
 テ不便ヲ感ズルコトナカリシナリ  
 然リ而シテ我國三十年來形勢頓ニ一變シ眞率ノ時代ハ已ニ去テ維駭  
 ノ時代爰ニ來レリ世事ハ日ヲ逐フテ繁縟ニ趨キ人心ハ年ヲ逐フテ智

巧ニ流レリ是レ本ヨリ時勢ノ然ラシムルトコロ敢テ嫌フベキニアラ  
 ズト雖モ亦之ヲ堤防シ之ヲ疏通シテ中道ヲ得セシメザルベカテズ是  
 時ニ當テハ固有ノ神道ヲ祖述シテ上帝及ヒ神明ニ信賴スルノ良風美  
 俗ヲ惹起シテ頽瀾ヲ支障セザルベカラザルハ勿論併セテ龍孫ヲ擁護  
 シ道義ヲ講述シテ以テ中流ノ砥柱トナスベキヲ要ス而シテ其道義ノ  
 標準ハ如何セバ則チ可ナラン歟蓋シ道義ノ廢滅シ風紀ノ壞亂スルノ  
 本ハ一人一社會ガ肉慾ヲ放縱ニスルニ始マリ姦猥ヲ嗜好スルニ基ク  
 原ト夫レ吾人々類ニ罪惡ノ分子ノ入リテ此境界ニ陷非リシ其元々ハ  
 畏クモ吾人が形質ノ祖先タル岐美二柱ノ陰陽媾遇ノ事アリシテ罪惡  
 ノ分子ノ濫觸トス尋テ其應報トシテ美神ハ黃泉ニ墮落シ給ヒシニア  
 ラズヤ殷鑑昭々トシテ敢テ遑ユベカラズン吾人が靈性ヲ痲痺セシ  
 メ吾人が心情ヲ腐敗セシノ吾人が社會ヲ壞亂セシムルモノ一ニ姦猥

ヨリ來ラザルモノナシ古ヘ色慾ヲ忘八ト云ヒシナリ蓋シ忘八トハ孝  
 悌忠信ヲ忘却シ禮義廉耻ヲ却忘スルノ云ヒナリ苟モ此姦猥猥褻ノ汚  
 風ヲ社會ヨリ驅除シ掃蕩シナバ風紀得テ張ルベク元氣得テ復スベク  
 仁風得テ洽カルベク廉恥得テ勵ムベク長幼得テ序ツベク夫妻得テ和  
 スベク軍卒得テ振フベク藝術得テ進ムベク是クノゴトクナレバ忠信  
 ナリ禮義ナリ其外喋々セズシテ自ラ規矩ニ中リ繩墨ニ叶ハンコト必  
 セリ是ヲ之レ圖ラズシテ徒ラニ道義ヲ講演ストモ將タ又何ノ益カ之  
 レ有ラン是レ仍ホ所謂沙上ニ家ヲ建ルノ愚ヲ學ブモノニシテ到底徒  
 勞ニ屬センノミ而シテ固ヨリ道義ノ標準ヲ要セズト云フニハアテズ  
 必ズヤ成文ノ典籍ナカルベカラズ竊カニ推考スルニ我邦早晚一偉人  
 ノ崛起シ一機軸ヲ出シテ道義ヲ祖述スルモノアルベキヤ天運ニ於テ  
 モ人事ニ於テモ其兆候ハ既ニ已ニ伺ヒ察スベキナリ先ヅ今日ヲ處ス

ルノ策ハ其本源ノ天ヨリ出ヅル東西聖人ノ垂訓金言ヲ拔萃シテ一編  
 ノ修身書トナシ之ヲ道義ノ標準トナスコト最モ妙ナルベシ周公孔子  
 ノ言固ヨリ吾人ノ遵奉スベキモノ一ニシテ足ラズ釋氏ノ言亦然リ而  
 シテ西聖基督ノ山上ノ垂訓ニ至テハ人ノ肺肝ヲ動スモノ鮮カラズ一  
 世ナホレテハ該教不信ノ人士ナリ壯圖一蹶セントヘレナ島ニ流竄  
 セラル、ニ及ノテ身心少シク寧靜ナリシニヤ一日山上ノ垂訓ヲ熟讀  
 シ肅然衣襟ヲ正シ其宏大優麗ノ言々句々ニ驚歎シ其會テ全歐ノ山河  
 ヲ蹂躪シ全歐ノ君王ヲ鞭撻セシ驕傲不屈ノ強項モ覺エズ識ラズ凡上  
 ニ睿キシト云フソレ大海ハ細流ヲ擧バズ苟モ取テ以テ化育ヲ贊クベ  
 キモノハ包容寛大之ヲ容レ之ヲ載スルニ於テ何ノ憚ルトコロアルベ  
 キ鋪島の大和錦に緘そへて唐紅の色そはへなるトハ豈止儒教ノミノ  
 謂ヒナランヤ况ンヤ時アリテ來ルモノ人力ノ得テ防ク可ニアラザル

ニ於テテヤ是レ我古ヘ振リノ大ラカナル御國ノ御國タル所以ナリ  
 爰ニ一步ヲ進メテ真正ノ宗教ハ人事以上ニ跨リ唯其綱領ヲ提擧スル  
 ノミニシテ其細故ニ關涉スルモノニ非ザルコトヲ辨明シ以テ反覆議  
 者ガ我神典ノ世教ヲ垂示セザルヲ瑕瑾トシテ心ニ歉然ヲ懷クモノ、  
 爲メニ其疑團ヲ解カザルベカラズソレ真正ノ宗教ハ萬世ヲ貫キ萬國  
 ニ亘リ一申透徹皇路坦蕩固ヨリ古今ニ依リ東西ニ依リ圓柄方鑿彼此  
 異同アルヘキモノナラズ真正ノ宗教ハ吾人ニ宇宙ノ創始及ビ其經歷  
 ヲ開示シ若クハ天界泉下ヲ問ハズ渾テ靈界ノ光景ヲ開示スルモノナ  
 リ真正ノ宗教ハ吾人ガ罪愆ヲ解除シテ上帝ノ御座ニ引致シ父子ノ靈  
 縁ノ已ニ絶ントスルヲ繫維シテ其元ニ復セシムルモノナリ真正ノ宗  
 教ハ吾人ニ世縁ノ軛荷ヲ解シメ吾人ニ天上ノ自由ヲ占メシメ浩々悠  
 々大虛ト壽ヲ齊フシ天地ト躰ヲ同ウシ生死別ナク神人合一ナラシム

ルモノナリ真正ノ宗教ハ凡ソ吾人ガ同胞ハ尊トナク賤トナク老トナク少トナク智トナク不智トナク皆平等均一ニ其澤ニ浴スルヲ得ルコト雨露ノ恩ノ人ヲ擇バザルゴトキモノナリ而シテ倫常倫理即チ世教ノ事ニ至テハ固ヨリ重大ハ則チ重大ナリト雖ヒ時代ト邦國ト境遇トニ依リテ多少變易差違ナキコト能ハズ現ニ東人ノ敬チ重ンシ西人ノ愛チ重ンズルガゴトキ東人ノ君臣父子ノ關係ヲ重ンシ西人ノ夫妻ノ關係ヲ重ンズルガゴトキハ判然タル差別ナリ其細末ニ至テハ英ノ風紀ハ米ノ風紀ト異ナリ獨ノ準繩ハ佛ノ準繩ト異ナリ是レ皆政牀ノ異同ニ依テ亦世教ノ異同ヲ生ズルモノニテ彼ノ王ヲ尊ブベシ上ニ在ルモノニ從ヘトハ西經中世教ノ眼目ニシテ帝國ノ下ニ在ルモノニハ金科玉條ナレドモ共和國ノ下ニ在ルモノニハ碎礫片瓦トシテ顧ミス其他往時ノ是トスル所今日ノ非トスル所トナリ往時ノ非トスルトコ

ロ今日ノ是トスル所トナリ或ハ夫ノ遺帛ニ轢死スル妻女アリ或ハ棄老國サヘアリト聞ク夫レ是クノゴトク道義ノ異同善惡ハ千差萬別ニシテ殆ンド枚擧ニ追ナシ畢竟スルニ道義ハ時代ト境遇トニ因リテ其宜シキヲ制シテ變更セザルベカラザル原質ノモノタルコト知ルベシ因是觀之宗教ト世教トノ關係ハ相須テ密着スルモノナレドモ亦互ニ分離獨立ヒシメザルベカラズ以上説クゴトク宗教ハ時世ニ因テ動クモノニアラズ世教ハ時世ニ因テ動カザルベカラズ尙シ之ヲ混淆シテ分離セシメザルトキハ時世ノ變遷ニヨリテ道義上ニ鵠背ヲ生ズルガ爲メニ宗教マデモ變更セザルベカラザルノ感ヲ生ジ遂ニ不信不遜ノ禍害ヲ一世一國ニ嫁スルノ適例ハ獨リ西史ニ昭々タルノミナラズ現今歐米ノ風潮ニ於テモ亦徵スベシ願フニ耶蘇教ガ人ノ國ニ入テ其教ヲ布カント欲スルニ不文蕃野ノ域ハ去來知ラズ苟モ數千年間ノ歴史

有シ倫理道德ヲ容クル邦國ニ入テ其風ヲ移シ其俗ヲ易エシメント  
 欲ストモ遂ニ目的ヲ達スルコト能ハズシテ却テ人ノ國ヲ攪亂スルニ  
 過ギサル所所ハ之ニ職由セズンバアラズ苟モ宗教ト世教トヲ分離シ  
 テ其宣教師ハ專ラ上帝ノ大能ト慈愛ト威嚴トヲ説キ論シ人ノ迷ヲ導  
 キ人ノ蒙ヲ啓テ始ニ反リ本ヲ求メシメ其風俗習慣若クハ倫常倫理ノ  
 著シク天道ニ悖戾スルモノヲ除クノ外ハ勉メテ之レヲ保存セシメナ  
 バ人ノ國ヲ益シ人ノ靈ヲ助ケ其恩惠如何ツヤ計此ニ出デズ徒ニ一部  
 ノ經典ヲ携ヘ來テ其風俗ノ如何其教ノ如何ヲ察セズ皆悉ク之ヲ其範  
 圍内ニ籠絡セント欲スルモ勢得ベカラサルナリ畢竟スルニ其經典ガ  
 宗教ト世教トヲ混淆スルノ愆ニ歸セサルヲ得ズ我神教ハ則チ自ラ人  
 事以上ニ跨リ只誠訓ヲ隱微ノ中ニ顯シ且人事ノ綱領即チ仁義ノ靈能  
 活力ヲ付與シテ人ヲ保庇スルノミニシテ其條目ハ時代ニ準シ邦國ニ

應シテ選擇スベキノ餘地ヲ存スルコト洵ニ驚クベク感ズベキニアラ  
 ズヤ議者以テ如何トナス乎蓋シ我神典ノ世教ヲ垂示セザルヲ以テ瑕  
 瑾トスルノ非ナルヲ悟ルニ於テ餘リアリト信ズ

之ヲ要スルニ上帝及ビ神明ニ信頼シテ以テ其靈性ヲ放任シ其恩寵ヲ  
 蒙フリ又我帝室ト休戚ヲ共ニシ又天ヨリ出ル道義ノ標準ヲ臆認シテ  
 少モ懈ルコトナケレバ吾人が幸福得テ量ルベカラズ而シテ仍ホ是ノ  
 ミナラズ略ホ前々ニモ辨論セシゴトク吾人人生一己人ニモ一家族ニ  
 モ一社會ニモ一大幸福ノ源泉タル緊要緊事ノ缺クベカラザルモノア  
 リ一週一日ノ休養是ナリ夫レ此ノ休養タルヤ人生自然ノ制規天地造  
 化ノ典故ナリ西人諸ヲ彎橋ノ要石ニ譬フ吾人が此休養ニ於ルハ枯木  
 ノ春暄ニ遭フガゴトク駟馬ノ羽翼ヲ付ルガゴトク生命アリ働カアリ  
 テ澁滯疲勞スルトコロナク處世ハ極メテ易々ノ中ニ得ノノミ一己人

ニシテ既ニ然リ之ヲ一家族一社會ニ及ホストキハ其幸福亦得テ量ル  
 ベカラザルナリ西人安息日ヲ守ルト否トニ由テ一國一洲ノ文野ヲト  
 知スルノ尺度トナスコト良ニ以ヘアリ人或ハ謂ラク是レ乃チ西教ノ  
 誠律ニシテ我神道ニハ少シモ關係ナキトコロ蹈襲モ亦甚クシカラズ  
 ヤト居レ予レ語ラン已ニ前總説ニ於テ曲サニ辨明セシゴトク天地ハ  
 七階級ニ區畫セラル、モノニシテ其中首階級ヲ一虛位トシテ上帝自  
 ラノ聖坐トナシ給ヘリ是レ廻チ一週七日ノ首日ヲ一虛日トシ上帝自  
 ラノ聖日トナシテ此日ヲ守ラザルベカラザルノ大典故トス何ゾ西教  
 ニ是レ働ハンヤ却テ西教ノ六日間ニシテ天地ヲ造ルト云フガゴトキ  
 荒唐蒙昧ノ古言モ我神學ノ闡明ニ賴テ其理初メテ晰然ナランノミ豈  
 自他ノ大慶ナラズヤ吁吾人ハ須ラク上帝及ビ天照大神大國主ノ存在  
 ヲ認メ靈性ノ不滅ヲ悟リ罪ヲ悔ヒ愆ヲ謝シテ不淨ヲ禊祓シ以テ上帝

及ビ神明ニ今世未來ヲ信賴シ奇靈幸靈ノ恩寵ヲ求メ皇上ニ奉事シテ  
 皇風ヲ張リ道義ヲ肅認シテ世事ヲ處シ休養日ヲ忘レズシテ上帝ノ恩  
 惠ヲ謝セザルベカラズ吾人が能事於是乎畢ランノミ



明治廿二年十月二十五日印刷  
明治廿二年十月二十八日出版

定價三十錢

著述者  
兼發行者

村岡素一郎  
東京市本郷區根津  
須賀町三番地

印刷者

猪瀬傳一  
東京日本橋區西川  
岸六番地

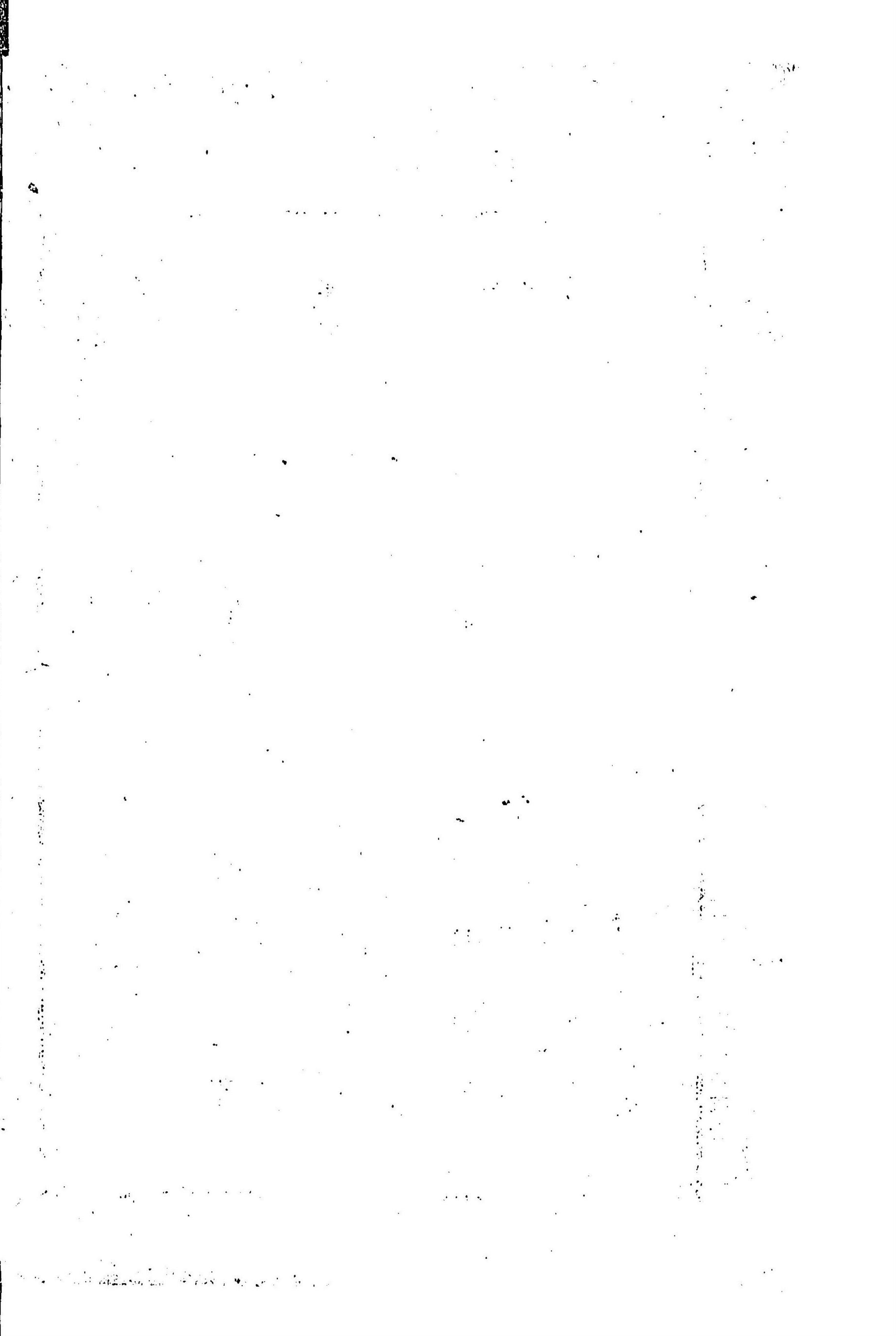
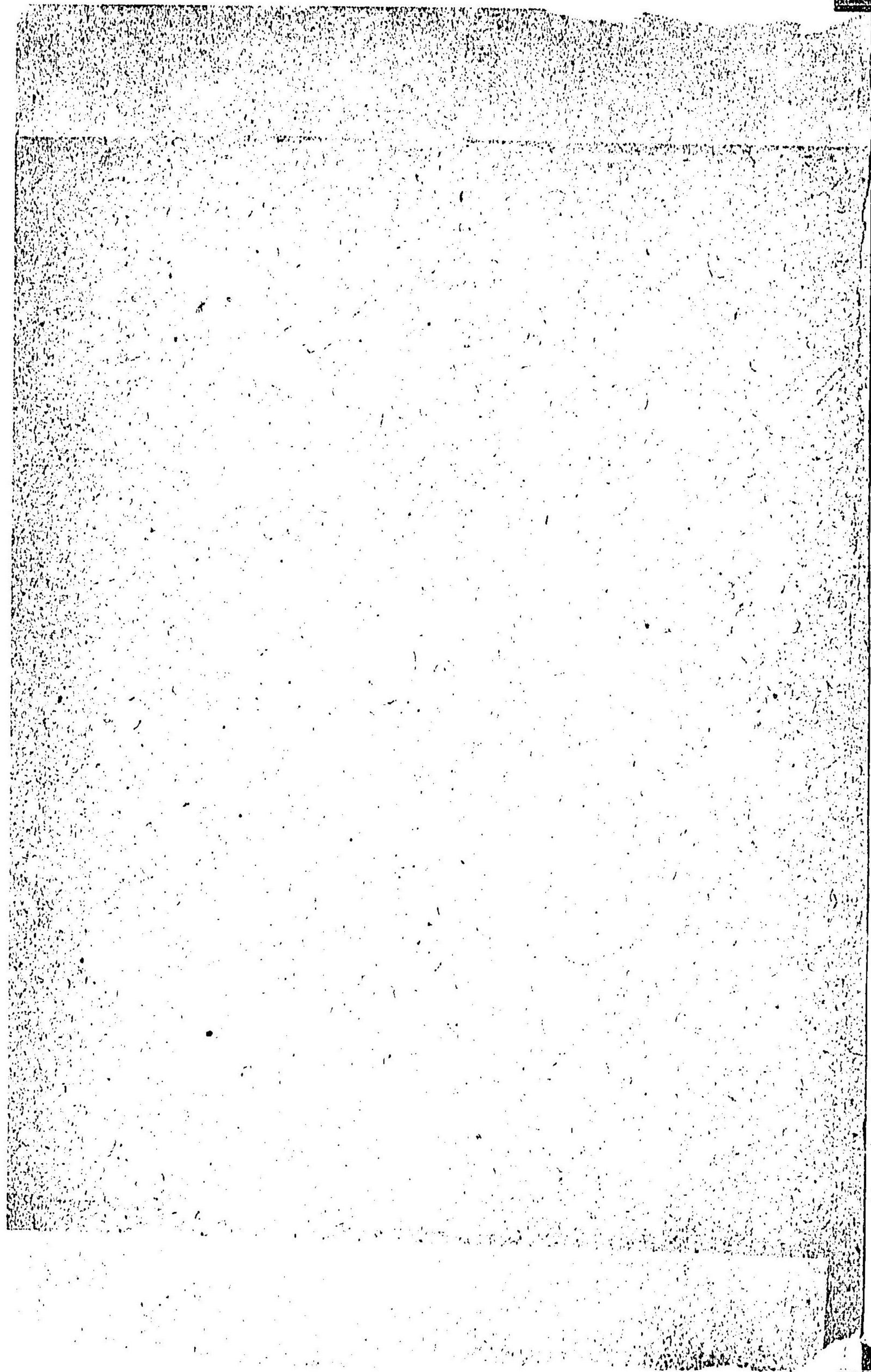
賣捌所

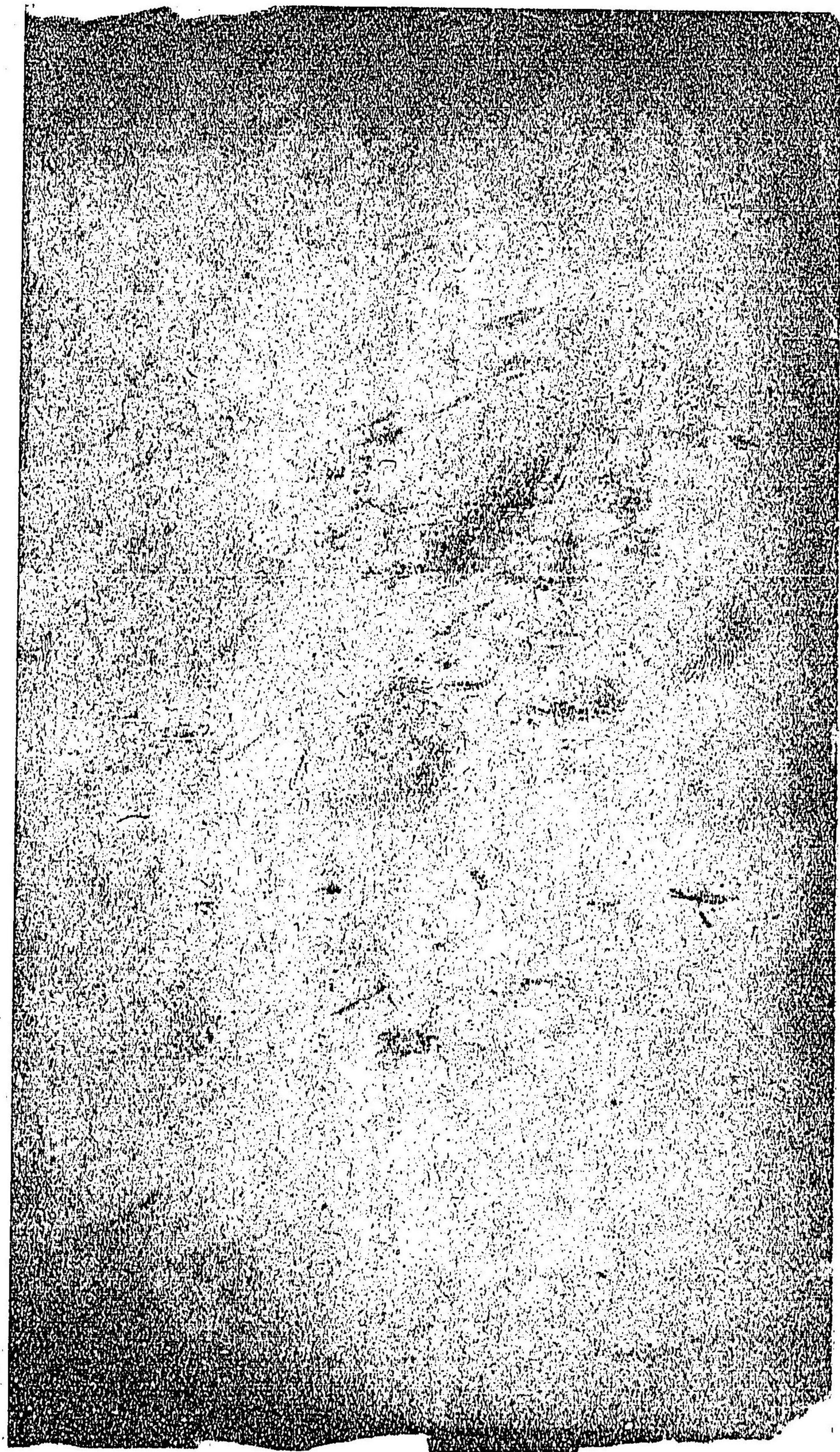
吉川半七  
東京橋區南傳馬  
町一丁目十二番地

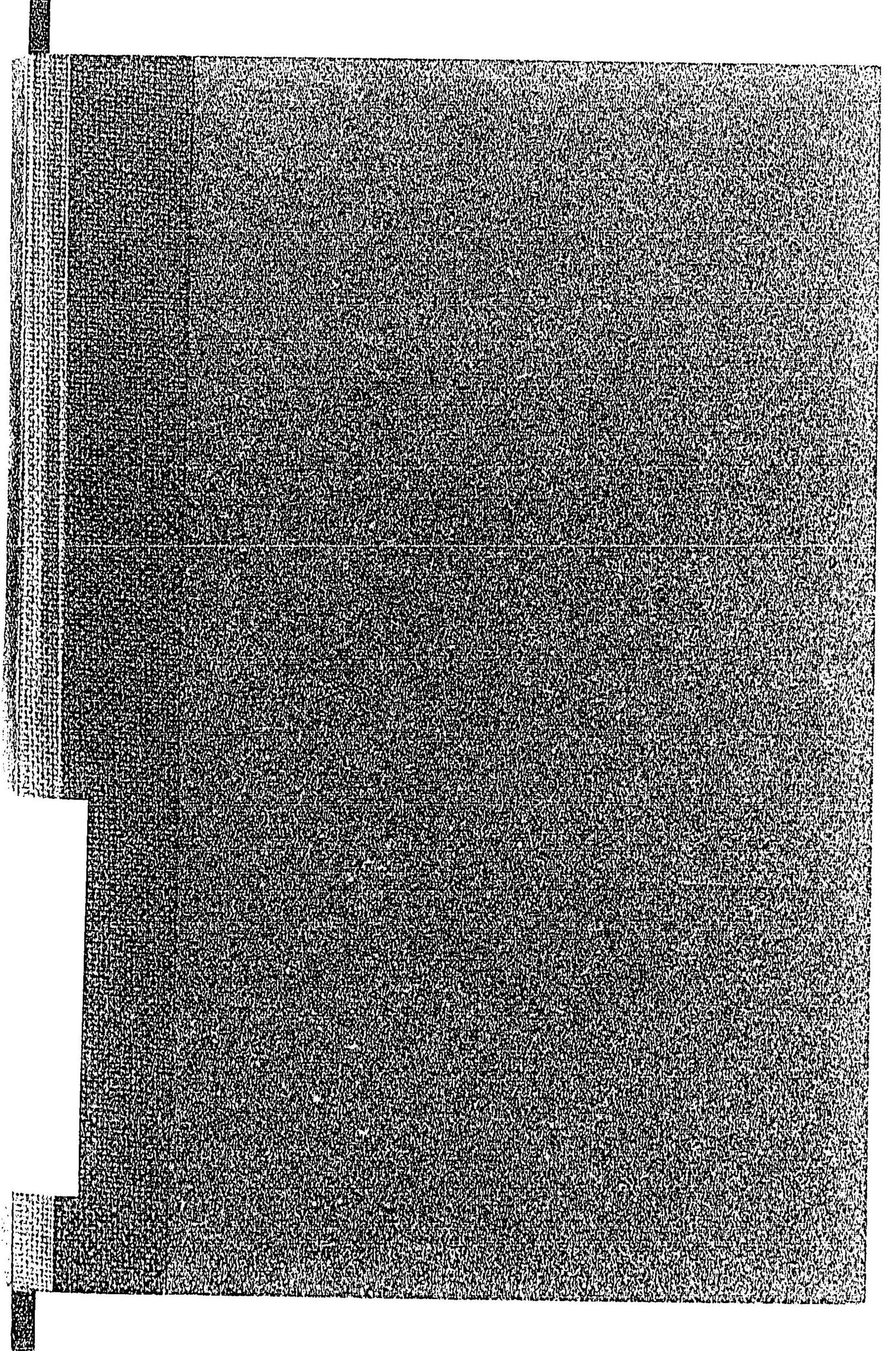
同

哲學書院  
東京本郷區本郷六  
丁目五番地

版權  
所有







特 18

24

日本神学新説

国立国会図書館

014507-000-9

特 18-24

日本神学新説

村岡 素一郎 / 著

M22

ABB-0885

